

ウィリアム・G・ジョンソン 著
宮本安喜 訳

本物の アドベンチスト 教会

イエス・キリストがすべて



Authentic Adventism

本物のアドベンチスト教会

—イエス・キリストがすべて—

ウィリアム・G・ジョンソン 著

宮本安喜 訳

本書をスティーブに捧げる

私の共労者、友人

本物のアドベンチスト

◆ 目次 ◆

前書き……………4

第Ⅰ部 導入

第1章 大麦若葉とあごひげ——誰が決定するのか?……………8

第Ⅱ部 本物のアドベンチスト教会のしるし

第2章 触れてはいけない話題……………14

第3章 壁のない教会……………27

第4章 心の宗教……………42

第5章 光のような透明さ……………58

第6章 現代の真理……………72

第7章 触れてはいけない他の話題……………85

第8章 神の国の招き……………98

第9章 神様の愛、私たちの愛……………113

第Ⅲ部 締めくくりの言葉

第10章 2人の女性、二つの席……………130

最後の言葉……………142

*本書は、Authentic Adventism by William G. Johnsson (Oak & Acorn Publishing) の全訳です。英文初版は2018年9月に発行。

前書き

私はバラの世話をやめてこの本を書いています。

この本をもともと書く計画はありませんでした。書こうとも思っていませんでした。もう1冊の本を書くというのは、非現実の生活に戻ることを意味したからです。徹夜の作業、わくわくするような新しい考え、きつく骨の折れるような作業が続きます。そして終わった後には、怒れる聖徒たちが待ち受けています。

しかし、その“声”は言ったのです——「本をもう1冊書きなさい」と。しかも最初の言葉を書く前に、その“声”は本のタイトルまで私に告げました——「本物のアドベンチスト教会」

この本は、『私たちはどこに向かっているのか？——サン・アントニオ後のアドベンチスト教会』の続編になります。前書は想像以上に大きな反響を呼び、私も驚いてしまいました。内容が時宜にかなったものであったからではないかと感じています。多くの牧師、信徒が感じていながら声にすることを恐れていた事柄を声にしたからです。

しかし、バラ園ではバラの匂いがします。小さな花でも美しい。妻のノエリーンとはワシントンDCに34年間住みました。バラを育てようとしたのですが、それは、菌、黒ずんだ葉、カブト虫との戦いでした。綺麗な花を咲かせるには、命と枝に悪臭の強い毒を含むスプレーをかけなければならなかったのです。

現在、私は南カルフォルニアに住んでいます。雨も降らず、太陽が毎日輝いています。スプレーをかける必要も、カブト虫の罨を仕掛ける必要もありません。私のバラは大きく育ち、美しい花をたくさん咲かせています。

私は自分のバラ園が好きです。安全で静かだからです。

しかしその“声”は、「本をもう1冊書きなさい」と言ったのです。『私たちはどこに向かっているのか？』の後にもう1冊ですか？ 2017年の春に、小さなうわさからこの本が知れ渡り、何人かの人からは、「いい本だったので、続編を期待していますよ」と言葉をかけられました。私は、「いや、誰か他の人に担当してもらってください」と答えていました。

しかし、その“声”が聞こえてくるので、バラ園から戻り、仕事に取りかかりました。「本物の」アドベンチスト教会ということは、本物ではないアドベンチスト教会が存在していることを意味します。そうなのでしょうか？

残念ながら、悲しいことに、そのとおりです。

語りすぎて、伴わない実践ばかり。

ありきたりばかり。

自分たちを褒めることばかり。

決まり文句ばかり。

恐怖ばかり。

うわべの装いばかり。

見せかけばかり。

「私たち」と「彼ら」の対立構図ばかり。

人種差別的中傷と当てこすりばかり。

宗教というゲームばかり。

他の人がどう思うかを気にしてばかり。

正しいと見せることへのこだわりばかり。

宗教的でたらめばかり。

この本で私の愛する教会に伝えたいメッセージは、「**現実**に目を向けよ！」です。本物ではないアドベンチスト教会——ミレニウム世代は本物でないものを遠くからでも嗅ぎつけ、逃げてしまいます。

私たちは問題を抱えています。大きな問題です。何千人もの人々にバプテスマを授けますが、若い世代を教会に留めることができません。その理由は、彼らが私たちを偽物だと見なしているからではないのでしょうか？

そこで、『私たちはどこに向かっているのか？』の続編です。この本は心の本です。何か、注意深くリサーチをして書いた本ではありません。アドベンチスト教会の中で私が見聞きすることに対する私の魂の叫びです。

私がすべての答えを持っているわけではありません。しかし、確信があります。その確信を隠さず正直に、率直に、腹を割ってお伝えしたいと思います。私自身の弱さをさらけ出したいと思います。

なぜでしょうか？ それは私が夢見る者であり、理想主義者だからです。

本物のアドベンチスト教会を夢見ます。

憎しみのない教会を夢見ます。

壁のない教会を夢見ます。

いんちきのない教会を夢見ます。

隠蔽のない教会を夢見ます。

傲慢さのない教会を夢見ます

恐れのない教会を夢見ます。

差別のない教会を夢見ます。

漸進する真理に開かれた教会を夢見ます。

他者のために手を汚す教会を夢見ます。

愛が支配する教会を夢見ます。

イエス様がすべてである教会を夢見ます。

この原稿を書きながら、多くの人々からたくさんの応援をいただきました。特に、ロバート・ソーダーブロム博士、シャンデル・ヘンソン博士、プリシラ・コスタ博士、ジョニー・トーマス博士から。また、オレゴン州ポートランド、コロラド州ボルダー、ワシントン州シアトルのアドベンチスト教会の教会員のみなさんには、土曜日の午後集まって、本の内容に対する提案をしてもらいました。その他、イギリス、オーストラリアの人々がオンラインでアイデアを送ってくれました。レイ・テツ牧師は再度、この本の刊行に関するすべてを担当してくれました。原稿の校閲はロージー・テツが、レイアウトとデザインはアルバート・バレンズエラが担当してくれました。全員に心から感謝を述べたいと思います。それに加えて、マシュー・コープマンに感謝します。2017年11月に開催されたアドベンチスト宗教学会で提出され、『スペクトラム』誌にも掲載された彼の論文の使用許可を与えてくれたからです。

私の執筆に関しては、いつもながらのことですが、主に感謝するとともに、なぶり書きの原稿をコンピューターに入力してくれる人、私の親友であり、カウンセラーであり、変わる事のない励ましの源である妻、ノエリーンに感謝します。

第 I 部

導 入

「一番大事なことは、おのれに忠実なれ。
この一事を守れば、あとは夜が日に続く如く、
万事自然に流れ出し、他人に対しても
いやでも忠実にならざるをえなくなる」
(ウィリアム・シェイクスピア)

第1章

大麦若葉とあごひげ — 誰が決定するのか？

誰が本物のアドベンチストを決定するのでしょうか？

彼の目は、真の信徒の炎で燃えていました。彼は私の腕をつかみながら、ドラマチックに宣言しました。「これがこの地上で生きた一番大きな動物が食べたものです。そして今でも、一番大きな動物が食べるものです。それは草です！」

私は、ビタミン、サプリメント、ミネラル、葉草などがぎっしり置いてある棚を眺めていました。びっくりするようなものばかりでした。タブレットや液体状のものなど、人が健康と長寿のために必要とし、望み、想像しうるあらゆるものです。

しかし、私の空想は1人の白髪で目が燃えている背の高い人によって邪魔されました。店員と思われるその人は、私がこの陳列棚を見る初めての客であると——正しくも——すぐに見極めると尋問を始めたのです。

「昨日の朝食は何を食べましたか？」

「昼食は何を食べましたか？」

「夕食は何を食べましたか？」

私が挙げたほとんどすべての食べ物に対して、「それはエネルギーになりません！」と、彼は短く答えました。「よく聞いてください。食事で多くのエネルギーを得る方法をご紹介します」。というわけで私たちは、精力が付き、大きな動物用で、植物性の食品が並べられている通路にいたのです。

店員は大きな缶を一つ棚から取り、その中身を説明しました。大麦若葉、小麦若葉、カムート粉、アルファルファ、スピルリナ、クロレラ。恐竜の大好物だったにちがいありません。

彼はその大きな缶を私の手に残すと、他のカモを探しに立ち去りました。その値段の高さに私はショックを受け、すぐに缶を棚に戻しました。しかし、店員はとて真剣で熱心でした——それに、私には失うものなど何もありません。私は

もっと小さな缶を見つけると、レジに向かいました。

読者のみなさんに正直に話さねばなりません、私はその缶の中身に興味がそられたのです。その秘密を守っていたアルミの蓋を切り取り、中に見いだしたのは、芝生の種のような形のものでした。新しく刈ったばかりの芝生のようなほのかな匂いが漂いました。

次の朝、オートミールの上にかけてみることにしました。(私は控えめな人間ですから) 控えめな量の刈られた芝生をかけ、冒険気分で座りました。この地上で生きた一番大きな動物が食べた食べ物です！ この世界で今も生きている一番大きな動物が食べている食べ物でもあるのです。

どういうわけか、真の信者から勧められたときほどには、印象的ではありませんでした。私は象やマンモスやサイの仲間になりたかったのでしょうか？

いいえ。

調理されたオートミールの上では、この食品は黄緑の色合いをしています。朝食のためにサングラスが必要でした。

そして、それはどんな味がしたのでしょうか？ もちろん、芝生のような味です。

真の信者が約束していたようなエネルギーの爆発が体の中に起こったのでしょうか？

そうかもしれません——何とも言えません。その実験を再び行うことはありませんでした。芝生の缶は台所にまだ置いてあります。試してみたい人には喜んでお送りしましょう。

急いで付け加えておきますが、健康のために大麦若葉や特別な食品を食べている人をリスペクトしないという意味ではありません。さらなる力をつけてください。私はみなさんを小馬鹿にしているわけではありません。

私が言いたいのは、単純にこういことです——あるアドベンチストにとっては、特定の食べ物がとても重要だということです。彼らは、大麦若葉とかそういったものが含まれない本物のアドベンチスト教会など想像できません。

誰が決定するのでしょうか？

あごひげ問題もありました。昔、世界総会の委員会が、すべての牧師はあごひげを生やさなければならぬと命じたことがありました。ご存じでしたか？ あ

ごひげは当時の習慣だったのです。ですからその当時の写真を見ると、私たちのパイオニアの男性たちの髪の毛が多く、真面目な顔つきであることに気づかされます（当時、写真を撮るときは、長い間、動かずに同じ姿勢を保たなければなりませんでした。笑顔を保ち続けるには長すぎたのです）。

あごひげが本物のアドベンチストのテストであることは、徐々になくなってきました。しかし私が得た情報によれば、あごひげの要求事項はいろいろな本から削除されていないとのことでした。

おもしろいことに、私がアンドリュース大学神学院で教えていたとき、学生向けのルールは何だったと思いますか？ あごひげ禁止でした！

大麦若葉、あごひげ——本物のアドベンチストとは何なのでしょう？

それでは、何でもありなのでしょう？ 私には私の本物のアドベンチスト教会のリストがあり、あなたにはあなたのリストがあるのでしょうか？

いいえ、そういう意味ではありません。どうか本を閉じないでください。

もしかするとあなたは、「信仰の大要 28」が答えだ、と言われるかもしれませんが。そこに本物の信仰者——その内容を受け入れ、実践する信仰者——が見いだせると……。

それは良い答えです。教理は重要です。セブンスデー・アドベンチストであるためには、第七日安息日を守らねばなりません。

しかし、教理をストレートに受け入れることがすべてなのでしょう？ 神様が昔、ご自分の民に語られた言葉に耳を傾けてください。

むなしい献げ物を再び持って来るな。

香の煙はわたしの忌み嫌うもの。

新月祭、安息日、祝祭など

災いを伴う集いにわたしは耐ええない。

お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを

わたしは憎んでやまない。

それはわたしにとって、重荷でしかない。

それを担うのに疲れ果てた。

お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う。

どれほど祈りを繰り返しても、決して聞かない。

お前たちの血にまみれた手を

洗って、清くせよ。

悪い行いをわたしの目の前から取り除け。

悪を行うことをやめ

善を行うことを学び

裁きをどこまでも実行して

搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り

やもめの訴えを弁護せよ。

(イザヤ1：13～17)

ここには、正しいことを行っているように見える人々がいます。安息日を尊び、宗教的義務を忠実に果たしています。しかし、神様は彼らを喜んでおられません。宗教には、彼らが欠いていた以上のものがあるのです。

2018年に時を戻します。私と一緒にいくつかの事例を考えてみましょう。

ここに、「信仰の要28」に関しては100点満点なのに、自分とは異なる人種を軽蔑する冗談を話すアドベンチストがいるとします。

本物のアドベンチストでしょうか？

彼女はそういう冗談にうんざりしていますが、反対の発言を控えています。

本物のアドベンチストでしょうか？

彼は教会の長老で、イスラム教徒が嫌いです。彼は、アメリカが彼らを「ぶちのめす」ところを見てみたいと言います。

本物のアドベンチストでしょうか？

教会では、だれもが彼に敬意を払っています。彼はアドベンチストの模範なのです。しかし家庭では、彼の妻や子どもは異なったイメージを持っています。彼は、要求が厳しく、無慈悲な意地悪なのです。

本物のアドベンチストでしょうか？

私はそう思いません。上記のいずれの場合でもそうです。

本物のアドベンチスト教会が、私たちの信じていることを超えるものであるなら、それは何なのでしょう？ そして、誰が決定するのでしょうか？

イエス様です。

イエス様、しかもイエス様だけが、本物のアドベンチスト教会とは何であるのかを決定なさいます。何を信じるかだけでなく、どうそれを実践し、どうそれを生きるかを含めてのことです。

ですからここに、この本における私のやり方があります。本物のアドベンチスト教会を示す資質だとあなたが考えるもののリストは、どれもイエス様のテストを通過しなければなりません。その資質は、イエス様の教えと生き方の中にまず見つけなければなりません。ごまかしや憶測や早業によってではなく、明白にはっきりと見つけるのです。

もしあなたがその資質を福音書に見いだせないなら、それはイエス様のテストに不合格です。

この後の章では、本物のアドベンチスト教会を特徴づけると私が信じる一連の教会の資質について書いていきます。このことを明らかにするために、私は各章をイエス様の物語や福音書からの教えの聖句で始めています。

これは本物のアドベンチスト教会を具体的にお見せする試みです。私の基準がこの主題を言い尽くしていると言うつもりはありません。もしかするとみなさんは別な考えを加えたいと思われるかもしれません。

加えても構いませんが、削除しないでください。ここでのリストは最小限のもので、本物のアドベンチスト教会が、このリストを下回ることはありえません。なぜならイエス様が物差しだからです。

もっとあるかもしれませんが、これより少なくはありません。

この本はすべてイエス様について書いています。

イエス様がどのようなお方であるのか。

私たちがイエス様に真に従う人であるなら、どのような人になるのか。

本物。

それでは乗車して、シートベルトを締めてください。あなたの人生の旅が始まります。

第II部

本物の アドベンチスト教会のしるし



「本物は心の中で始まる」
(ブライアン・ディアンジェロ)



第2章

触れてはいけない話題

イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。すると、この地に生まれたカナンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」イエスは、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」とお答えになった。しかし、女は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。イエスが、「子供たちのパンを取って小犬にやってはいけない」とお答えになると、女は言った。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」そこで、イエスはお答えになった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘の病気はいやされた。(マタイ 15:21～28)

警告。この章はあなたに居心地の悪さを感じさせるかもしれません。私は不快に感じます。この話題は、特にアメリカでは触れたくない話題です。何年にもわたって、長いこと私を困惑させてきた現象です。説教でこの話題に触れるとき、私の話を聞いていた会衆の中に首をうなだれる人たちがおられます。

「何が起きているのだろうか？」と、私は考えました。

そして、ようやくわかりました——この話題は会衆の居心地を悪くするのだ、と。会衆はそのことを聞きたくないと思っており、私がその話題を離れて、他の話題に移ってほしいと望んでいたのです。

気づかずに、私は触れてはいけない話題に触れてしまっていました。

触れてはならない話題とは何でしょうか？ 人種問題です。

そろそろ私たちは、特にセブンスデー・アドベンチストは、率直になるべき時期です。オープンになるべきです。申し合わせたように、信頼できる友人とのオフレコの会話を除いて私たちが避けていることについて語るべき時期です。

真のアドベンチスト教会には、触れてはならない話題があってはなりません。たとえ、周りの社会のほとんどの男性や女性がこの話題を避けようとしてもです。私たちはナザレのイエス様に従う者です。彼はこう言われました。「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい。濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう」(マタイ6:22、23)。

この問題はどれくらい重要なのでしょうか？ アメリカの歴史をずいぶんさかのぼりますが、バージニア州シャーロットピルで起きた恐ろしい24時間から始めましょう。

バージニア州シャーロットピル

2017年8月12日。居心地の悪い静寂が、トーマス・ジェファーソン大統領によって設立されたバージニア大学のある町を包んでいました。1週間ずっと、白人至上主義者たちの大きな集会があるという噂が流れていました。彼らは解放公園に集まり、ロバート・リー将軍の銅像の撤去に反対する計画なのです。

その日、終日にわたってアメリカ全土から乗り物が到着し、多数の白人愛国主義者、白人至上主義者、ネオ南軍支持者、クー・クラックス・クラン、ネオナチ、民兵などを運んできていました。中には、半自動小銃や盾を持っている人もおり、バナーには憎しみの言葉、人種差別の言葉、反ユダヤ主義の言葉が書かれていました。

金曜日の夜、250人ほどの、おもに若い白人の男性が隊列を組み始めました。たいまつを照らしながらの行進は、ナチス・ドイツのヒトラー青年隊を思い起こさせました。行進をしながら、彼らは叫びました。「血と土！」「絶対引き下がるものか！」「ユダヤ人から引き下がるものか！」

彼らは途中で反対のデモ隊に出会います。すぐに大混乱です。殴り合い、化学

性刺激物の投げ合い、なじり合い、侮辱し合い、ひわいな言葉の投げ合い、そして怪我。

次の日は、さらに状況が悪くなっていきました。デモ隊はそれぞれ集まって来て、愛国主義者のバナーを掲げ、スローガンの言葉を唱え、多くの人が盾、こん棒、ピストル、長い銃も持っています。ナチスのかぎ十字、南軍支持者の旗、反ユダヤ主義、反イスラム主義のバナーなどを掲げ、多くの人が棒やプラカードを持っています。彼らは、教会関係者、公民権運動者、そして傍観者の反対に遭いました。

その日、たいていの店やレストランは閉店していました。

すると、別の勢力が到着します。カモフラージュした民兵のグループで、半自動小銃、ピストルで武装していました。

二つのグループが叫び合っているときに、暴力行為が突然始まりました。両方のグループが棒を振り回し、殴りかかり、刺激物をまき散らし、ピンと石を互いに投げつけ合い始めたのです。

遂に警察が介入。この騒乱は違法の集会とされました。群衆は解散するように命じられました。右翼の人々が解散し始めたとき、彼らは反対者グループと嘲りや悪口を言い合い、1人の黒人女性には、「アフリカに帰れ！」と怒鳴りつけ、他の者は、「ダイラン・ルーフは俺たちのヒーロー！」（サウスカロライナ州チャールストンの教会で9人のアフリカ系アメリカ人を殺害した白人至上主義者）と叫びました。

長い、悲劇的なその日は終わりを迎えるかと思われたのですが、そうなりませんでした。

午後1時頃、参加者の1人が、爆音を立ててクライスラー社のダッジ・チャレンジャーを歩行者の群れに向けて走らせたのです。車は一つの群衆に突っ込むと、次にバックして別の群衆に突っ込みました。

1人の女性が死亡し、19人が負傷しました。

しかし、これで終わりではありませんでした。その夜、集会を監視していた州警察のヘリコプターが墜落したのです。その墜落で、2人の州警察官が亡くなりました。

その日1日で、3人が死亡、19人が負傷。

憎しみ、人種差別、暴力、死の連鎖が、この国を、そして世界を覆っています。
恥ずべき1日。
ひどく心をかき乱す1日でした。

シャーロットビルの後

私は専門家ではありません。しかし私には、アメリカが暗く予想不能な時代に突入したように感じられました。どこに向かっているのかはわかりません。しかし、私はこのことをすっかり確信しています——**今が目を覚まし、声を上げるべき時である**ということです！

ノエリオンと私は、オーストラリアで生まれ育ちました。すばらしい国です。私たちはこの国を愛しています。

42年前、私たちは働くためにアメリカへやって来ました。アンドリュース大学神学院の講師陣の1人となるように招かれたのです。そこに5年間おり、やがてワシントンDCに移りました。

アメリカが大好きになりましたが、母国に対する強い絆も感じていました。20年も経ってから、アメリカ国民になるために申請書を出しました。もし税金を払わねばならないのなら、起こっていることに対して発言権を得たい、選挙権を行使したいと思いました！

42年後——私はいまだにアメリカを理解しようとしています。私の国、アメリカ。テネシー州ナッシュビル、ミシガン州ベリエンズプリングス、メリーランド州シルバースプリング、カリフォルニア州ロマリンダ——北、南、東、西に住んできました。

アメリカは美しい国です——とても祝福された、とても美しい国。驚きの国、すばらしい国です。

カリフォルニア州を見てください。1600キロの海岸、雪をかぶる山々、セコイアの森、雨季が戻ると突然色づく砂漠。そして、ヨセミテ——ああ、ヨセミテ！こんな場所、これに近い場所さえ、地上のどこにもありません。

しかし、紫色の崇高な山々と琥珀色の麦の波の土地で、時として自然界はその暗い部分を見せません。

ここカリフォルニア州では、大地が足元で揺れます。私たちは大地震について語ります。それが「起こるかどうか」についてではなく、「いつ起こるか」についてです。

アメリカの自然に満ち溢れる中部では、竜巻が警告なしに襲いかかり、前にあるものをすべてなぎ倒して行きます。

東部では、大西洋で嵐の目ができ、西に移動しながら蒸気と力を蓄えてハリケーンとなり、フロリダ州や東部の海岸を叩きのめします。

アメリカの暗い部分です。

そして文化も自然界を反映する傾向にあります。

一方で、アメリカはどこにも見いだせないチャンスのある国です——もしあなたが品物を生産できるなら、大きな可能性のある国です（特に、あなたの皮膚がふさわしい色であれば……）。

アメリカ人は非常に気前の良い人々です。彼らは人生を楽しみます——特に、カリフォルニア州では！ 冗談が好きで、世界のどこの人々よりもすぐに、しかもたくさん笑います。

しかし、暗い部分があります。

アメリカはクー・クラックス・クランの土地であり、リンチやひどい不正義と残忍性のある土地です。

奴隷制度はこの国を呪ってきました。

黒人を呪いました。

白人を呪いました。

呪いは続いています。

それは関係を破壊します。私たちを分断し、疑り深くさせ、恐れを助長します。

私は白人です。黒人であることがどんな感じなのか、完全に理解できるとは思えません。私は自分の運転している車を警察に止められ、自分の車であることを証明するように求められる心配をしたことがありません。私は息子に、車のテールランプが壊れているという理由で警察に止められたときは、彼に生きて家に帰ってほしいので、ものすごく気をつけなさい、などと教えたことがありません。

件数は驚くばかりです。

アメリカの人口は全世界の4.5パーセントですが、全世界の犯罪者の22パーセントを刑務所に入れていますが——現在、220万人以上が収容されています。アフリカ系アメリカ人は、白人よりも5倍も高い確率で投獄されます（もしあなたが黒人なら、刑務所で過ごす確率が5倍も高いのです）。

アメリカの暗い部分です！

バラク・オバマが大統領に選ばれてから、多くの人々が言いました——「これは、アメリカで人種差別が終わったことの証明だ」と。

完全に間違っていました！ 人種差別はいまだに生き残っています。オバマ大統領の当選はバンドエイドを剥ぎ取りました。多くの人々は、黒人が大統領となったことに怒りを覚えたのです。彼らは、オバマ大統領がアメリカ生まれのアメリカ人ではないことを証明しようとしてしました。彼を尊敬することを拒絶し、失墜させようとしてしました。

何百という武装集団が生まれ、憎しみを掻き立てました。彼らは重火器で武装し、アメリカをもう一度偉大にすると語りました——それはアメリカを再び白人の国にするという意味です。

そうしてシャーロットビルです。

あなたもテレビであの光景を見たでしょう。私も見ました。そして、わが目を疑いました。

武器を持ち、たいまつを照らし、行進する何百人もの白人たち。

ナチスの旗、かぎ十字。そして、繰り返し叫ぶ声、「血と土！」——ナチスの憎しみの叫びです。

私たちは世界をナチスから救うために戦いました。ナチスに乗っ取られないように、40万人以上のアメリカ人が犠牲になりました。

あの金曜日、シャーロットビルではユダヤ人が会堂に集まり、安息日の礼拝を捧げていました。ナチスの旗を掲げ、憎しみのスローガンを叫ぶ暴徒たちは、入り口を封鎖したのです。ユダヤ教徒たちは恐れ、扉に鍵をかけました。

礼拝は終わりました。でも暴徒たちはまだ外にいます。もう1時間、礼拝者たちは中に留まらなければなりません。最後に、彼らは後ろのドアからそっと抜け出しました。

これがアメリカなののでしょうか？

アメリカにいるのか、1930年代のドイツにいるのか、私はわからなくなりました。

動物園

シャーロットピルの光景は、数年前に私が読んだ本を思い出させます。エリック・ラーソンが書いた『獣の庭で』という本です。

この本は、1933～1939年を生き生きと描いています。ドイツに駐在するアメリカ大使、ウィリアム・ドッドについてです。ヒトラーが実権を握ったばかりでした。章を追うごとに、ナチスがどのように国を掌握していったのかがわかります。大きなパレード、「ヒトラー万歳」という敬礼。悪漢たちが群衆を扇動し、敬礼しない者には暴力をふるうのです。

骨まで凍りつくような本でした。でも、それらが起きたのは昔のことです。

そうしてシャーロットピルの光景です。

ドイツの国策による迫害は、次のような人たちの死をもたらしました——600万人のユダヤ人、25万人の障害者、何千ものLGBT（性的少数者）のコミュニティ、20万人のジプシー……。

ナチズムとは、こういうものです！ 今日の若者たちは、いったいなぜ彼らと一体感を持ちたがるのでしょうか？ 車を群衆に突っ込ませ、19人に怪我を負わせ、32歳の弁護士助手のヘザー・ヘイヤーを殺した男の年齢に気づきましたか？

彼はまだ20歳でした。

憎しみの波がアメリカ中に広がっているかのようです。何かできることがあるのでしょうか？ **憎しみの連鎖を止めるために、私たちは何かできるのでしょうか？**

あります！ でもそれは、ナザレのイエス様の中にだけあります。政府は法律を作ることができます——正しい法律には賛成です。しかし、人間の考え方を変え、私たちが心に抱く醜いものを抜き去ることができるのは、イエス様だけなのです。

興味をそそる物語

福音書の中に出てくる興味深い物語に目を向けましょう。ショッキングな物語ですが、結局、それがイエス様なのです。彼は私たちにショックを与えます。私たちに困惑させます。「柔和で優しく」、あなたを居心地よくさせるお方ではありません。いいえ、彼はショッキングなお方です。ラディカルでもあります。神殿でテーブルと椅子をひっくり返されます。あなたが彼を受け入れるなら、あなたの人生もひっくり返されるでしょう。

この物語は、マタイ 15 : 21 ~ 28 に見いだされます。私はこの章の冒頭でその物語を紹介し、方向づけをしました。再度そこに戻り、あなたの記憶を新たにしてください。

私は彼女を「引き下がらない女性」と呼んでいます。彼女はイエス様に挑戦し続けます。イエス様だけが娘のために必要な助けを与えることがおできになる、と確信しているのです。私は娘を愛するこの女性が大好きです。彼女は邪魔されることに屈しません。

注目してください。彼女はユダヤ人ではありません。イエスはガリラヤ地方を去り、地中海沿岸に来ておられます。女性は外国人、カナン人です。

イエス様は確かに不思議な行動をなさいます。女性はイエス様に向かって叫んでいます。イエス様は何もお答えになりません。

とうとう弟子たちはうんざりして、「この女を追い払ってください。彼女が叫ぶのをやめさせてください！」とイエス様に頼みました。

するとイエス様がお話しになります。

弟子たちに対して、「私はイスラエルの人々だけを助けるために送られたのだ」と。

彼女は異邦人です。ユダヤ人だけが神様の恩恵にあずかれるのです。

しかし、彼女はあきらめません。イエス様の足元にひれ伏し、お願いするので。「主よ、助けてください！」

するとイエス様はさらに厳しいことを言われます。「子どもたちの食事を犬に与えるのはよくない」

えっ！ 犬ですか？

イエス様は彼女を犬呼ばわりしておられます。

何が起きているのでしょうか？ これが私たちの知っているイエス様なのでしょうか？

しかし、このすごく意地悪な言葉にも、彼女はめげません。才気あふれる答えで彼女は切り返します。「主よ、そのとおりです。しかし犬でさえ、主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます！」

私はこの女性に、引き下がろうとしない女性に、驚かされます。イエス様から3回も冷たくされたのに、まだあきらめていません。

最初に、イエス様は何もおっしゃいません。彼女を無視し、黙殺なさいます。虐待よりも酷いかもしれません。読者の中には、無視される側になったことのある人がいるでしょう。突然、あなたが見えなくなったような状況です。それがどれほどつらく感じられるか、みなさんをご存じです。

二番目にイエス様は、私が来たのはユダヤ人だけを助けるためであって、異邦人のためではない、とおっしゃいます。彼女はついていません。

三番目、一番残酷ですが、イエス様は彼女を犬呼ばわりなさいます。犬には食卓の席がありません。

この外国の女性はこのような三つの屈辱にも、どうしてめげなかったのでしょうか？

それは、この物語が見かけとは違うからです。問題は、福音書のイエス様の物語を読むとき、私たちが紙の上の冷たい言葉を読んでいることです。私たちは**読んでいる**のであって、**聞いて**いません。

イエス様の声のトーンは聞こえません。

イエス様の顔の表情はわかりません。

イエス様の目は、語っていた言葉とは異なるメッセージを送っていたかもしれません。

イエス様は言葉を使わないメッセージを伝えておられたはずです。何か彼女に、求め続けさせる希望を与えたのです。弟子たちはイエス様の言葉を聞くだけでしたが、彼女はイエス様が**どのように**語られたのかを見ていました。

私たちはこのようなことをいつもしています。強調するために、自分が感じていることと反対のことを言ったりします。

私にそのような友人がいます。彼の名前はウェイン・マクファーランド、「マック博士」です。

私たちはお互いがとても好きなので、会うとすぐに、けなし合いを始めてしまうのです。おもしろおかしくけなし合います。ある時、2人してスコットランドのアバディーンで公開の集会を開きました。私たちはレストランで食事をしながら、お互いをけなし合っていて笑っていたのです。すると、それを見ていた他のテーブルのお客さんたちは、私たちが何を飲んでいるかをウェイターに尋ねていました。同じ飲みものを注文できるように……。

カナン人の女性はわかっていたと思います。イエス様がこの会話をどこに向かわせたいのか、彼女はわかっていたのです。彼女を犬と呼んだ残酷な言葉に返事をしたとき、彼女の顔には笑顔があったのでしょうか？ もしかしたらあったのかもしれません。

「犬ですか？ じゃあ、私は犬になりましょう。子どもたちを食卓で食べさせてください。その食卓から落ちるパン屑だけは、私に食べさせてください。**でもどうか私の娘を助けてください！」**

イエス様は、今やニッコリしておっしゃいました。「女性よ、あなたの信仰は偉大だ！ あなたの願いどおりになるように」

すると、彼女の娘はすぐに癒されました。

弟子たちはこのやり取りを聞いていました。しかし、基本的にはイエス様と女性の個人的な会話でした。

そして会話の終わりに、弟子たちは首を振りながら、互いに尋ね合ったことでしょう。「あれはいったい何だったんだ？」と。

あれはいったい何だったのでしょか？ イエス様は役割を演じておられたのです。弟子の役割を演じておられました。彼らにとって、この女性は面倒な存在でした。彼らを困らせていました。弟子たちはただ、彼女をここから追い出したかったのです。何しろ、彼女は外国人だったからです。

彼らの態度は、他のユダヤ人の態度と同じでした。ユダヤ人（特に男性）の毎

日の祈りは、次のようなものであったことを思い出してください。「私を異邦人にお造りにならなかったことのゆえに神を褒め称えます。私を女性にお造りにならなかったことのゆえに神を称えます。私を無知な男性としてお造りにならなかったことのゆえに神を褒め称えます」

弟子たちはそんなふうに着てられてきました。ユダヤ人の文化はそのように彼らを教えてきたのです。しかし、イエス様は彼らを揺さぶりたいと思われました。神様が彼らをご覧になるように、彼らも自分自身を見るようになる手助けをしたいと願われたのです。彼らは外国人に対する態度が薄情で、残酷で、傲慢でした。

誰もどこに生まれるかを要求しません。どの両親の子どもになるか、どこで育つかを選ばません。

私たちは生まれた場所にいます。

意識的に考えることなく、私たちは態度と偏見を家族から受け継ぎます。周囲の文化からも。

その文化は、肌の色の違う人々を軽視するでしょうか？ 私たちもそうします。

その文化は、性別が主流とは異なる人を見下げるでしょうか？ 私たちもそうします。

その文化は、宗教が異なる人々に疑いの目を向けるでしょうか？ 私たちもそうします。

私たちはみなそうです。偏見と憎しみと先入観の中に生まれたのです。

しかし、そこに留まる必要はありません。私たちは変革することができます。私たちの目は、自分のあるがままの姿を見ることができます——神様が私たちをご覧になるように。そして、神様が他の人々を、すべての他の人々を、ご自分の息子、娘としてご覧になるように……。

私はオーストラリアで育ち、人種差別者に育ちました。もしあなたがそう言ったなら、私は笑いながら、「友よ、あなたはまったく間違っている！」と言うでしょう。私はエチオピア出身の友人テショーム・ワゴを紹介できます。彼の肌の色は本当に真っ黒です。アボンデル大学の夏休みのとき、私たちは1軒1軒家を回って、宗教的な本を販売しました。私は悪戦苦闘でしたが、彼は今までの販売記録をすべて塗り替えたのです。彼は玄関にやって来ると明るい笑みを浮か

べ、「こんにちは。テショーム・ワゴーです」と言います。するとそれだけで、「あなたは何を販売しているの？ 一つ購入したいわ」と、主婦たちは言うのでした。

テショームはわが家に泊まり、食卓を共にしました。

私が入種差別者？ 決してそうじゃありません！

でも、かつてはそうでした。そのことに気づくのに何年もかかりました。

妻のノエレーンと私は、大学卒業後すぐに結婚し、宣教師としてインドに遣わされました。15年間インドで過ごしました。インドが大好きで、インドの人々を愛していました。

そして、ゆっくり、ゆっくり変化していったのです。ゆっくりと自分自身が見えてきて、恥ずかしく思えました。

私はすべての有色人種に対して偏見を持っていたのではありません。しかし、オーストラリアのアボリジニーの人々には偏見がありました。彼らを見下すように育ったのです。誰もがそうでした。人間として彼らを見ていなかったのです。

インドに住むことで、私の目が開かれました。あるいは、こう言うべきかもしれません。主がインドの環境を通して働き、私の目を開いてくださったのです。

肝心なこと

シャーロットピルの後の肝心なことは何でしょうか？ 五つの点を挙げたいと思います。

あなたの本当の姿がわかるようにあなたの目を開いてください、と主に祈りましょう。スポットライトのように神様の愛の光を、あなたの魂の醜い裂け目、憎しみと偏見の悪魔が隠れている場所に照らしていただくのです。

憎しみに対してはいつでも、どこでも反対の声を上げましょう。ソーシャルメディアでも発言しましょう。仕事場でも声を出しましょう。家でも、学校でも、教会でもです。憎しみの言葉に対して静かであってはなりません。

人種差別的な中傷、冗談、あてこすりを取り除きましょう。時として不意に、私の心の中の木造部分から、はるか昔に歌った歌詞の断片が急に出てきたりします。覚えやすいメロディー、でも明らかに人種差別の歌。作り話、冗談、口汚い言葉——それらを容赦してはなりません。それらを払いのけましょう。払いのけ

続けましょう。

変化をもたらす主体になりましょう。憎しみの代わりに愛を広めましょう。意図的に他の国の出身者と友だちになりましょう。異なる宗教の人々と友だちになりましょう。

あなたの周りを愛のオアシスで囲んでくださいと、神様にお願いしましょう。思いやりのオアシス、同情のオアシスです。世界が必死になって求めているものです。

シャーロットビルについての最高のツイートは、バラク・オバマがつぶやいたものでした。ネルソン・マンデラの次の言葉を引用していました。「生まれたときから、肌の色、背景、宗教などのゆえに他人を憎む人などいません。人は憎むことを学ぶのです。もし憎むことを学べるのなら、愛することも教えることができます。なぜなら、愛はその反対の憎しみよりも、ずっと自然に人間の心に届くからです」

今日を愛し、そして毎日を愛すために、神様が私たちの心を開いてくださいますように。

これが本物のアドベンチスト教会です。

第3章

壁のない教会

ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。しかし、サマリアを通らねばならなかった。それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」女は言った。「主

よ、あなたは預言者だとお見受けします。わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。……

さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」(ヨハネ4：3～30、39～42)

イエス様は、普通のアドベンチストではありませんでした。

普通でなくて良かったと、私は思っています。もしイエス様が普通のアドベン

チストであったなら、この物語は生まれなかったでしょう。

お昼頃、イエス様は井戸のそばに座っておりました。その日は暑く、疲れと渇きを覚えておられました。午前中、イエス様と弟子たちはずっと歩いて来られたのです。彼らは南のユダヤ地方から北にあるガリラヤ地方を目指して旅をしていました。約 150 キロの道のりです。

途中、この井戸を見つけ、小休止を取ったのです。イエス様は木陰を見つけ、弟子たちは食べ物を購入するために近くの村に向かいました。

もしイエス様が普通のアドベンチストなら、ここにはおられなかったでしょう。この地方の住人は「良い」人々ではないからです。彼らはユダヤ人が嫌いで、憎しみの感情を抱いていました。普通、ユダヤ人が南北を行き来するときはこの地域を避けます。まっすぐに旅をするのではなく、東側に迂回し、ヨルダンの谷間を通りました。ヨルダン・ルートは、距離的には長いのですが、サマリア地方を避けることができます。しかしこの日、イエス様は普通のユダヤ人がしないことをなさいました。イエス様は弟子たちを無鉄砲にも敵国へ導かれたのです。

1人の女性が水瓶を持って井戸に現れました。この地域では、他の多くの地域と同じですが、女性の仕事といえば、家族の必要のために水を運ぶことでした。きつい仕事です。水は重く、水がめは大きいのです。仕事が太陽の暑さでさらにきつくならないように、女性たちは朝か夕方に井戸へ来ます。井戸のそばに集まり、噂話に花を咲かせ、冗談を交わし、そして頭に水瓶を載せるのです。

しかし、この女性は長い間、他の女性たちからの譴責の目、とげのある言葉に疲れを覚えていました。この女性は悪い女で、彼女のショールには姦通者の「姦」の字が一つどころか、全体に書かれているほどなのです。

いつものように、彼女はお昼頃に井戸に来ます——「困った！ あそこに誰かいるじゃない！ 男だわ。しかも、いまましいユダヤ人よ」

言葉を交わす前から、イエス様は憎しみの感情を彼女から感じ取っておられました。彼女はこの男性がここにいなけばいいのに、と思っています。男性は彼女の空間に土足で入り込んで来たのです。

この女性とイエス様の会話が始まる可能性はどれくらいあるのでしょうか？ 水にひびが入り、探求するような長いやり取りが始まる可能性はあるのでしょうか？

か？

ゼロです。

もしイエス様が普通のアドベンチストであったなら……。

しかし、イエス様はそうではありません。会話が始まったのです。

イエス様とこの女性の間には、四つの壁が存在しました。その一つひとつが固く、長年にわたる伝統と言い伝えによって、土台は深く掘られていました。

●**第一の壁：彼女が女性であったこと**——イエス様はラビ、つまり宗教の教師でした。ラビは普通、女性とは話をしません。ラビは、女性が危険であることを知っていました。女性はその魅惑的な目で、男性を品行方正な道から逸らせることがあるからです。ラビの中には、道を歩いていて女性が近づいて来ると、目をそらし、真っすぐに歩く人もいます——時には、壁の後ろや、牛車の後ろに隠れることも！ 女性から誘惑されるよりも、あざだらけにされるほうがまだ、ということです。

もしイエス様が普通のラビ（「アドベンチスト」と読み替えてください）であったならば、他のラビと同じような祈りを捧げたに違いありません——「宇宙の主なる神様、あなたを褒め称えます。私を女性としてお造りにならなかったからです」

しかし、イエス様は普通のラビではありません。ラビは、町から町へ、村から村へと、弟子たちを連れて旅をします。その弟子たちは、師の言葉を聞き洩らすまいとする修行中のラビでした。そして、彼らは全員、必ず男性でした。

しかし、イエス様は違いました。イエス様の弟子の中には女性が、それも多くの女性が含まれていたのです。ルカはその中の何人かの名前を挙げており、しかも「そのほか多くの婦人たち」がいた、と記しています（ルカ8：1～3）。

その中には、イエス様によって癒された女性たちもいました。その1人であったマグダラのマリアは、イエス様によって解放される前、悪霊に取りつかれていました。女性の弟子の中には、ヘロデの家令クザの妻ヨハナのように、夫が社会的に高い地位を占めていた人もいます。彼女の夫は、ガリラヤ地方とペレア地方を治めていたヘロデ・アンティパス一家の切り盛りをしていました。

このような女性たちは裕福で、その資源から巡回するイエス様の働きを経済的に支えていました。

イエス様の行動は、極めていかかわしく、ラビにはまったくふさわしくない、と見なされていたに違いありません。うわさ話が流れ、宗教指導者たちは舌打ちをしていました。まったくひどい！

ですから、水を汲みに来たこの女性にイエス様が話しかけられたとしても、何ら不思議ではありません。しかし、次の点を除いての話です。スサンナ、ヨハナやその他のイエス様の弟子グループの女性たちと違って、彼女が下品だったという点です。いやいや、それどころではありませんでした。

●**第二の壁：彼女がサマリア人であったこと**——サマリア人は混血の民族です。歴史は500年ほど前、イスラエルに王様がいた時代にまでさかのぼります。ソロモン王が亡くなった後、北の十部族は南の部族から別れ、サマリアを首都として新しい王国を設立しました。しかし最終的には、サルゴンに率いられたアッシリアの軍隊によって滅ぼされます。

古代の諸国家の中でも、アッシリア人はその残虐性で知られていました。その残虐な行為の一つが、捕囚のあごに大きな釣り針を通して、彼らをつないでおくことでした。また、征服者が去った後に反逆が起こらないようにするため、征服された人々を大規模に強制移住させたのです。

そのことがイスラエルの北の十部族に起きたのです。彼らは釣り針でつながれ、アッシリアが直接支配する場所まで行進させられました。多くの人々がその途中で、あるいは新しい見知らぬ土地で、命を落としました。現代まで残っているいくつかの散在する地域を除いて、彼らは歴史の教科書から消え去ったのです。

このように北王国は強制移住させられました。次にアッシリア人は何をしたのでしょうか？ 彼らは新しい人々——異なる人種、習慣、宗教の人々——を連れて来て、その空いた地域を埋めたのでした。

このような人々がイエス様の時代のサマリア人です。民族的には、彼らはアッシリア王国からの人々と強制移住を逃れたユダヤ人の子孫が混じり合った人々です。サマリア人の起源については、列王記下17：24～37に描かれています。

ユダヤ人はこの人々を見下し、軽蔑しました。そしてサマリア人は、何百年も前までさかのぼる憎悪によってユダヤ人を憎んでいました。その敵対意識の始まりを説明するには、もう一章必要です。聖書はそのことを、エズラ記とネヘミヤ記の中で説明しています。

北王国がアッシリア人によって滅ぼされたあと、南王国のユダは、小さかったものの、さらに100年以上どうにか生き残ります。しかし最終的には、アッシリア人ではなく、アッシリア人を滅ぼしたバビロニア人によって滅ぼされました。

バビロニア人は、以前のアッシリア人と同じく、ユダヤ人社会のエリートたちを捕囚として連れて行きました。この時は、バビロンへ。しかし、そこで驚くことが起こるのです。回転ドアのように動く中東の勢力図の中で新しい強国が台頭します——ペルシアです。その最初の王様であったクロスは、ユダの人々は自分の故郷に帰ることができるという命令を発しました。しかも、バビロンが破壊したエルサレムとその神殿の再建のために公的な支援も与えるというのです。

バビロン在住のユダの人々は、今や二代目、三代目となり、バビロンの文化にも溶け込んでいました。ある人は豊かになり、腰を落着けていました。しかし、他の人々は荷物をまとめ、彼らの故郷を目指して長い旅に出たのです。彼らが目指したのは、愛する都の再建築と特に彼らの宗教の中心にあった神殿の再建でした。

ここで物語は興味深い展開をしていきます。サマリア人は神殿の再建計画について聞きつくと姿を現して、そのプロジェクトへの協力を申し出たのです。しかし、ユダの人々はサマリア人に対して冷たい態度を示しました。サマリア人はこのプロジェクトには参加できないことを伝えたのです。彼らはユダヤ人ではなかったため、まったく歓迎されませんでした。

その後、物語はさらに大きく展開します。ユダの人々は追放を行うことにします。彼らの社会からユダヤ人でない伴侶と子どもたちを排斥したのです。寒さの中、彼らを追放したのです（個人的には、旧約聖書の中で最も心を痛める事件の一つだと思っています。エズラ 10：1～44 をお読みください）。

イエス様と女性が井戸のそばにいる光景を思い描いてください。この2人を阻む壁は、破れそうにない壁なのです。

しかし、イエス様は普通のアドベンチストではありません。彼の働きは、おもにユダヤ人の中で行われましたが、彼の言葉と行動は、憎しみの壁にどれほど長い歴史があろうと大きな障害にならないことを明快に示しています。ある時、イエス様は10人のハンセン病人を癒されましたが、その中の1人がサマリア人でした。そしてその1人が「ありがとうございます」と感謝したのです（ルカ17：11～19）。イエス様は、「私たちの隣人とは誰ですか？」と質問されたとき、一つの物語を話されました。エリコへの道で死ぬほどの怪我を負わされ、置き去りにされた男の物語です。通りがかった祭司とラビはその怪我人を見て、彼を避けるために道の反対側を歩きました。1人の旅行者が彼に情けをかけなければ、その被害者は死んでしまった違いありません。彼は憐れみの天使だったのでしょうか？ いいえ、サマリア人でした。

イエス様は宗教指導者よりもサマリア人を好まれたのだと、あなたは結論づけそうになるかもしれません。福音書の中では、宗教家よりもサマリア人が良い人として登場するからです。

私たちはたいいてい、井戸のそばでのサマリアの女性の物語を空の水がめで終えてしまいます。水を汲み来た女性は、はるかににすばらしいものを見つけました——「命の水」、キリストにある新しい命です。しかし、それがこのすばらしい記録のすべてではありません。福音書の書き手であるヨハネは、その後、イエス様にご自分の旅を急がれた、と書いていません。彼は2日間、サマリア人のところに滞在されました。どこに泊まられたのでしょうか？ 東横インやモーテルではありません。サマリア人の家に泊まられたのです！ どこで食事をされたのでしょうか？ サイゼリアではありません。サマリア人の食卓で食事をなされたのです！

考えてみれば、それはすべて律法を破ることでした。「善いユダヤ人」は異邦人の家に入り、自分の身を汚すことはしませんでした。善いユダヤ人は異邦人と一緒に食事をしません。ペトロの物語を調べてみてください。神様が彼に、ローマ人のコルネリオを訪ねなさいと命じられたとき（使徒言行録10章）、彼はどのように感じたのでしょうか？ そしてその後、信者の仲間からプレッシャーを受けたとき（ガラテヤ2：11～14）、異邦人と食事をしたことについて、彼はい

かに苦し紛れの言い訳をしたでしょうか？

●**第三の壁：宗教が異なったこと**——サマリア人は混血の民族であっただけではなく、ユダヤ人の目から見れば、混血の宗教を信じていました。それは、ヤーウエの礼拝と異教が混じり合った不快な宗教でした。

ユダの人々がバビロンの捕囚から帰って来たときに、神殿の再建にサマリア人が支援を申し出たことを思い出してください。彼らは強く拒絶されました。求められていなかったのです。その後、サマリア人は神殿再建の働きを止めようとします。プロジェクトに反対するよう、彼らは当時の政府当局者を、王様に至るまで、仕向けたのです。しかし、最終的に彼らの努力はすべて失敗に終わります。そこで、彼らはどうすることにしたのでしょうか？ エルサレムに対抗する礼拝の場所、自分たちの神殿を建てようと考えたのです。

そして、そうしました。サマリア人はゲリジム山に神殿を建て、動物の犠牲制度を導入したのです。

これがイエス様とサマリアの女性の会話の背景です。その会話の途中で、女性はイエス様を礼拝の場所の論争——ゲリジムか、エルサレムか——に巻き込もうとしますが、イエス様はそれに乗りません。その代わりにイエス様は、真の礼拝を捧げるのに、場所は神様にとって問題ではない、と彼女に言われました。心から礼拝する者を神様は探しておられるからです。

イエス様が教えられた宗教は、壁のない教会でした。ジェンダーの壁がありません。人種の壁もありません。体系化された礼拝の壁も存在しません。

ユダヤ人は心の中に、ユダヤ人でないあらゆる人と自分たちとを隔てる高い壁を築いていました。そして実際に、彼らの宗教はその壁をいくつも持っていたのです。

ユダヤ人の宗教の中心である神殿を見てください。非ユダヤ人は「異邦人の庭」にまでしか入れません。それ以上に進もうとすると、命を失う可能性あり、という警告が標識に書かれています。女性（ユダヤ人の女性）は、もう少しだけ良い条件でした。「女性の庭」まで入れたのです。ユダヤ人の男性は、それ以上に進めました。でも、どこまでも進めるわけではありません。神殿の内部に入るには、

由緒正しい血統を持っていなければなりません。レビ族の生まれでなければならなかったのです。

しかし、壁はそこで終わりませんでした。レビ族の中でも一家族だけが選ばれました——アロンの家系です。アロンの家系の人だけが祭司として働き、犠牲を捧げ、神殿の中でも最も神聖な場所に入れたのです。

それらすべてに加えて、最後の壁がありました。至聖所、すべての中で一番聖なる場所は別扱いされ、通常、放置されていました。たった1人、大祭司だけがそこに入ることができました。それも毎年1日だけ、ヨム・キプル（贖罪の日）に限ってのことでした。

壁、壁、壁。

ナザレのイエスは、人と人を隔てる壁を壊すために来られました。

イエス様は壁のない教会をつくるために来られたのです。

これが本物のアドベンチスト教会のしるしでなければなりません。イエス様の教えと生き方に忠実なアドベンチスト教会です。

壁のない教会。

井戸のそばの女性に戻りましょう。そうです、他の壁がまだありました。

●**第四の壁：彼女が悪い女であったこと**——この女性は二つのことを知っています——水と男性です。あなたが普通のアドベンチストなら、彼女は注意して避けて通るような女性でした。

もし普通のアドベンチストがたまたま牧師になったとしたら、彼はずっと昔にインターンシップで学んだはずです。アドベンチスト教会はおもに二つの理由——女性とお金——で聖職者をその働きから追放すると。そして、前者の理由のほうがずっと一般的なのです。

しかしイエス様は、女性の複雑な過去をあまり気にしておられません。イエス様は彼女の過去をすべてご存じであることをお伝えになります——彼女にはかつて5人の夫がおり、今、また別な男性と生活していると。イエス様はただ事実を述べられました。「しっかりしなさい。あなたの人生はだめになりつつある。もっと向上しなさい」などとはおっしゃいません。

女性はすぐに会話を別な話題に変えようとします。

福音書におけるイエス様と悪い女たちとの出会いを学ぶことは興味深いです。サマリアの女性との会話は、決して特別ではありません。他に2回、福音書はイエス様と悪い噂の女性との詳しい記事を提供しています。

ルカによる福音書7章は、そのような1人の夜の女が、ある社交的な場をどのように中断したかを記しています。イエス様は、ファリサイ人シモンの家での食事に招かれておられます。彼らが食事をしている最中、イエス様が体を横たえておられる席に女性がこっそり近づきます。そして高価な香料の入った壺を割り、イエス様の足にその香料を注ぐのです。彼女は涙を流し、その涙がイエス様の足にこぼれ落ちます。そして、彼女はその足に接吻し、自分の長い髪の毛をほどこいて拭いたのです。

家の主人は憤慨しました。彼は、夕食を台無しにしているこの女性を知っています。評判の悪い女性で、男性を食物にすることで知られていました。主人は心の中で思います。「もしイエス様が神の人であるなら、このようなことはさせないだろうに。彼女がどんな人物かわかるはずだ」

しかし、イエス様は彼女に「さがりなさい」とはおっしゃいません。井戸端の女を責めなかったように、彼女もお責めになりません。その代わりにイエス様は、女性を非難するのではなく、シモンを非難する物語を語られたのです。

もう一つの物語は、神殿の庭で起きました（ヨハネ8：1～11）。ある朝、イエス様が教えておられたとき、突然、宗教指導者たちが現れ、おびえる女性を引っ張って来たのです。罨でした。イエス様に恥をかかせるために、彼らはこの罨を仕掛けたのです。

「先生」と、彼らは気取って言います。「私たちは夫でない男性とベッドを共にしていた女を捕まえました。現場で取り押さえたのです。モーセは律法の中で、姦淫する者は処刑しなさい、石打ちの刑で殺しなさい、と教えています」（興味深いことに、彼女と共にベッドにいた男性については触れていません!）。「先生ならどうなさいますか？」

イエス様は何もおっしゃいません。

かがみ込み、砂の上に何かを書き始められました。そして立ち上がり、「それ

では、罪を犯したことの無い者が最初に石を投げつけなさい」とおっしゃり、そしてさらに書き続けられたのです。

指導者たちは、イエス様が書かれたものを見ます。前に進み出て、砂に書かれている文字を読むと、1人また1人と、コソコソ立ち去って行きました。

最後には、2人の人しか残りませんでした——イエス様とその女性です。イエス様は、「あなたを責める人々はどこにいるのか？」とお尋ねになりました。そして、「私もあなたを責めない。罪を犯さないようにしなさい」と言われました。

なんとという物語でしょう！

この三つの出会い（井戸端の女性、シモンの家の女性、神殿の女性）をまとめてみてください。すると、衝撃的なイエス様の姿を知ることができます。イエス様には、人々を隔てる壁がありませんでした。「良い」人と「悪い」人の区別がありません。イエス様は、あなたがどのような性で生まれたのか、どのような民族的背景を持って生まれたのかなどといったことを気になさりません。

イエス様のコミュニティーとは、壁のない教会です。

そして、本物のアドベンチスト教会はそこから始めなければなりません。

壁はありません！

アドベンチストの状況はどうでしょうか？

かなりよくやっています——しかし！

私たちの教会は、驚くほど多様性に溢れる教会です。多くの点で、黙示録 14:6、7のビジョンを成就しています——あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族から集められた人々です。教会調査機関ピューリサーチは、私たちの教会がアメリカ合衆国の中で最も多様な教団であると述べています。

すばらしいです！ 神様を褒め称えます！ でも……。

私たちが地の果てまで広がっていくにつれ、どの社会においても、壁を作るなというイエス様の教えに反対する社会的行動パターンに直面したとき、私たちは安易な道を選んできました。

私たちはインドでカースト制度の壁にぶつかりました。どうしたのでしょうか？ 福音をそれに合わせてしまったのです。つまり、イエス様のメッセージを歪めた

ということです。私たちはカースト制度に基づいて教会の行政組織を設立したのです。

私たちは平等について話してきました。1980年の世界総会本会議で、私たちは力強い「信仰の大要」を加えました。その中に、「教会は、あらゆる種族、言葉の違う民、民族、国民の中から召し出された多くの肢体を持つ1つのからだである。われわれはキリストにあって新しく造られたものである。それゆえ、人種、教育、国籍の区別や、階級、貧富の差や性の違いは、われわれの間に不和を生じさせるものであってはならない。すべての者はキリストにあって平等である。そのキリストは1つのみ霊によって、われわれを主との交わりと仲間との交わりに結び入れられた。それゆえ、われわれは偏見や分派心をいだかずに互いに仕え合うべきである」（「信仰の大要」14）。

すばらしい言葉です！ 神様を褒め称えます！

しかし、言うは易く行うは難しです。

民族的少数派の人々は、正当な立場を得ようとアドベンチストの太陽の下でもがいています。大きな社会の中でもがいているのと同じです。

私たちは他の宗教出身の人を受け入れるのが苦手です。他のキリスト教の教派からはどうでしょうか？ 多分まあまあ……、でもカトリック信徒には注意せよ！

そして、イスラム教徒に関してとなると……！ あるアドベンチスト教会の良い長老が、イスラム教徒に対してこういう意見を述べるのです——「彼らを核兵器で抹殺するといいかも」。これが良いクリスチアンの感情ですか？

『アドベンチスト・レビュー』誌での働きから引退した後、私は7年間、世界総会総理のヤン・ポールセンの特別補佐として働きました。託された任務は、世界の宗教の指導者たちと良い関係を築くことでした。その働きは私の人生を変えました。

私たちはまずイスラム教から始めることにしました。私はそれ以上先に進んだことがありません。何度も中東に行き、イスラム教に対する私の偏見と無知は徐々に消えていきました。私は、民間や宗教界におけるイスラム教の指導者たちと親しくなったのです。それらのイスラム教徒の中には、例えばヨルダン・ハシミテ

王国のアブドラ国王に仕える宗教的最高指導者のように、私と親友になった人もいます。

イスラム教徒との5年間の付き合いの後に、私の結論を記事にしました。その記事は『アドベンチスト・ワールド』誌に掲載され、そこから拡散してインターネットの中を数年間飛び回りました。それは、私が『アドベンチスト・レビュー』誌の編集長であった24年間に書いたどの記事よりも多くの反響をもたらしました。

多くの反響は肯定的、少しの反響は当惑気味、そしてその他は辛辣なものでした。私は無知だった！ 私は騙されていた！ イスラム教が嘘をつくように教えていないことは知っていた！ あなたはアドベンチスト教会の面汚しだ！

イスラム教との働きを終え、完全に引退するまでに、私の考えの中に確固たる、しかし悲しい結論が埋め込まれました。**アドベンチスト教会は、イスラム教の男女を歓迎する用意ができていない、という結論です。主は、イスラム教徒の中にも多くの誠実な弟子を持っておられますが、現在のアドベンチスト教会は、彼らへの救いの管にはなりません。**

壁、壁、壁。

そして残念なことに、それだけではありません。

徴税人と罪人

イエス様は「徴税人」や「罪人」とよく付き合われ、そのことで厳しく非難されましたが、現代における「徴税人」や「罪人」とは、いったい誰のことでしょうか？

アメリカの社会では二つのグループがあります。一つは、先ほど触れたイスラム教徒。

もう一つのグループは、LGBT（性的少数者）の人たちです。

私たちの多く、多分、ほとんどが、彼らとどう関わってよいのかわかりません。わかっている人もいますが、それは、彼らの息子、娘がそのグループに属しているからです。

イエス様ならどう関わられたでしょうか？ サマリア人、徴税人、そして売春

婦。イエス様は時間を取って彼らと話し、共に座って食事をなさいました。壁はありませんでした。

今も壁はないはず — 本物のアドベンチスト教会には。

しかし、私はもう一つの壁、アドベンチストの壁について触れたいと思うのです。

インディアンサマー（小春日和）

厳しい冬がある地域では、秋にうれしい驚きを経験することがあります。日はだんだん短くなり、風はどんどん冷たくなります。暗闇、氷、雪の時期が近づいてくるのです。しかし自然界は、突然、そのようなシグナルを変えます。風は暖かくなり、空気は乾き、空は青くなります。あたたかも心地よい夏の日が突然戻ってきたかのようです。

しかし、長い間のことではありません。数日の暖かな日の後に、冬の風が強く吹きます。暗く、寒い季節の到来の予告に、誰もが歯を食いしばります。

北アメリカでは、このような現象を「インディアンサマー」と呼んでいます。他の大陸でも同じようなことが起き、異なる名前で呼ばれています。

私は今、私の教会、セブンスデー・アドベンチスト教会のニュースを読んでいます。2016年、北アメリカ支部の什一は10億227万6749ドル（約1150億円）でした。10億ドル以上です。今までの最高額でした。

私は神様の民の寛大さと忠実さに喜びを感じます。

しかし、私はささやきが聞こえます — インディアンサマー！

最近、私は背筋がゾットする本を読みました。『それがその教会の実情であった — 英国聖公会はいかにして英国国民を失ったか』（London: Bloomsbury Centennial, 2016）という本です。この本は、英国聖公会が教会員の半分以上を過去10年から20年の間に失った原因を徹底的に正直に調べています。痛みの中で書かれたものです。著者のアンドリュー・ブラウンとリンダ・ウッドヘッドは、聖公会に雇われていました。

1990年代、教会の指導者たちは教会の状況に極めて満足していました。英国社会の中で、英国聖公会は精神的拠り所として尊敬される地位にありました。経済的にも安定しており、旧大英帝国領内における聖公会連合組織の教会員ネット

ワークを誇っていました。

教会の指導者たちは、有利な地位を得ようと競争したり、神学ゲームに熱中したりしていました。彼らはインディアンサマーの中にいたのに、それに気づかなかったのです。その壮大な建造物は堅固に見えましたが、砂上の楼閣のように、間もなく崩壊するのです。

何がこの崩壊をもたらしたのでしょうか？ 牧会おける女性の問題でした。最初は女性司祭の按手礼の問題、次に女性主教の按手礼の問題でした。

英国聖公会は次から次へと研究委員会を立ち上げ、延々と決断を遅らせたのです。

聖公会の女性たちは教会のごまかしに嫌気を募らせました。英国社会が教育の分野で女性に新しい役割を与えようとしていたその時に、教会の指導者たちは過去にこだわったのです。しかし、彼らが目覚めたときには、すでに遅すぎました。これまで——司祭としてのみならず、教えや癒し、その他の働きにおいて——ずっと教会を機能させ続けてきた能力ある女性たちが去ってしまい、戻って来ませんでした。

今日の状況はひどいものです。この教会で献金を捧げているのは、国民全体の2パーセント以下です。10人に1人しか聖公会で洗礼を受けません。そして英国人の三分の一の人々しか、教会でお葬式を挙げないのです。

『それがその教会の実情であった——英国聖公会はいかにして英国国民を失ったか』を読んだとき、私のアドベンチストの血が凍る思いがしました。

これが私たちにも起こるのでしょうか？

私たちはインディアンサマーの中にいるのでしょうか？

第4章

心の宗教

それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。人々の前で天の国を閉ざすからだ。自分が入らないばかりか、入ろうとする人をも入らせない。

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。改宗者を一人つくろうとして、海と陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より倍も悪い地獄の子になってしまうからだ。

ものが見えない案内人、あなたたちは不幸だ。あなたたちは、『神殿にかけて誓えば、その誓いは無効である。だが、神殿の黄金にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。愚かで、ものが見えない者たち、黄金と、黄金を清める神殿と、どちらが尊いか。また、『祭壇にかけて誓えば、その誓いは無効である。その上の供え物にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。ものが見

えない者たち、供え物と、供え物を清くする祭壇と、どちらが尊いか。祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上のすべてのものにかけて誓うのだ。神殿にかけて誓う者は、神殿とその中に住んでおられる方にかけて誓うのだ。天にかけて誓う者は、神の玉座とそれに座っておられる方にかけて誓うのだ。

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。薄荷、いのんど、茴香の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行すべきことである。もとより、十分の一の献げ物もないがしろにしてはならないが、ものが見えない案内人、あなたたちはぶよ一匹さえも漉して除くが、らくだは飲み込んでいる。

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。ものが見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えながら、内側は偽善と不法で満ちている。(マタイ 23：1～28)

イエス様からの厳しい言葉です。

マタイ 23 章は、アドベンチストが好む箇所ではありません。今までマタイ 24 章——再臨のしるし——についてどれだけ説教を聞いてきたでしょうか？ しかし、そのすぐ前の章からの説教はどれだけ聞いたでしょうか？ 私は一度すら、聞いた覚えがありません。

それはなぜでしょうか？

イエス様にとってマタイ 23 章が重要ではなかったからでしょうか？ ここにおられるのは、捕らえられ、裁判にかけられ、十字架にかけられる 1 日か 2 日前のイエス様です。どうでもよいことについて、彼がこれほど長い話をしたと、あなたは思いますか？

実は、イエス様の初期の働きにさかのぼるなら、私たちはまさに同じ考えを強調しておられるイエス様を見いだすのです。それは山上の垂訓の中においてです。私たちはこの有名な説教の最初と最後の部分については、通例、いろいろ論じます。しかし、イエス様が6章で——しかも強い言葉で——言われたことは見過ごしているのです。

この二つの個所で、イエス様は本物の宗教に言及しておられます。その宗教は偽物ではありません。宗教ゲームでもありません。でたらめでもありません。

それは心の宗教です。

では、マタイ 23 章の中を調べてみましょう。イエス様の言われることにショックを受ける人もいるかもしれません。イエス様はショッキングなお方でした。私たちの焦点は 23 章ですが、彼が同じ考えを述べておられる6章の一部にも触れます。

有毒な宗教

マタイ 23 章と6章では、イエス様が用いられた一つの言葉がこの議論を要約していると思います。それはギリシア語の「ヒュボクリテー」で、字義的な意味は「偽善」。基本的な意味は劇などの「役者」です。

マタイ 23 章では、この言葉が7回、マタイ6章では、6回登場します。マタイの福音書全体では、14 回です。イエス様がこの偽善という考えを目立たせておられることから、私たちは、宗教ゲームをすること、またはうわべを飾ることが、イエス様にとって最も不快なこと、最も叱責すべきこと、最も修正されるべきことであったのだ、と正しく結論づけることができます。

アドベンチスト教会はどうでしょうか？ 偽善——神の名において宗教ゲームをすること——についての説教をどれだけ聞いてきたでしょうか？

マタイによる福音書は、「偽善」という言葉を強調しているだけではありません。イエス様はマタイ 23 章と6章の両方において、宗教ゲームをする人々の行動の実例を次々に挙げながら、偽善者のふるまい方を詳しく説明なさいます。

1. 口先だけで実行しない

「宗教指導者たちが語ることは聞きなさい」と、イエス様は弟子たちに助言なさいます。「しかし、彼らがやっていることは真似してはならない。彼らは律法を押し付けることにはたけているが、あなたがたにさせたいと思うことを彼ら自身はやろうとはしない」

言葉、言葉、言葉。私たちの世界は、言葉の洪水の中で溺れそうです。情報と偽りの情報、ニュースと偽りのニュース、事実ともう一つの実事、情報操作、真実と部分的真実。嘘。私たちは何を信じたらよいのでしょうか？ 誰が信頼できるのでしょうか？

教えましょう。語ることと生き方が一致している人々です。有言実行の人です。まがい物でなく、本物の人です。

心から生じる宗教を持っている人々です。

2. チェックリストの宗教

宗教指導者たちは、人々が要求の重荷を背負い込んで応じられなくなるまで（これをするな、あれをするなど）ルールを積み重ねると、イエスは言われました。希望と安らぎをもたらすべき宗教が、代わりに憂鬱と失望をもたらすのです。イエス様の時代の宗教、つまりユダヤ教は、トーラー（神様の教え）の上に成り立っていました。バビロンの軍隊によってイスラエルが滅ぼされたとき、栄光に輝く神殿は徹底的に破壊され、エリートたちは捕囚となりました。ユダの人々はバビロンの川のほとりで、なぜうまくいかなかったのかを考える時間がたくさんありました。

彼らは旧約聖書を調べながら、二つの罪が特にヤーウエの怒りを招いたと結論づけました——偶像崇拜と安息日を破ったこと。そこで彼らは変わることを誓いました。それ以後、ユダヤ教は厳格な一神教となり、安息日を完璧に守るようになったのです。

バビロンにおいて捕囚たちは、神殿がもはやなかったので、会堂と呼ばれる集会場所を作りました。人々はそこに集まって、祈り、律法を朗読し、教えを受け

ました。会堂は飾り気のない質素な建物で、神様を表す視覚表現もありませんでした。中心には律法の巻物がありました（ユダヤ教の会堂で礼拝に参加した人なら、律法の巻物への崇敬に気づくことでしょう）。

ラビたちは安息日を破るのを防ぐために、安息日には何が許され、何が許されないのかについて、一連の規則を作りあげました。やがてこれらの規則は、39のカテゴリーを持つ大きな巻物になりました。その企ては、細部に至るまで、正しい安息日順守を細かく規定するためでした。例えば、安息日には1マイル(1.6 km)の三分の二の距離しか出歩けません。安息日に許される旅の距離です。安息日に家の中でサソリを見つけたら、容器をかぶせておき、太陽が沈むまで殺すのは待たねばなりません。

規則を中心とする宗教は、人生のすべての状況でどのように行動するかを規定しようとしています。それは必然的に自己崩壊を招きます。人生は複雑すぎて、厳格な規則によってきつく縛ることができません。そこでラビたちは規則に例外を設けました。安息日には1マイルの三分の二しか出歩くことができないけれど、もし金曜日に道の途中に食量を貯蔵しておくなら、安息日にその食料を食べて、新しい旅を始めることができるというのです（今日の正統派ユダヤ教徒の安息日順守と比べてください。彼らは、安息日に電気のスイッチを入れることは許されていませんが、異教徒がそれをしてくれるなら大丈夫なのです）！

規則に焦点を合わせることで、最後には、「ベからず集」の大きな大要が作りあげられました。当初、『ハラハー』（ユダヤ法）として知られた、この聖書以外の資料は口伝で伝えられたのですが、紀元3世紀に、『ミシュナ』と呼ばれる書物にまとめられました。ラビの解釈を競い合っていた学派の間では、熟考、話し合い、論争がその後も数世紀間、続きます。最終的に、この著作物は『タルムード』になりました（『バビロニア・タルムード』は70巻にも及び、『パレスチナ・タルムード』は少し短いものでした）。

このようなチェックリストの宗教は、一般の人々には要求が大きすぎました。彼らの生活の焦点は、1日2回、テーブルにパンを確保することでした。宗教指導者たち——律法学者やファリサイ派の人々——だけが律法の細かな要求に応える時間と手段を持ち合わせていました。そして彼らは、一般の人々を見下していた

たのです。「だが、律法を知らないこの群衆は、呪われている」(ヨハネ7:49)と、彼らは言いました。

イエス様は当時のチェックリスト宗教と衝突なさいました。律法学者やファリサイ派の教える言い伝えを軽視されたのです。彼らはイエス様を憎み、やがてすぐに、人々への彼らの支配権に対する脅威と認識するようになりました。人々はイエス様を愛しました。しかし宗教指導者たちはイエス様を危険な民衆扇動家と見なしたのです。

3. すべてが見せびらかし

「そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする」(マタイ 23:5)。山上の垂訓の中で、イエス様は彼らのでたらめの宗教を批判なさいました。誰もが見て感動するようにと、宗教指導者たちは通りに立ち、長い祈りを捧げ、慈善のための寄付を人前で見せ、断食していることを知ってもらうために顔を醜くしていました。

彼らはすでに報いを受けていると、イエス様はおっしゃいました——その報いとは、彼らの見せかけの信心深さによって心打たれた通りがかりの人たちからの褒め言葉です。しかし、彼らが獲得するのはそのような報いだけです。天の父は彼らの宗教ゲームなどに感動したりなさいません。イエス様は彼らが企んでいることをご存じです。彼らが求めていた称賛は、この地上止まりです。

ハッとさせられます！ イエス様に従う者として何かをするとき、なぜ私はそれをするのでしょうか？ 安息日順守は？ 什一やその他の献金は？ 慈善のための寄付は？ もし税務署が方針を変え、寄付に対する税金の控除をやめたなら？ それでも私は寄付を続けるのでしょうか？

律法学者やファリサイ派の人々は、彼らの服の着こなしても信心深さを見せびらかしました。昔、主はモーセの律法の中で、律法を身に着け、律法を瞑想し、家族の者に繰り返し語りなさいと言われました(申命記6:6~8参照)。身に着けなさいという教えを字義どおりに理解するよう、ヤーウエが意図しておられたのかどうかはわかりませんが、宗教指導者たちはそう理解しました。彼らは衣の房を長くし、聖句箱(律法の一部が書かれた羊皮紙を納めている小さなケース)

を身に着け、自分がいかに信心深いかを世間に見せたのです。

すべてが見せびらかしのためです！　すべてが他の人の注意を引くためです！

しかし、イエス様は弟子たちに次のように助言なさいましたし、私たちにも助言しておられます。「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意なさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる」(マタイ6：1)。献金するとき、大きな額の献金ならば、自分にしかわからないようにしなさい。あたかも、右の手がしていることを左の手がわからないかのように、静かに、秘密裏に行いなさい。あなたが祈るとき、独りで、あなたと神様だけで、心から祈りなさい。あなたが必要だと思うものについて、くどくど言う必要はありません。父なる神様は、あなたが本当に必要としているものをすでにご存じなのです。同じように断食をするとき、それも神様とあなたの間のこととしなさい。あなたが断食していることを誰にも言わないように。あなたと神様の間の秘密です。父なる神はそれを見て喜ばれます。

4. 有毒な宗教

規則に焦点を合わせる宗教は有毒になります。霊的健康に危険です。あなたとあなたが接触する人々の霊的健康に影響があります。

律法主義の宗教は、行為に関心があって、人々には関心がありません。それは交わりよりも規則を、神様よりも規則を大事にします。

律法主義の宗教は、乾き、不毛になり、やがて批判的になります。あなたがその道を行くなら、あなたのようにすべての規則を守っていない哀れな愚か者たちより、自分がいかにすばらしいかを誇るようになります。そしてあなたの宗教性に――神様の目に自分は偉大に映っているに違いないと――思い上がり、他者を批判するようになるのです。

有毒な宗教は危険です。それはあなたを霊的な病気にし、あなたと共に礼拝している人々にも広がります。

イエス様は、突き刺すほどの明快さでこのポイントを説明する物語をいくつか話されました。祈りを捧げるために神殿に出かけた2人の男性の話もそうです。

1人はファリサイ人でした。彼の祈りはこのような祈りでした。「神様、他の人々

と同じでないことを感謝します。私は断食をし、忠実に什一をお返ししています。私は本当に良い人間です！そしてあのような人間、あのような徴税人でないことを感謝します。あなたの家で、いったい彼は何をしているのでしょうか？彼の居場所はここにはありません！」

徴税人の祈りは短い祈りでした。神様の前にひざまずき、彼はただ自分の罪を告白し、「私を憐れんでください」と神に求めました。

そしてイエス様は、この2人が神殿を出て家に帰ったとき、祈りが聞かれたのは1人の祈り——徴税人の祈り——だけだった、とおっしゃったのです。

5. 肩書と特典

宗教指導者たちは肩書を喜びました。「先生」とか「案内人」を意味する「ラビ」という名称で呼ばれることが、彼らは大好きでした。ただの「ミスター」では、彼らの自尊心を満足させるには不十分だったでしょう（そこには「ミス」や「ミセス」はありませんでした。律法学者とファリサイ派の人々は、女人禁止の男性だけのクラブに属していたからです）。

神殿とその儀式は、宗教中心の社会秩序と生活の頂点でしたが、そのような社会の中で、宗教指導者たちは特権を享受していたのです。その地位には特典が伴っていました。会堂に行ったり、何かの社交行事に招かれたりしたときは、いつも主催者が彼らを上席に案内したのです。

そうです。宗教は神様に関するものでした——でも指導者たちにとっては、それ以上の意味があったのです。

イエス様にとって、それはすべてまやかashiでした。その宗教は、心に関する本質、唯一の神様を誠実に礼拝するという本質、また男女の同胞を愛するという本質を見失っていました。

マタイ 23：1～12 に記録されている宗教指導者たちへの痛烈な非難の後、イエス様は七つの不幸を宣告しておられます。「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ！」強いインパクトのある言葉です。しかし、イエス様の声は涙声でした。

6. あなたたちは不幸だ ― 神の国から人々を締め出している

あなたたちの宗教は有毒です。致命的です。殺します。それは天の国からあなたたちのみならず、他の人々をも締め出すでしょう。神の民にとって教師であり、案内人ですが、あなたたちの教えは、神様が望まれていることと反対の結果を生み出しています。

不幸です、不幸です、本当に！

7. あなたたちは不幸だ

― 天の国のためではなく、利己心のために改宗者を増やしている

ユダヤ人がローマ帝国中に広がっていたので、彼らの宗教の肯定的な部分、例えば厳密な一神教や、当時の一般的な遊興の文化とは対照的な道徳的生き方は、思慮深い異邦人を惹きつけました。会堂の礼拝に参加するだけの異邦人もいれば、ユダヤ教を受け入れるところまでいく異邦人もいました。彼らは「神様を畏れる者」と呼ばれていました。パウロは伝道旅行の中でこのような大勢の異邦人と出会っています。しかし中には、彼らを改宗者にする儀式 ― バプテスマと割礼 ― を実際に受け入れた異邦人もいました。

イエス様の時代のファリサイ派の人々は、このような改宗者たちを人間トロフィーとみなしました。そして改宗者に働きかけ、律法主義的にトーラを順守させようとしたのです。ファリサイ派の人々は、改宗者が自分たちと同じように行動することを望んでいました。

このように、(アドベンチスト的な良い表現を用いれば)「魂を勝ち取る」ことにおいても、宗教指導者たちは真の宗教を歪めていました。改宗者に焦点を合わせた彼らの行動は、実のところ彼ら(律法学者やファリサイ派の人々)のためのものであって、神様のためものではありませんでした。

しかし主は、そのような「魂を勝ち取る」ことに感動したりなさいません。神様にとって重要なのは、何名の人にバプテスマを授けたかということではなく、むしろ何名の人か神の国のメンバーであるかということなのです。

8. あなたたちは不幸だ——約束、約束

宗教指導者たちはこじつけが得意でした。彼らは規則を編み出しながら、その規則の抜け道も考えていました。あなたは約束をすることができますが、彼らは、同時にその約束を守らない方法もあなたに教えるでしょう。

もし仮にあなたが土地を所有しており、その土地を売るつもりで 500 デナリオンという価格を設定しました。買い手が現れました。

「あなたはこの土地を 500 デナリオンで本当に売りますか？」

「はい、本当です」

「いい値段ですね。私がお金の工面をしている間に、あなたは値段を変えませんかよね」

「私を信用してください。誓います。神殿にかけて誓います。値段は 500 デナリオです」

買い手の人はお金を工面するために出かけます。すると他の誰かが来ました。

「あなたが土地を売ろうとしていると聞いたのですが、私は長い間、その土地が欲しいと思っていたのです。聞いてください。本当に欲しいのです。600 デナリオン、お支払いしますよ」

あなたはがっかりです。手にしようとしている額より、もっと高く売れたはずだからです。

どうしたらよいでしょうか？ 心配ご無用です。宗教指導者があなたを助けにやって来ました。

あなたは事情を説明します。すると彼は、「あなたは神殿にかけて誓ったのですね？」と言いました。

「はい、そのとおりです」

「その誓いは、ただ神殿にかけてのものでしたか、それとも神殿の黄金にかけてのものでしたか？」

「神殿にかけてです」

「あなたは幸運です。あなたはその約束を守る必要はありません」

ジャンク宗教！ まやかし！ ごまかし！

イエス様は言われました。「私は、あなたがたが約束を忠実に守る人々であってほしいと思う。神殿によって誓う必要も、その他の何かにかけて誓う必要もない。『はい』か『いいえ』で十分なのだよ」

考えてみれば、なぜある人たちは、「私を信用してください」と情報を提供する前に言うのでしょうか？ そんな約束がなければ、彼らの言葉は十分でないのでしょうか？

あるいは、「私を信用してください」という言葉は、彼らを信用するのは慎重であるべきだというシグナルなのかもしれません。

9. あなたたちは不幸だ

—小さいことにとらわれ、重要なことをないがしろにしている

什一は大切な慣行であり、神様から与えられたものです。宗教指導者たちは、確実にそれを正しく行いたいと思っていました。彼らの規則は、庭に育ったイチジクの実の什一をどうやって捧げるかなど、極めて細かいことにまで及びました。中には、庭の薬草——薄荷、いのんど、茴香——の葉っぱを数え、什一としてお返しするために、その十分の一の葉っぱを引き抜く人もいました。

「あなたたちは什一には注意深い」と、イエス様は言われました。「それはよいことだ。什一は返すべきだ。だが、あなたたちはまったく思い違いをしている。あなたたちは什一には細かいが、もつと重要なものには盲目だ。正義、慈悲、誠実は、神様にとって本当に重要なものなのだよ」

彼らの価値観は逆さまでした。長い間、小さなことばかりに焦点を合わせていたために、森が見えなくなっていたのです。自分たちが飲む水からぶよは取り除くのに、ラクダは飲み込んでいたのです！

10. あなたたちは不幸だ

—外面にばかりに焦点を合わせて、心をないがしろにしている

あなたたちにとって、すべては外面だ。

どう見られるか。

他の人々があなたたちをどう思うか。

彼らがあなたたちについて何と言うか。

とても信心深い。

とても神様に近い。

もし人々があなたたちの本当の姿を知ってさえいたなら！ 扉の付いたあなたたちの長い衣の内側に、神はあなたたちの宗教をご覧になる。その宗教は、何もかもがあなたたちに関している——強欲、放縦。

11. あなたたちは不幸だ

——神様にとってあなたがどれほど不快であるかに気づいていない

あなたたちは丘の上の預言者の墓の上に建てられた記念碑のようだ。太陽の光の中では白く輝いているが、墓を開いてみなさい！ 腐った肉体が悪臭を放っている。

聞きなさい。靈的にあなたたちはひどい、実にひどい状態だ。その問題は、あなたたちが信心深く見せ、信心深く行動するから、ますますひどくなってしまふ。あなたたちの宗教は、次から次へと続く大きな芝居か、ゲームのようなもの。そしてあなたたちが頻繁に語る律法は、人々の頭を叩く道具になっている。でも、あなたたち自身はどうなのだ？ それを守っているのか？ いいや、守っていない！

12. あなたたちは不幸だ ——先祖の罪

あなたたちは、自分たちが先祖よりもはるかに良いと思っている。彼らは預言者たちを殺したが、自分たちがそんなことをするのは考えられないと。

本当だろうか？ あなたたちは、先祖がしたことよりもさらに悪い罪を犯そうとしている。すでに心の中で、あなたたちは企んでいる。あなたたちの計画は、預言者の中でも一番偉大な預言者を殺そうとするものだ。

あなたがたは蠅の子！ 地獄行きだ！

なんと！

これがイエス様でしょうか——柔和で従順で優しいイエス様？

これがイエス様、ありのままに語るイエス様です。

イエス様の声は涙声。

この章は今日のアドベンチストに何を伝えようとしているのでしょうか？ 多くのものを伝えようとしています。もし私たちが聞く耳を持っているならば……。

マタイ 23 章とアドベンチスト

最初からはっきり申し上げると、律法学者やファリサイ派の人々に語られたイエス様の厳しい言葉は、私たち全員にとって意味があります。私たちの中の宗教指導者たち——牧師、教区長、教団総理、支部総理、世界総会総理——にだけ適用することで、その意味を歪めてはなりません。しかしそうは言っても、指導的立場にいる人々には責任が加えられてきました。神様は彼らが群の羊飼いとなるように、神の国へ向かう途上にある私たちを助ける霊的案内人になるように意図しておられます。

私はナザレのイエスの生き方と教えを真剣に受け止める人はみな、マタイ 23 章と 6 書にある彼の勧告を祈りつつ熟考しなければならぬと信じています。あなた自身に問いかけてみてください——「これは私だろうか？」「私の宗教は心からのものだろうか？」「それは有毒だろうか？」「私が通う教会は有毒だろうか？」と。

友人なるみなさん、確かに有毒な教会は存在します。アドベンチスト教会の中にも、「危険、近づくな 有毒宗教」という掲示を掲げなければならない教会があるのです。

大げさに言っているわけではありません。一つの教会をご紹介します。

長年、私たちの家族はある大好きなビーチでよく休暇を過ごしたものでした。他の多くのアドベンチストも同じように休暇をそこで過ごしていたのです。昔のことですが、ある人に一つの考えが浮かびました。それは、「日曜」教会の教会堂を借りて、休暇でリラックスしているアドベンチストのために安息日礼拝をするという考えでした。それはすばらしい計画でした。それから何年もの間、私たちの多くは、スタンドグラスの窓がある美しいルーテル教会で交わりと礼拝を楽しみました。それは短期滞在の夏の会衆でした。季節が寒くなってくると避暑客はいなくなり、安息日礼拝も終わるのです。

やがて、二組のアドベンチストの家族が引退してその地域に住み、一年中教会を開くようになりました。会衆を大きくする努力を始めました。時々、私もそこでの説教の奉仕を依頼されました。

ゆっくりですが、そのグループは成長して、10人、20人、そして最後には30人ほどになりました。

妻と私はそこで起きていることを目にして喜びました。時々、成長している会衆に説教をするように招待されたからです。小さいけれど、温かく、居心地の良い教会でした。

ある訪問の後、数か月してから、その教会を再訪しました。すぐを感じました——何かが起きたのだと。私たちは裁かれていると感じ、何かが足りないと思いました。何人かの律法主義的なアドベンチストがその地域に引っ越して来て、指導的役割に入り込んだのです。そして教会を乗っ取ってしまいました。

彼らの考え方は有毒でした。大都市、悪の町であるワシントンから来る人には警戒し、自分たちのグループを小さく、清く保とうとしたのです。妻と私は彼らの「クラブ」への侵入者のように見られました。

そのような考えを持つとき、私たちは誰を欺いているのでしょうか？

その小さな教会に何かが起きたのでしょうか？ 想像できるかと思います。律法主義者がその教会を殺したのです。それは特殊なケースではありませんか？ 残念ながら、そうではありません。

●**ケース1**：私たちは、オーストラリアの故郷の町に帰り、若いすてきなアドベンチストの女性に再会しました。親しい友人です。彼女が私たちに打ち明けました。彼女は恋に落ち、結婚を希望していました。しかし、恋人の男性はアドベンチストではありません！

教区の青年部の指導者に結婚式の司式を依頼しました。彼はこう言いました。「もし私が司式をするなら、牧会を去らなければならないんだよね。というのも、アドベンチストはアドベンチストとだけ結婚することになっているから」

しかし、彼は続けてこう言ったのです。「でも、私が司式をできる方法が一つあるんだ。もしあなたが教会員の籍を抜けば、あなたは婚約者と同じになるでし

よ。そうすれば私は司式が許されるんですよ」と。

これは異常だと、私は思います。私は、アドベンチスト教会が同じ信仰者同士
の結婚を勧めていることを理解していますし、支持もします。ですが、どちらに
大きな価値があるのでしょうか——結婚そのものですか、それとも両者がアドベ
ンチストであることですか？ 多くの若者が結婚する前に同棲生活を始める現代
社会において、私たちは結婚を優先し、それを励まし、支えるべきではないでし
ょうか？

私たちの若い友人はアドベンチスト教会を去りませんでした。彼女と婚約者は
別の教派の牧師に依頼して、彼らの結婚式の司式をしてもらいました。彼らの最
初の子どもの献児式を行うとき、どちらの教会でするのが一番自然に感じられる
とあなたは思いますか？

●**ケース2**：これは極めて個人的な事例です。1930年代の大不況の暗い時期
のことです。仕事を見つけることは難しく、お金を得ることはもっと困難でした。

私の両親には9人の子供がいました。そう、9人です！ 私は一番下で、
経済的に厳しい時期の真ただ中に生まれました。

父は這いつくばりながら、時折仕事を見つけて、小さなビジネスを始めました。
彼はほんの少しの資金をポケットの中に持っていました。

子どもたちは靴を必要としていました。

父は熱心なアドベンチスト教会への改宗者で、彼の持っていた少ないお金の中
から什一を返そうと決心しました。欲しかった靴よ、さようならです。

父と一緒に霊的な旅路を歩まず、アドベンチスト教会に加わっていなかった母
は、怒り心頭でした。何年も後に、彼女は苦々しげにその時の話をします。

何十年も経ってこの話を書きながら、私は敬虔深かった父を思い、初めてです
が、彼は正しいことをしたのだろうかと考えるのです。什一を捧げることは大切
です。しかし、子どもたちに靴を履かせることも大切ではないでしょうか？ 父
は、マタイの言う「最も重要なこと」——正義、慈悲、誠実——を無視してしま
ったのではないのでしょうか？

私の敬虔深い父は、些末なことを重視し、重要なことを軽視したのではないで

しょうか？

本物の宗教

マタイ 23 章 — すごい章です！

すばらしくも、心を動揺させる恐ろしい章です。

マタイ 23 章は、私の心を熊手で掃き、落ち葉をまき散らし、たまったごみをまき上げるのです。

律法学者とファリサイ派の人々、ウィリアム・ジョンソンを警戒してください！
昔の宗教指導者たちを非難する前に、あなたの心の中をしっかりと見つめてください！

第5章

光のような透明さ

その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りがない。」ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」更に言われた。「はっきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」(ヨハネ1：43～51)

ナタナエルはイエス様が好む人でした。

このような男性は信頼できます。彼から中古車を買うとしても、走行距離計を戻したり、買わせるために不正な加工を行ったりしないと確信できます。

イエス様はナタナエルをご覧になるなり、「まことのイスラエル人だ。この人には偽りがない」と、彼について言われたのです。この「偽り」に相当するギリシア語は「ドロス」です。欽定訳では「狡猾さ」と訳されています。「ドロス」

の基本的な意味は、「釣り針の餌」です。釣りから来た言葉です。釣り人は、みみずや魚が好みそうな練り餌を釣り針に付け、それを魚の前に垂らすのです。魚はそれを見て周りを泳ぎ、戻って来てつき、やがて食いつくのです。

それが「ドロス」——「偽り」「狡猾さ」「見せかけ」です。今日の世界では、漁師のみならず、多くの職種で使われています。

広告は、私たちの文化の中で大きな部分を占めていますが、大いに「ドロス」を用いています。BMWからバド・ワイザーに至るまで、どんな製品であれ、広告にはグラマーな女性や自信にあふれて幸福そうな人たちが付き物になっています。

そのメッセージは、「あなたはこの製品を買うだけではなく、幸福、名声、自己肯定感を買うのだ」というものです。

餌がぶら下がっています。ぶら下がっています。ぶら下がっています。餌には抵抗できません。

ナタナエルは餌を用いません。ごまかしがありません。隠れた意図もありません。ナタナエルは、あなたが見たとおりの人間です。

本物のアドベンチストはナタナエルのような人です。イエス様は、ご自分が目にしたことを気に入られました。彼はナタナエルを真のイスラエル人と呼んでおられます。四福音書を調べても、イエス様がこの言葉を他の誰かに使われた個所を見いだすことはできません。

イエス様はその言葉によって何を言おうとされたのでしょうか？

それを理解するためには、最初のイスラエル人に戻らなければなりません。その人の名前はヤコブです。

ヤコブは、他に言いようがないのですが、ペテン師でした。創世記は何章かを彼の物語に割いています。美しい話ではありません。

彼は旅路のすべての場所で嘘をつき、人を騙しています。彼は、自分が賢いと思っていたのです。

しかし真実を言えば、彼は賢さを鼻にかけて嫌われていました。

このペテン師、巧妙に人を操るこの人、この嘘つきが当然の報いを受ける日は、やって来るでしょう。その日が近づいているのを、あなたは感じる事ができま

す。ヤコブが自分の悪事を思い知る日が来ることを、あなたは知っています。

そして、その日が訪れるとき、ワーオ！哀れなヤコブの上に天井が突然崩れ落ちるのです！ そのことを思うと、私はクスクス笑わずにはいられません。

ヤコブはどれくらい悪かったのでしょうか？ 実に、ものすごく悪かったのです。双子の兄を騙し、家族の長男である名誉を安く売り渡すようにさせました（彼らは双子で、エサウは一瞬の差だけ年上でした）。ヤコブは、長子の特権がもたらす霊的な祝福を石油缶のように売買ができると考えました。

しかし、まだあります。彼は目の見えない父親さえ騙したのです。彼は嘘をつき、自分がエサウであるふりをしました。視力を失ったかわいそうな父親は聴力も失いかけており、困惑します。声はヤコブのようなのに、エサウだと主張するこの人物は誰なのか？

最後に、老人は確信します——これはエサウに違いない、と。そして彼は、エサウのために用意された祝福をヤコブに与えました。

ヤコブは本当にずるい！

ヤコブは最低の男！

自分の父親さえも騙すとは、見下げ果てた男です。それよりもひどいレベルはあるのでしょうか？

そのペテン師は、「成功」を喜ぶことができませんでした。なぜならエサウが気づいて、こう誓ったからです。「弟は死ななければならない！ 父親が亡くなった後に……」

ヤコブは逃亡します。北の方角へ、殺意を持った兄からはるか遠く離れた安全な場所を目指しました。ヤコブは、家無し、一文無し、友人無しでした。

これはすべて彼の嘘とずるさがもたらした結果でした。

旅の疲れから、夜は野宿するはめになりました。寝袋も毛布も簡易ベッドもありません。

枕もなく、周りを見回したときに、彼の頭を置ける大きな石を見つけ、眠りにつきました。

星が輝き始め、彼は夢を見ます。神様に関する夢でした。天に届く梯子の上を天使たちが上り下りしており、一番上にはヤーウエが見えるのです。

突然、彼はすっかり目覚めました。ある考えが、稲妻のように彼を打ったのです。「神様がここにおられる。こんな場所にも！ 同胞が住む土地にだけではなく、ここにもおられる！ 私はひとりぼっちではない」

そしてこのペテン師は、夜の啓示から目覚める頃、夢で現れてくださった神様に約束をします。しかし、そのような約束するときでさえ、彼は古いペテン師ヤコブの枠を超えられませんでした。

ヤコブの約束はこのようなものです。「神様、もしあなたが私を気にかけ、無事に故郷へ戻してくださるなら、私が得るすべてのものの十分の一をあなたにお返しします」

大した約束です！ 「もし」……です！ ペテン師はペテンをやめられません。それは取引です。彼はその取引で最大限の利益を得ようとしていました。

想像するに、ヤコブは自分の首の痛みを取ろうとしながら旅を続けました（あの「枕」は固かった！）。旅は何百キロもずっと続けました。そしてとうとう、北東——現在のイラク——にたどり着きます。

着いたヤコブは嬉しかったことでしょう！ 彼がもっと喜んだのは、羊の群れを世話しているかわいい女の子に出会ったときです。

彼女は美しく、何かが彼の疲れた心の中で飛び跳ねました。

そこでペテン師の物語の新しい章が始まります。それは、ヤコブと彼が愛したラケルと彼女の父ラバンとの大河物語になりました。

かわいそうなヤコブは、まさか自分と同じくらいにずるく、嘘つきの男の手中に落ちるとは思ってもいませんでした。もしヤコブがひどい人間だとすると、ラバンのその十倍くらいひどい人間だったのです。

ヤコブは確信していました——ラケルだけが彼にとって唯一の人であると。そこでラバンに彼女への求婚の許可を求めました。

「いいでしょう」と、ラバンは答えました。「しかし娘を妻とするために、君はどれくらい支払えるのかね？ ここではそれが習慣なんだ。花婿が持参金を払うんだ」

ヤコブにはお金がありません。

しかしラバンが助けの手を差し伸べます。「心配することはない。君が何をし

たらいいか教えよう。私のためにただ7年間働いてくれればいい。そうしたら、君の給料を私が貯めておこう。それが花婿の持参金になるんだ」

（私はラバンのことをあなたに警告したでしょうか？）

大した取引です。しかし、ヤコブはラケルに夢中でした。7年間無給で働かねばならないとしても、ラケルを手に入れることができるならそれでいい。ヤコブは取引に応じました。

年月は瞬く間に過ぎ去りました。そのスピードはどんどん早くなっていきました。もうすぐ、ラケルを花嫁として迎え入れられるでしょう。

結婚式に飛びましょう。花嫁は桃のような美人でした。結婚衣装の厚いベールの裏には、本当に美しい花嫁の顔がありました。

とうとう、すべてのお祭りとお祝いが終わりました。招待客は帰りました。ヤコブはラケルと一緒にテントに行きました。

戒律を守る意味でも、その夜のことの説明は割愛します。次の日の朝、朝の光が差し込んできたとき、ヤコブは新妻を見たのです。昨夜身に着けていたものがないすてきな妻をです。

彼は見て、目をこすりました。

「ラケル、朝の君は違って見えるよ。ラケル？」

「えっ、あなたは誰？」

「私はラケルの姉のレアです」

レア！ ヤコブは自分の 아이폰 に手を伸ばしました。

「ラバン、どうなっているんですか？ 大きな間違いが起きていますよ」

「息子よ、落ち着きなさい。何か問題なのかね？」

「ラケルですよ。いや違う、私のベッドにラケルがいません。それが問題なんです。誰かが、夜の間に私の花嫁を取り換えたんです。レアになっていました」

「本当に？ まあ、驚くには当たらんよ。レアね？ よく聞きなさい。何事にも順序というものがあるじゃないか。私たちの地域では、下の娘が上の娘よりも先に結婚することは許されていないのだよ。だから君に起こったことは、極めて普通のことなのだ」

「でも私はラケルを愛しています。7年間も彼女のために骨折りの仕事をして

きました。いつ彼女と結婚できるんですか？」

「息子よ、気楽に考えなさい。極めて単純なことだ。今やレアが結婚したのだから、君はいつでもラケルと結婚できる。もし君が怒っているなら、別の結婚式をすぐにでも挙げることができるのだよ」

「すばらしい！ 結局のところ、ラケルと私は結婚できるのですね」

「もちろんだ。私を信用しなさい。でも君は気づいているかね。ラケルのために、君は支払わねばならんのだよ」

「何ですって？」

「簡単なことだ。さらに7年間、私のために働くのだ。そうしたら、君の給料を持参金として私が貯めておくからね！」

さらに7年間。ヤコブは騙されていたのです。自業自得というやつです。

ヤコブの家庭生活は災難へと発展します。姉妹である彼の2人の妻は、猫のように争いました。夫の愛情を得るためにお互いに策略を巡らし、結婚ゲームの中で子どもたちを手駒として使いました。2人は側女として他の女性も家庭に入れたのです。

今やパテン師の家庭には、いがみ合う4人の女性と子どもたちがいました。嘘とごまかしは続きました。それは典型的な機能不全の結婚、地獄のような結婚生活でした。

父親の罪は子どもたちに引き継がれました。嘘とごまかしです。本当に暗い部分が浮かび上がってきました——暴力、近親相姦、殺人です。

その間に、義理の父親ラバンとの関係はさらに悪化していきました。ヤコブとラバンは、互いに相手を出し抜こうとして策略を巡らしました。ヤコブが旅の準備をしたとしても、行く当てもありません。故郷を去るとき、そこへ戻る道を閉ざしてしまいました。怒っているエサウがヤコブを殺そうと待ち構えています。

とうとうヤコブはラバンとの関係に我慢できなくなり、抜け出すことにしました。エサウとの運に賭けてみるほうが、狡猾なラバンともう1日過ごすよりはました、と考えたのです。しかし、その決断に至った後で、彼の本性が出てしまいます。ラバンが孫たちに別れの接吻ができるような名誉ある別れをする代わりに、ヤコブと家族はこっそりと南方に向けて旅立ったのです。しかもその時、美しい

ラケルはラバンの家の神々を盗み、それについて嘘をつきました。

なんという家族でしょう！

人生が間もなく終わる頃、ヤコブは最後にエジプトへ行きました。ファラオはヤコブとの会話の中で、彼の年齢について尋ねています。族長は答えました。「わたしの旅路の年月は百三十年です。わたしの生涯の年月は短く、苦しみ多く、わたしの先祖たちの生涯や旅路の年月には及びません」(創世記 47：9)。私には、130歳は幸せな年月であったように思えます。しかし、かわいそうな嘘つき者ヤコブには、自分の生涯が失敗だったとしか思えなかったのです。

もしヤコブの物語があそこで終わっていたなら、ペテン師が自分の撒いた種を刈り取った悲しい、悲しい話でおしまいです。しかし、この物語には別な部分、別な要素があり、それがこの物語を転換するのです。

ヤコブは家族や家畜と共に、南に向かっていました。ラバンもハラシムも、はるか後ろです。長い年月の後に、彼は故郷に近づいてきました、そこには、怒りで煮えたぎっている兄のエサウがいます。ヤコブは、自分を殺すと誓った兄弟に今から会わなければなりません。そしてヤコブは、エサウが兵隊を伴って近づいているという知らせを受けます。

動揺します。ヤコブは、唯一の助けがヤーウエにあることを知っていました。ヤボクの川のほとりで、彼は一夜を1人で過ごし、昔、エサウから逃れたときに現れてくださった神様を尋ね求めます。その夜、暗闇の中で、荒っぽいことが起こりました。突然、彼は襲われたのです。見知らぬ襲撃者は彼を殺そうとしました。ヤコブは自分の命のために必死に抵抗しました。

生きるか死ぬかの戦いでした。遂に、夜明け前にヤコブは気づきます。敵はただの強盗ではないと。敵には、何か不思議なもの、超自然的なものを感じます。やがて、その敵が去ろうと奮闘しているときに、ヤコブは叫びました。「あなたが祝福してくださるまで、私はあなたを去らせません！」と。

これが万策尽きたヤコブでした。もう神様との取引はありません。絶望のどん底から彼は助けを求めたのです。

そうです。それは神様でした。上ったり下ったりした天使の神様ではなかったでしょう。私たちの厳しい状況の中に来てくださる戦う神様です。

ヤボクの川でのこの夜の経験の後、ヤコブは同じ人物ではありませんでした。彼が変えられた証拠として、ヤーウェはイスラエルという新しい名前を授けてくださいました。それは、「神の王子」または「勝利者」という意味です。

ヤコブからイスラエルへ。

嘘つきから王子へ。

これが恵みです。

その後のヘブライ人の子孫は、自分たちを「イスラエルの子ら」と呼んでいます。「アブラハムの子ら」でも、「イサクの子ら」でも、「ヨセフの子ら」でもありません。考えてみてください。(もはやペテン師ではありませんが) ペテン師ヤコブの子らが、イスラエルの子らになったのです！

現代のユダヤ人の土地は、「アブラハム」「イサク」または「ヨセフ」と呼ばれていたかもしれないのです。が、そうではありません。「イスラエル」です！

このようにして最初のイスラエル人は登場しました。イエス様がナタナエルの中に見たのは、それでした——真のイスラエル、神の真の王子。

ヤコブのようにずる賢く、嘘つきで、ごまかす人ではありません。新しい人です。神様から生まれた人です。

正直で、真っすぐで、真実な人です。

すべてにおいて透明な人です。

セブンスデー・アドベンチストは、本物のイスラエル人でしょうか？ それともヤコブに見張られているのでしょうか？ サーチライトを私たちに向けたいと思います。

めちゃくちゃな時代

私たちは、とんでもない、めちゃくちゃな時代に生きています。私たちは情報の津波で押し流されています。さらに悪いことに、筋の通った論議が存在しません。ニュースと偽りのニュース、事実ともう一つの実事、偏った解釈、嘘、出まかせ、出まかせ、出まかせ——いったい何が上で、何が下なのでしょう？

そのような時代に、イエス様は、正直に、真っすぐに、透明に生きなさい、と私たちに命じておられます。個人としての私たちにも、集団としての私たちにも、

命じておられるのです。

私が本当にショックを受けたのは、何年も前のことですが、アドベンチスト教会で重要な地位に就いている人が教団の不祥事に関する興味深い話を少し私に語った後、次のように述べたときでした——「このことについて、もし君が私の言葉を引用するなら、私は神の前で、そんなことは言っていない、と否定するからね」

私のショックは今も続いています。

真実と偽りのこのような解釈は、何でしょうか？ もし私があなたに「嘘をつきますよ」と言って嘘をついたら、それは嘘でなくなるのでしょうか？

そうは思えません。私にとってその種の理屈は、律法学者の律法主義的なゲーム、こじつけゲームです。

それはイエス様の教えと生き方に反しています。愛されたヨハネは、イエス様が「恵みと真理とに満ちていた」（ヨハネ 1：14）と福音書に記しています。

真理——真理に満ちていたということです。

私たちは、「恵みに満ちていた」という部分は好きです。それに付随する「真理に満ちていた」ことに、私たちは我慢できるでしょうか？

実のところ、イエス様は真理についてたくさん語られました。イエス様はユダヤ人たちに、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネ 8：32）と言われました。彼は、自分がこの地上に来たのは悪魔の偽りの中で真理を指し示すためである、とおっしゃいました。イエス様が官邸で裁かれるためにピラトの前に立たされたとき、対立したのは真理についてでした。「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た」と、イエス様は言われました。それに対してピラトは、「真理とは何か」（ヨハネ 18：38）とひねくれた返事をしました。

真理とは本当に何でしょうか？

イエス様が真理です。イエス様が**まさに真理**なのです。イエス様は弟子たちに、「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ 14：6）と最後の木曜日之夜に語られました。

私はこの標準から、どれほどかけ離れていることでしょうか！ 私の教会も、どれほどかけ離れていることでしょうか！

私は同僚と話をしていました。話の途中で、私はどういうわけか心が繋がっていないと感じました。お互いの言葉は理解していたのですが、何かが欠けていました。

最後に、彼は率直に言いました。「ぼくはこの会話の裏の意味を探っていたんだ」と。

「裏の意味？」

「そう。君の言葉の裏の意味がよくわからないなあ」

私は彼に、「裏の意味などないよ。言葉のままを伝えようとしているだけさ」

私はオーストラリアでそのように育ちました。オーストラリア人の会話は、アメリカ人の会話より単刀直入なのです。時として、オーストラリア人は無遠慮で粗野になってしまいます。会話の言葉にデリカシー、社会的配慮などが欠けるときもあります。

もちろん、それぞれの文化には長所と短所が存在します。しかし何にも増して、私の語る言葉がナタナエルの言葉のようであってほしいと願っているのです——「ドロス」のない、偽りのない言葉であってほしいと。

危うい状況

四半世紀、私はアドベンチスト教会から大きな責任を託されました。教会の主要雑誌『アドベンチスト・レビュー』の編集長を務めたのです。この雑誌はアメリカの中で最も古い雑誌の一つで、私たちの再臨待望運動の最初の試みでした。ジェームズ・ホワイトが始めたこの雑誌は、当初から、情報誌以上の性格を持っていました。教理についての異なる意見が、しばしば激しく交換されるような雑誌でした。編集者たちは、逃亡奴隷を見つけたら所有者に返さなければならないという逃亡奴隷法には従わないように、とアドベンチストに呼びかけたときなど、時として預言者の声で発言しました。

教会の気高い遺産です。私はこの雑誌を誇りに思っています。その長い伝統の中で十代目の編集長として『レビュー』誌のかじ取り役を任されたことを、私は真剣に受け止めました。

この雑誌は、レビュー・アンド・ヘラルド出版協会によって長い間発行されて

きたので、編集者たちはこの出版協会に雇われています。最初はバトルクリークで、次にはワシントンDCで、この出版所と世界総会の建物は隣接していました。そのように『レビュー』誌は、世界総会と密接に協力しながらも、健全な距離を保つ媒体として、アドベンチスト教会の役に立ってきたのです。

しかし、このすべてが1982年に変わりました。この年、出版所がメリーランド州ハイガーズタウンに移転したのです。そこで疑問が生じました。教会のこの雑誌も出版所と一緒にワシントンの外へ移転するべきか、それとも世界総会のお膝元に置いておくべきか？ この問題は世界総会の春の委員会で熱く討議され、代議員の中には、もしこの雑誌を世界総会のお膝元に置かねばならないのなら、それはPR雑誌になってしまう、ある著名な指導者が言ったようにソ連の新聞『プラウダ』になってしまう、と警告する人たちもいました。

採決がなされ、『レビュー』誌はワシントンDCに残されることになりました。編集者たちは出版所の雇用ではなく、世界総会の雇用へと変わりました。

私が編集長の職を引き継いだのは、まさにこの変更がなされたときでした。互いを尊重する世界総会の指導部との距離を意識しつつ、『レビュー』誌を単なる世界総会の広報誌にしない努力をしようと決心しました。

うまくいくときもあれば、うまくいかないときもありました。しかし全体的には、私の報告を上げた3人のボスたち——世界総会総理のニール・ウィルソン、ロバート、フォーケンバーグ、ヤン・ポールセン——は、邪魔をしないで私たちの仕事を自由にさせてくれました。その中の誰1人として、何を印刷しなければならないとか、何を印刷してはならないとか、言いませんでした。

悪いニュースには継続的な疑問が伴いました。良いニュースは問題ありません。良いニュースは多かったのですが、人間の組織なら避けがたく起きてしまうスキャンダルや汚職はどうでしょうか？ 私たちは目をそらすべきでしょうか？ 情報操作を行うべきでしょうか？ それとも、真実を教会員に伝えるべきでしょうか？ それは痛みを伴い、恥をもたらします。

私は当時も今も、教会員には知る権利があると信じています。物事がうまくいかないとき、アドベンチストはその情報を世間の新聞から見いだすべきではありません。

私たちの教会員は真実に対処できると、私は信じています。教会員が受け入れられないというのは嘘です。

時として『レビュー』誌の編集室で、私は危うい状況に直面しました。掲載すべきか、すべきでないか？ 責任は私が負わなければならないのです。知恵と勇気を求めて、ひざまずかなければなりませんでした。

私たちは編集室の中で、アドベンチストの中の醜く不快な問題——性的虐待——に気づかされました。当時、この問題がどれだけ全教会の中に広がっていたのか気づきませんでした。汚れた秘密は、公に持ち出すにはあまりにも恥ずかしいもののように思われたのです。

数年間、私たちはこの問題を熟慮し、いつ、どのようにこのニュースを教会員に伝えるべきかを知ろうとしました。このニュースが爆弾になることを知っていたからです。

毎秋、北アメリカの教会の指導者たちが集まり、話し合いを持ちます。私たちは、彼らのために夕食を用意する計画を立て、その後で自由な討議をしたいと考えました。ついにその年がやって来ました。ある教区長が、少し控えめでしたが、教会は伏されている秘密に取り組みなければならない、と自分の確信を表明しました。他の指導者たちも賛同し、信号の色が青になったのです。

その記事を掲載したとき、被害にあった女性たちからたくさんの手紙が届きました。ダムが崩壊したようでした。私たちは続けて、その問題の特集記事を組みました。制限なしにです。

だれもが喜んだわけではありません。ある人々は、「購読中止」と書いてきました。「郵便配達員が『レビュー』誌の表紙からこの問題を知ることを、私は恥ずかしく思います。恥を知りなさい！」と。

しかし、私たちがしたことは正しいことでした。

真実を述べることは、いつでも正しいのです。

もう一つの悲しい出来事が私たちの気概を試しました。アドベンチスト教会の総理がある詐欺師の金銭トラブルに巻き込まれ、恐喝されたのです。世界総会では2人の人しかこのことを知りませんでした。会計のボブ・ローソンと主任弁護士ボブ・ニクソンです。彼らは断固たる態度を取りました。詐欺師に妨害させ

ないために、総理が望んだマネーロンダリングの策略に同意することを拒絶したのです。詐欺師は訴訟を起こし、世界総会を告発しました。のつびきならない事態になりました。

私はこの差し迫った危機について、かなり早くから知らされていました。ショックで動揺する中、スタッフと非公開の集まりをしました。私は、教会を揺るがすニュースがじきに流れることを伝え、『レビュー』誌はそれをどう扱えばよいのでしょうか？

私たちは、自分たちの報道の規約に忠実であり続けました。ニュースを包み隠さずに、率直に、正確に伝えること。迅速に伝えること。救いの視点も入れ、読者が対応できる手助けをすること。

事態は急展開していきました。ニュースが報じられてからちょうど2か月後、例の世界総会総理は去り、新しい指導者がその職に就きました。このような三つの大きな出来事が起きる中で、私たちは企画していた内容を破棄し、新しい記事を書き、急いで印刷に回したのです。私たちが印刷したのは、私たちの物語でした——世界総会コミュニケーション部からの公式発表ではありません。

教会員は真実に対応できます。教会は前に前進し、ほとんど動揺することはありませんでした。

ワシントンDCの環境

アメリカ議会は落ちぶれてしまいました。情報の改ざん、隠蔽、どんなことをしてでも勝つことが、普通になってしまったかのようです。小さなグループが秘密裏に働き、何百万人の生活に影響を与える法律を巧妙に作成しています。詳細は隠されたまま、法律を十分に吟味する時間もなく発表されます。法案の成立を急ぎ、議論を打ち切り、ひたすら投票の過半数を確保します——1人でも多いほうが勝ちなのです。

世界総会はこのような環境の中にあります。必然的に政治家たちの陰謀が世界本部の指導者たちにも影響を与えます。アメリカ議会における手続きの害悪が漏れ出て、アドベンチスト教会の協議会もゆがめるのです。

私は、世界総会やこの教会のあらゆる部局の指導者たちに透明性を確保するこ

とを求めます。

秘密裏の会議に反対！

情報の改ざんに反対！

代議員の討議時間の制限に反対！

重要な議題をわずかな得票差で通すことに反対！ もし議題が討議の後でも同意を得られなければ取り下げて、話し合いを継続しましょう。

これが教会であり、私の教会です。

これが本物のアドベンチスト教会です。

預言者の声を持つ小柄な女性に、最後の言葉を語ってもらいましょう。

「クリスチャンのすることはすべて、日光のように透明でなければならない。眞実は神からのものである。欺瞞はその無数の形のどの一つをとっても、みなサタンからのものである。そしてだれでもいかなる点においても公正な眞実から離れる者は、悪魔の手中に自分を売り渡しているのである」（『祝福の山』84、85ページ）。

第6章

現代の真理

祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、“霊”がまだ降っていなかったからである。(ヨハネ7：37～39)

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、「その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる」と言ったのである。

(ヨハネ 16：12～16)

私がアドベンチスト教会に惹かれた要因の一つは——それは今も変わりませんが——、真理に対して開かれた姿勢です。

エレン・ホワイトや他のパイオニアたちにとって、真理は漸進的なものでした。決して、固定されたものではありません。決まりきったものでもありません。彼女が書いた次の文は典型的なものです。「誰でも、さらなる真理はあらわされないとか、また私たちの聖書理解に誤りがないとの立場をとる言い訳は許されませ

ん。ある教理を何年間も人々が真理として受け入れてきたという事実がその教理が無謬であるとの証拠にはなりません。月日の長さが間違いを真理にすることはありませんし、真理には公正な取り扱いを受ける余裕があります。真の教理には、綿密な精査によって失うものではありません」(『著者と編集者への勧告』35ページ)。

ペトロの言葉はこの確信を要約しています。「従って、わたしはいつも、これらのことをあなたがたに思い出させたいのです。あなたがたは既に知っているし、授かった真理に基づいて生活しているのです」(Ⅱペトロ1：12)〔訳注——英語のNKJV訳では、「授かった真理」を「現代の真理」と訳している〕。

「現代の真理」——これがすべてを言い表しています。昨日の真理ではありません。マルティン・ルターの真理でもありません。もちろん、それは当時も重要であり、これからもずっと重要でしょう。聖公会の真理、メソジスト教会の真理、バプテスト教会の真理、長老教会の真理ではなく、**現代の真理**、今日のための真理です。

それは生きている真理です。新鮮な真理です。曙の胎からもたらされる真理です。天国の朝露で輝いている真理です。

聖霊様の言葉から与えられる真理です。

この考えは、私たちの信仰のパイオニアたちにとって非常に重要であったため、アドベンチズムを信条として表すことに激しく抵抗しました。彼らの自己理解を表した一つの言葉、それが「運動」でした。「運動」という言葉は、前進、変化、あらゆる真理へ導いてくださる聖霊様を受け入れる姿勢を意味しました。教会ではありません——**運動**です。

この確信、新しいことを学び、受け入れる心構えを持っていたいという熱い願いのゆえに、彼らはあらゆる形の組織に抵抗したのです。組織というものは遅延をもたらし、最終的には停滞をもたらすと、彼らは主張したのです。組織は、アドベンチスト教会を他の教会のようにするでしょう——パイオニアたちから引き継いだ特徴ある教えに満足してしまい、聖霊様の光の中で命溢れるダイナミックな集団として前進しなくなるのです。

必然的に、組織は必要になりました。当時の信者はわずかで、散らばっていました。エレン・ホワイトの初期の書物は、「散らばっている小さな群れ」と表現

しています。

しかし、ジェームズ・ホワイトは組織が必要であると考えました。「バビロン！」と主張する側の激しい反対を受けながらも、彼は、アドベンチストの信者たちが「セブンスデー・アドベンチスト」という公式名称をまず採用するように導き、次にその名称を法的に登記したのです。

私たちは成長しました。成長に成長を続けました。あの小さな群れは、今や2000万人にもなる世界的な規模の教会に変身を遂げました。かつては禁句であった「組織」が、標語となりました。

アドベンチストの歴史家ジョージ・ナイトによれば、アドベンチストは、現存する教会の中で最も組織化（官僚化）された教会であり、ローマ・カトリック教会と肩を並べているといえます。運動として始まり、組織に激しく抵抗していた集団にとって、この変容は驚きです。組織のない教会から、私たちは超組織化された教会になりました。

しかし、組織の大きさは肝心なことではありません。もっと重要なのは、組織が聖霊様の動きの妨げになっているかどうかということです。

世界総会の委員会に初めて参加する人は、私もそうでしたが、この教会が一番高いレベルでどのように運営されているのかを知って驚きます。すべての議題は、2年以上も前から一連の委員会で討議され、ようやく年次委員会に提出されるのです。そして、その議題が遂に討議される時、最高機関が、これまで詳しく吟味してきたとは異なる手順を指示したりします。年次委員会の役割は、他の委員会ですでに検討されたことを採決することなのです。

このような優位権は、最高議決機関である世界総会本会議に特に当てはまりません。ある代議員がある問題に熱心で、世界教会による討議は当然だと感じながら到着したとしても、失望して帰路に就くこととなります。なぜなら、すでに必要な過程を通り、話し合いが重ねられた議題のみが討議されるからです。

本会議の前に、注意深く議題を話し合う必要性は理解できます。もし仮に2000人以上の代議員が会場で新しい議題を提案したらどうなるのでしょうか？混乱するのは目に見えています。しかも私たちアドベンチストは、「すべてを適切に、秩序正しく行いなさい」（1コリント 14：40）という聖句が好きです。

仮にとても繊細な問題がそこで討論され、その場の勢いで過半数の投票を得るなら、教会の長期的な利益にはならず、たぶん壊滅的な結果をもたらしてしまいます。

原則として、私たちは安全第一で動きます。そこには知恵があると思います。

しかし、でも……。

聖霊様の役割は何でしょうか？ 私たちはどの部分で聖霊様に関与していただくのでしょうか？

使徒言行録を読むとき、私は昔と今の違いに驚かされます。何度も何度も、聖霊様が個人に、ある時は教会に、語りかけてくださり、そして個人は神様のみ声に基づいて行動し、前進しています。聖霊様に語りかけられたペトロは、ヤッファの町から異邦人の百人隊長のコルネリウスの家へと向かいます。聖霊様に語りかけられたフィリポは、南に向かい、エチオピアの高官に追いつきます。聖霊様はパウロとバルナバにも語りかけ、彼らが福音をローマのアジア諸州や、ピティニア州で語ることを「禁じられた」のでした。やがて聖霊様は、夢を通して再度彼らに語りかけ、福音をマケドニア州に届けなさい、と指示なさいました。

例は他にもあります。使徒言行録は、本当は聖霊様の言行録なのです。

聖霊様の導きは、今日の私たちの教会運営の仕方と一致しているのでしょうか？

委員会、委員会、委員会。アドベンチストは委員会が大好きです。私たちは死ぬまで委員会をするのでしょうか？ 私たちは現代の真理に対して今も柔軟であり、開かれているのでしょうか？

時間を巻き戻して、私たちの歴史の重要な時をざっと振り返ってみましょう。それらはいずれも「カイロス」〔ギリシア語で「時」という意味〕、約束が満ちた時でした。これから触れる会議以外にも、特に1901年の世界総会本会議など、他の会議も含めたほうが良いことを私は知っています。

「カイロス」の時

● 1888年の「ミネアポリス会議」——この会議は神学的な問題を討議するために開かれたものではありません。通常の運営に関する世界総会本会議でした。しかし、エレット・J・ワゴナーがガラテヤ書を扱った一連の聖書研究をした際に、神学的な問題がすぐに表面化したのです。

ワゴナーの焦点はガラテヤ書の「律法」でした。パウロは律法という言葉を一十戒と礼典律が含まれる——一般的な意味で用いているのであって、重鎮のユライア・スミス（『レビュー・アンド・ヘラルド』誌編集長）やジョージ・I・バトラー（世界総会総理）らが考えるように、礼典律だけを意味しているのではないと、彼は主張しました。

この特定の問題の背後には、もっと重要な問題——救済論がありました。私たちはキリストへの信仰のみによって救われるのか、それとも救いには安息日を含む十戒の順守が要求されているのでしょうか？

ワゴナーは典型的な宗教改革の立場、「恵みのみ」を説いたのです。この議論の中で若手の牧師アロンゾ・T・ジョーンズはワゴナーを支持しました。しかしこの2人は、「指導的な立場の兄弟たち」から激しく反対を受けます——1人の指導者を除いて……。エレン・ホワイトが心を痛めて、自分の旗を革新的な若者たちの側に打ち立てたのです。彼女は、自分の勧告が反対され、拒絶されるのを見ました。後に彼女は、ミネアポリスは彼女の長い働きの中で最も痛みの伴うエピソードであった、と記しています。

新しい光が差し込んでいたのに、出席者のほとんどはそれが見えませんでした。しかし1888年以降、ワゴナーとジョーンズによって宣べ伝えられた福音のメッセージは、エレン・ホワイトの説教と書き物による後押しもあり、徐々に受け入れられていきました。彼らのメッセージは今日、アドベンチストの教理として確立され、「信仰の大要」にも明記されています。が、ここかしこで、それに反する声がいまだに聞こえます。

● **1919年の「聖書会議」**——世界総会総理A・G・ダニエルズが議長を務め、アドベンチスト教会に現れた預言の賜物に焦点を合わせた会議が開かれました。今日まで私たちを手こずらせる問題について、率直に議論がなされました。エレン・ホワイトの霊感の性質、文章の借用、食い違い、誤りといった問題です。

ここに、1919年のアドベンチストにとっての現代の真理がありました。多くの信者は、エレンの霊感について誤った理解をしていました——彼らは、言葉自体が口述されたと考える逐語霊感の見解を取る傾向がありました。そのような見解は、霊感の性質に関する彼女の文章や、彼女の働きを間近で観察した人々の証

言といった証拠に反していました。

教会員は 1919 年の聖書会議によって放たれる「光」を必要としていました。しかし、その光は届きませんでした。その聖書会議で討議された内容は教会員が扱うには「熱すぎる」と判断され、脇に置かれ、そして葬られたのです。

何十年も過ぎた後に、偶然にも世界総会の記録保管所でその議事録が発見され、長いこと忘れられていた会議に光が当てられました。

● 1980 年の「グレーシャー・ビュー」 — 「グレーシャー・ビュー」という地名は、セブンスデー・アドベンチストの間では語り草になっています。そこで何が起きたのか、あるいは何が起きなかったのか、その意義は何だったのか — 答えはいろいろです。

並外れた知性を持ち、力強い説教をするカリスマ的アドベンチストの神学者デズモンド・フォードは、彼が教えていたアボンデル・カレッジのあるオーストラリアで、引退牧師たちと衝突しました。その「兄弟たち」たちは、パシフィック・ユニオン・カレッジへ彼を転勤させます。しかし、そこでもフォードの扱いにくさは増していくばかりで、ある安息日の午後の学内ミーティングで、それはヤマ場を迎えました。その時、彼は天の聖所と預言に関するアドベンチスト教会の教えを中心として、一連の質問を投げかけたのです。そのミーティングは録音され、録音テープが急速に広まりました。

当時の世界総会総理ニール・ウィルソン牧師は、典型的な問題解決者で（問題の大小にかかわらず、彼が抵抗できなかった問題はありません）、国際的な神学会議を開き、フォードが提起した問題を取り上げることにしました。

それは大きな集まりで、全部で 116 人ほどが参加しました。行政家、牧師、神学者たちです。その全 5 日間は、高き望み、不満、失望、情熱、約束に特徴づけられるものでした。私の記憶の中には、たくさんの光景がいまだにはっきりと残っています！

・フォードのメンターであったテッド・ハッペンストール博士は、お年を召されていましたが、公の場で彼に、信仰の難破に気をつけるようにと嘆願しました。

・ウィルソン牧師は集まった代議員たちの前で、フォードに長いアピールをしました。教会が光を見いだすまでは、彼の考えをポケットの中にしまっておくよ

うに、と勧めたのです。しかし、フォードは素っ気なくはねつけました。

・ジャック・プロボンシャ博士は立ち上がり、公の場でのフォードとオーストラレーシアの指導者たちとの和解を仲介しようとしてました。

・しかし、南太平洋支部の代議員やその他の人々は、フォードに責任を問いました。

アンドリュース大学神学院から出席した3名、フリッツ・ガイ、ゲルハルト・ハーゼル、そして私は、日々の代議員の討議を土台として、声明文を書くようにと任命されていました。その声明文は金曜日の朝に提出され、討議され、強い支持を受けて採択されました。

フォード博士は、合意声明に賛成できると発表しました。

ところが驚くような展開が生じます。書いた人たちの名前が記されていない新しい記録文書が配布されたのです。その文書は、フォードが教会と同調していない領域を指摘していました。この文書は討議もされず、採決もされなかったのに、会議の後に表面化し、合意声明は静かに脇へ追いやられてしまいました。

あれから何十年も経ちますが、私は今でも、グレーシャー・ビューでのあの金曜日の出来事に悩みます。

グレーシャー・ビューがどうだということでしょうか？

典型的な問題解決者の側の大きな読み違いだったのでしょうか？

破壊、不正工作だったのでしょうか？

私たちの遺産である「現代の真理」からの逸脱では？

即断は要注意です！ 多くの点で、フォードは自分自身が最大の敵でした。自分が正しいと確信していたので、彼を助けることは困難でした。

● 1982年の「預言のガイダンスに関する国際ワークショップ」——この会議は世界総会の本部に指導者や学者を集め、エレン・ホワイトと彼女の書き物に関する問題を取り上げました。長年にわたる問題もあれば、ウォルター・レイが書いた破壊力の強い本『ホワイトの嘘』によって明らかにされた問題もありました。

参加者は、エレン・ホワイト研究の全領域にわたる72の課題を討議しました。どの論文も透明性があり、率直で、洞察力がありました。多分最も繊細な論文は、ホワイト・エステートのローバート・オルソン会長（現在は「ディレクター」と

呼ばれている) から出されたもので、靈感を受けた書き物の「間違い」に関する論文でした。それは次のように始まっています。「聖書には矛盾があるのだろうか? 答えは、『ある』である」。彼は六つのカテゴリーの不正確さを列挙しています。

次にオルソンは、エレン・ホワイトの書き物に焦点を合わせます。「エレン・G・ホワイトの書き物に向き合うとき、私たちは自問する。彼女の手紙、記事、本には矛盾があるのだろうか? 答えは、『ある』である」

代議員たちは多くの印刷された資料を持ち帰りました。全部で 941 ページです。そして、その内容を分かち合うようにと勧められました。私の評価ですと、この会議は全体として、現代の真理を行動で示したものでした。

同様の会議を5年ごとぐらいに開催する計画がなされました。が、悲しいかな、それは実現しませんでした。この会議が最初で最後になりました。

いくつかの点において、それは既視感を覚えるような体験で、1919年の体験に似ていました。その会議でのディスカッションは教会の公式なプレスではあまり報じられませんでした。かつてオーストラリアでは、エレン・ホワイト・センターの所長アーサー・パトリック博士がその会議について二つの記事を書きました。しかし、オーストラレーシア支部の指導者の指示で凍結されてしまいました。

● **2004年の「信仰と科学の会議」** — 世界総会総理のヤン・ポールセンは大胆な決断をしました。神学者と科学者が創造論と進化論の課題を取り上げる会議を開くことにしたのです。その危険の伴う企てを導くために、ポールセンはローウェル・クーパー牧師に頼りました。最も能力のある副官、多分アドベンチストの中で唯一、この冒険的な企画を満足する結末に導ける人だったからです。

計画は、世界教会の各支部が最初にミニ会議を開き、最後にコロラド州デンバーでグローバルな大きな会議を開催するというものでした。私はその最後の大きな会議に代議員として参加しました。

私は、ポールセンがこの試みで何を成し遂げたいと望んでいたのか、よくはわかりません。問題意識を呼び覚ますことだったのでしょうか? 神学者と科学者の間に理解と信頼を築くことだったのでしょうか? 何であれ、彼の計画はアドベンチストの遺産である現代の真理に対する開かれた姿勢に沿うものでした。

この会議は私に複雑な思いを残しました。発表は正直で率直でした。クーパーはこの議事を公正に導きました。しかし、科学者と彼らが示した証拠に対してある人たちが示した上から目線の態度に、私は困惑しました。

会議の最後には、「信仰の大要」にある創造の教理を確認しました。それが唯一考えられる現実的な結末でした。

私たちの教理は変わったのか？

はい。ほとんどの教会員が想像もできない仕方です……。

すべての基礎的な教理の中で最も基礎的なものは、神様についての教理です。これについて、アドベンチストの考えは大きく変化してきました。ジェームズ・ホワイトと他のパイオニアたちは、三位一体の教理を信じていませんでした。それどころか、彼らは反三位一体論者でした。

三位一体の第二格であられるみ子について、多分初期のアドベンチストのほとんどが、み子は高く上げられた存在だが、ある時点で造られた存在であると信じていました。み子は、永遠にわたって独立して存在されるお方、父なる神様と共に存在しておられる神様ではなかったのです。

そのような考えを正すのに、エレン・ホワイトの書物が大きな役割を果たしました。彼女の初期の書物には、み子についての彼女の見解が彼女の夫の見解と同じであるかのような誤解を読者に与える表現があります。しかし、最終的に彼女は、オーソドックスな理解に一致した明確な言葉を表明するようになりました。例えば、「彼（キリスト）の中に見いだされる命は根源的なものであって、借り物でも、派生したものでもありません」（『サイズズ・オブ・ザ・タイムズ』1912年2月13日号）。

三位一体の教理についても同様で、ホワイト夫人は「三位一体」という用語を一度も使用していませんが、彼女の後期の書物には、父なる神様、子なる神様、聖霊なる神様が同等であり、永遠の存在であることを教える神格に関する記述があります。

19世紀の間、教会の主要雑誌『レビュー・アンド・ヘラルド』の題字には、「神の掟とイエスに対する信仰」というシンプルな信仰のステートメントが記されて

いました。私たちの歴史におけるその当時は、教理にも組織にも同じスタンプが押されていました——シンプルだったということです。パイオニアたちは、組織に警戒心を抱いていたのと同様、教理をリストにすることも非常に恐れていました。それらがやがて信条になるかもしれないからです。

長年にわたって『レビュー』誌の編集長であったユライア・スミスは、時折、教理のリストを印刷しましたが、それは便宜的なものでした。これらのリストの中の一つには 30 以上の項目があり、その中のいくつかは預言の解釈に言及しています。

19 世紀のアドベンチストは活気のある交わりで、教理の問題や違いが『レビュー』誌でオープンに討議されました。しかし時折、流行りの考えについては、ある信徒たちが、その新しい考えは基本的メッセージからずれているのではないかと疑問を呈しました。

しかし、そのような文句に対して、エレン・ホワイトは辛辣な返答をしています。信仰の柱（時には、ランドマークとも呼ばれる）を捨てるとは、いったいどういう話ですかと、彼女は知りたがりました。彼女にとって、柱またはランドマークは五つしかありませんでした——再臨、聖所、安息日、預言の霊、そして死者の状態です。

これら五つの柱については、今日どうでしょうか？ その中の一つは、エレン・ホワイトの時代から大きな変化を遂げました。

●再臨：私たちのパイオニアは、イエス様がすぐに戻られると期待していました。彼らにとって時は非常に短く、長期の計画を立てるには短すぎました。しかし、多くの年月が過ぎ去り、今もなお過ぎています。そして私たちはまだ待っています。

必然的に、容赦なく流れ去る月日は、私たちの考えや姿勢に修正を求めました。エレン・ホワイトはアドベンチストたちに、どのようにその待ち時間を用いるかについて勧告しました。5年以内にイエス様が来られると説くのではなく、また 20 年先だと延ばすのでもなく、建物を建てるように説きなさい、と——一時しのぎの建物ではなく、しっかりと長続きするように建てるのです。

●聖所：パイオニアたちは天の聖所を字義的に理解し、地上の聖所が輝いてい

るイメージでそれを思い描きました。今日、アドベンチストは幕屋の備品よりも、キリストの犠牲と行われている働きによって聖所の機能を強調します。そして調査審判の教えは、不安から保証へと変容しました。

●**安息日**：19世紀のアドベンチストにとって、安息日の教えは重要な役割を果たしました。彼らは、救いにとって安息日は不可欠と考えたのです。間違いなく、アドベンチストの中には同じ見解を持ち続けている人たちがいます。しかし、恵みの軌道の中で安息日を理解し、守っている人たちもいます。安息日に対する考え方が、要求から贈り物へ、服従から感謝の応答へとシフトしたのです。

●**預言の霊**：過去30年間、エレン・ホワイト図書管理委員会は、エレン・ホワイトに関する資料や彼女の作品を着実に出版するというゴールを目指して進んできました。今日、保管室はすべての研究者に開かれており、閲覧禁止のものはありません。そのようにすることで、ホワイト・エステートは私たちの現代の真理の遺産に忠実であり続けてきました。アメリカの教会史の専門家たちは焦点をエレン・ホワイトと彼女の働きに合わせてきましたが、その主要な研究成果は、『エレン・ハーモン・ホワイト——アメリカの預言者』（Terrie Dopp Hamodt, Gary Land, and Ronald E. Numbers, etc., Oxford, 2014）などの本として出版されています。

●**死者の状態**：エレン・ホワイトが特定した五つの柱の中で、この教えだけはパイオニアの時代から変化していません。

アドベンチストは最近まで自分たちの教会を「真理」と呼んでいました。しかし実際のところ、それは変化しつつある「真理」であって、「現代の真理」と呼ぶのがふさわしいものなのです。

今日における「現代の真理」の状況

私たちは今でも現代の真理の民でしょうか？

答えは、「はい」でもあり、「いいえ」でもあります。

いくつかの点で、神学的な考えは私たちの組織と似ています——官僚的で、変化に抵抗があり、防衛的です。しかし、状況は複雑です。現代の真理が単にパイオニアたちからの遺品ではない証拠、逆の側面を裏づける多くの証拠があります。

・今やアドベンチストの聖書学者は、アメリカやヨーロッパの主要な大学の学者と肩を並べています。私たちは聖書のテキストを注意深く、徹底的に研究する人々として認められています。

・アドベンチストの出版社は新しい分野に進出しています。『セブンスデー・アドベンチスト聖書注解』は、画期的な出版物でした。現代の真理の伝統における大きな貢献を象徴しています。独断的な解釈ではなく、さまざまな見方を読者に提供しました。聖書研究所は、意義深い書籍を出版しました。例えば、「残りの民」に関する2巻セットの書籍や、『アドベンチスト聖書ハンドブック』（『聖書注解』シリーズの第12巻）などです。

自由な立場の教会の出版物、特に『スペクトラム』『アドベンチスト・トゥデイ』といった雑誌は、アドベンチストの考えに刺激を与える重要な役割をますます果たしています。公式の出版物は安全で議論を引き起こさない路線を取る傾向があるからです。

この件に関する議論は終えたいと思いますが、率直な代弁者として別の側面に触れなければなりません。疑いの覆いが多いアドベンチストの神学者、科学者を覆っています。北アメリカの教会は二極化し、その結果として、多くのすばらしい学者たちが公式の出版物に貢献することから締め出されているのです。

例えば、『セブンスデー・アドベンチスト聖書注解』が1950年代に出版されたとき、当時のレビュー＆ヘラルド社は裕福で豊富な資金があり、その費用をすべて賄うことができました。編集長フランシス・D・ニコルの下で、能力のある学者たちを委員に任命しました。現在、まったく新しい『聖書注解』が準備されています。それはパシフィック・プレスによって出版されるでしょう(悲しいかな、レビュー＆ヘラルド社はもう存在していないのです)。しかし、その資金の一部は個人の出資によるのです。「金を払う者が笛吹きに曲を指示できる(金を出す者に決定権がある)」という昔からの言葉を思い出してください。この新しい大きな取り組みにはすばらしい学者が加わっていて、原稿を用意しています。しかしこのプロジェクトは、「安全でない」と見なされてきた優秀な学者たち、著者に要求される規約を守ることができないと感じられる学者たちからの恩恵を得ることはありません。

悲しむべきことです。

風は吹いています

古い賛美歌の歌詞にあるように、時として私たちの人生は「つらく、空しく」思えます。時として私たちの愛する教会も、抛り所を失い、疑い、あら探し、裁きの檻になったかのように思えることがあります。

しかし愛するみなさん、元気を出してください。全体像、神様がご覧になっている全体像は明るいのです。

アドベンチスト教会というコップには、中身が半分もあるのでしょうか、それとも半分しかないのでしょうか？

私の答えは明白です。アドベンチスト教会というコップには、中身が半分もあるのです。

確かに、私たちの多くの教会は死んだような状態です。お墓のように冷たいのです。

しかし！その他の多くの教会は命で溢れ出しています。そこは、希望の中心、癒しの中心、喜びの中心、活力の中心です。

新しい会衆が次々に誕生しています。神様は、み言葉の中の約束のように、「新しいこと」をしておられます。

その中心には聖霊様が明白に臨在しておられます。イエス様が語られ、「ワン・プロジェクト」〔イエス様をすべてにしようとする若者の運動〕のようにイエス様がすべてとして高く掲げられているからです。

聖霊様の働きはイエス様を高く掲げることです。私たちが何か新しい宗教に導くことではなく、古い、古い物語、イエス様とその愛の物語に連れ戻すことです。イエス様が高く掲げられ、すべてになるとき、聖霊様が力強く降って来られます。

これが命です。

これが運動です。

これが現代の真理です。

そして、それが起こっています。

風が吹いています。その音が聞こえますか？ その息吹を感じていますか？

第7章

触れてはいけない他の話題

イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。(マルコ 10：17～22 [参考ルカ 18：18～25、マタイ 19：16～2

この章は、今までになく最も書くのが難しい章になると思います。喜んでこの本から省きたいとも思います。しかし、私がアドベンチスト教会に正直さを求めるのであれば、私も正直でなければなりません。

容赦のない正直さ。

痛ましいほどの正直さ。

すべてをさらけ出す正直さ。

『私たちはどこに向かっているのか?』が2017年に出版されて数か月後のこと、私は、触れてはいけない他の話題を痛感しました。この本のおかげでたくさんの講演依頼がきました。たいていの依頼は、金曜日の夜から安息日にかけて何度か集会を持ってほしいというものでした。最初の大きな講演依頼は、ラ・シエラ大学の学長ランドール・ウィズビー博士からのものでした。彼は、本で取り上

げられている主題が大学の評議委員会の修養会においてディスカッションの助けになると考えたのです。

形式張らないディスカッションのために、1人の同僚と私がチームとなり、金曜日の夜、土曜日の朝、土曜日の午後に集会を持ちました。私たちは二つの椅子に座り、人々の近くで、彼らの参加を促しながら対話したのです。

そして、彼らは参加してくれました——嬉々として。

自己紹介をした冒頭の挨拶から、私たちは自分自身をさらけ出し、これまでの人生、伴侶、子どもたちについて語ったのです。特に子どもたちについて、私たちの子どもについて長々と語りました。悲しみと共に、自分たちの心の思いを分かち合ったのです。もはや私たちの子どもは、セブンスデー・アドベンチスト教会を私たちのようには大切に思っていません。

私にとって、それは初めてのことでした。他の牧師や教師と同じように、アドベンチスト教会が多くの優秀な子どもたちを失っているという厳しい現実を、私もしばしば嘆きました。

このことについて発言し、このことについて書きました。それは心痛むことでしたが、ものすごい痛みではありませんでした。

しかし私が、自分の子どもも教会から逃げ出した者たちの一部であると、公の場で思い切って言ったとき、それはまったく別の問題でした。それについて語り、分かち合うことで、深い痛みが井戸から湧き上がったのです。

私たちの正直な、公の場での金曜日の夜に分かち合いは、感情の泉を解き放ちました。次から次へと、参加者が私たちと一緒に心の内をさらけ出したのです。集会の後、ある人々は私たちのところに立ち寄り、私たちだけが心を痛めているのではないことを知らせてくれました。彼らもまた、教会を去った息子や娘、信仰すら捨ててしまって息子や娘を持っていたのです。

修養会はすばらしい豊かな分かち合いの経験をもたらしました。妻と私は祝福されたと感じ、主に感謝を捧げました。金曜日の夜に私たちが心をグループに開いたことで、忘れられない夜となりました。

すべての参加者は、触れてはならない第二の話題に向き合ったのです。アドベンチスト教会から去っていった自分たちの子どものことです。

私たちの青年が「教会を去っていく」ではありません。

自分の子どもたちが教会を去っていくのです。

それが触れてはならない第二の話題です。

触れてはならない第一の話題は、人種差別でした。それについて語ることは、私たちを気恥ずかしくさせます。

触れてはならない第二の話題は、私たちの子どものことです。それについて語ることは、あまりに強い痛みが伴います。

何が起きたのか？

何度私はこの質問を自分にしてきたことでしょうか？ ベッドの中で夜明け前に、何度私の心は昔にさかのぼり、「何が起きたのか？」とその原因を探ろうとしたことでしょうか？

もし私が北アメリカのアドベンチスト教会の状況を見誤っていないとしたら、多くのみなさんもこの章を読みながら、私と一緒に自問していることでしょうか——「何が起きたのか？」と。

私は現実として知っています。みなさんの多くにとって、心の奥底の願いは、娘や息子が感謝祭やクリスマスで家に帰省したとき、一緒に教会へ行ってくれることであると……。昔のように、ただあなたのそばに座っていてくれたら、もう一度礼拝に参加してくれたら——そんなことが起こるようにと、あなたの心はどれほど望んでいることでしょうか。

妻と私はこのことについて語り合い、祈り合い、よく——本当によく——考えました。その旅路を簡潔に分かち合いたいと思います。

神様は私たちに2人のすばらしい子どもを授けてくださいました。男の子、次に女の子でした。今でもすばらしい子どもたちです。私たちは彼らを愛し、誇りに思っています——人生における彼らの成功（いずれも実業界で優れています）と、彼ら自身について誇りに思っているのです。

お金はあまりありませんでしたが、幸せで楽しい家族でした。愛、喜び、一緒に過ごした休暇……。

ある人々は私たちの家族を模範的な家族だと思ったかもしれません。私たちは

子育ての正式なトレーニングを受けたわけではありませんでしたが、どのようにクリスチャン家庭を築くのかという連続公演の依頼もされました。

その頃、もし誰かに、子どもたちがアドベンチスト教会との繋がりを感じなくなる時がくるだろう、とそれとなく言われたなら、「まさか。ありえませんよ！」と、私は答えていたことでしょう。

妻のノエリーンと私はこの教会を愛していました。今も愛しています。私はかつて、ダビデ王の悲しみに打ちひしがれた叫びに基づいた説教をよくしたものでした——「わたしの息子アブサロムよ、わたしの息子よ。わたしの息子アブサロムよ、わたしがお前に代わって死ねばよかった。アブサロム、わたしの息子よ、わたしの息子よ」（サムエル記下 19：1）。説教の題は、「父親の失敗」でした。私がどんなに人生で成功しても、もし自分の子どもたちが教会に残らなければ、私は失敗者であると、私は人々に語ったのです。

私たちの息子と娘は、学士までずっとアドベンチスト教育を受けました。そして有名大学の大学院で学び、その時もまだ教会に出席していました。まだアドベンチストの信者でした。若いプロフェッショナルとして就職した後も、教会には出席していたのです。

しかし、徐々に何かが起きました。教会への出席が減りました。しばしば、土曜日の朝に起きて、教会へ行く説得力のある理由を彼らは見つけられなくなりました。そして出席しなくなると、異なった道を歩み始め、徐々にですが、教会から離れてしまったのです。

彼らは私たちから遠く離れて住んでいました。私たちは何が起きているのか知りませんでした。ある日、妻と私が気づくときには、彼らは見えない境界線を渡り、多くの彼らの仲間と同じく、長期欠席者になっていました。クリスチャンですが、セブンスデー・アドベンチストではありません。アドベンチストの価値観を持って清い生活を送っていますが、教会にはつながっていないのです。

このことは私をひどく傷つけます。長い期間、私はその事実に向き合おうとはしませんでした。妻は私より現実的なので、この変化を私よりも早く受け入れました。

私はかつて夜中に目を覚まし、今までの年月を振り返り、父親としての失敗に

ついて静かに涙を流したものでした。後悔と罪責感に刺されながら、家族よりも仕事を優先してしまった多くの機会を思い出しました。ある時のことが私を悩ませ続けました。私が委員の1人であった重要な委員会が、イギリスのニューボールド大学で開かれる予定でした。私たちの息子は当時ドイツで働いており、週末を私と過ごすために時間を取ったのです。

私は、その委員会が安息日は開かれないうらうとっていました。しかし、どうなつたと思ひますか？ そうではなかつたのです（なぜ私たち教会の指導者は、このようなことを続けるのでしょうか？）。安息日（シャバツ）を守るとは、休むことであると、私たちは知らないのでしょうか？ 「シャバツ」とは「やめる」という意味です。だのに、なぜ私たちはやめないのでしょうか？

私の心は引き裂かれました。私は息子と時間を過ごしたかつたのです。私の心は、息子と一緒に過ごすべきだ、と語りました。しかし、真面目な教会人間の私は、委員会のほうを選んだのです。その日、私は議題に集中しようと努力しましたが、心はよそにありました。

私たちは土曜日の夜にレストランで食事をし、息子は日曜日の朝に飛行機に乗つてドイツへ戻りました。私はまた委員会に戻りました。

教会のための働きは、特別な誘惑をもたらします。神様のご計画の中で**私たち**は特別に重要なのだ、私たちの**働き**は他の何よりも優先度が高いのだとすぐに考へてしまうのです。

息子はあの失われた週末のことを口に出したことはありませんが、彼ががっかりしたことを私は知っています。私に原因があります。安息日であつたにもかかわらず、彼のために時間を取れなかつたのです！

私はずっと以前に謝りました。しかし、決して元に戻らないこともあるのです。失つた機会は永遠に過ぎ去つてしまい、取り戻せません。

父親の失敗でしょうか？

そのとおりです！

たぶんこの言葉を読んでくださつている多くの人は、悲しみと後悔の中で私と同じ気持ちになつておられるでしょう。そこで私は、過去を乗り越え、私と妻がどのようにアドベンチスト教会を去つた子どもたちと折り合いをつけるよにな

ったのか、語りたいと思います。

後悔を乗り越えて

私たちは、これが私たちだけの問題でないことに気づきました。それどころか、大勢の教会員の問題なのです。

このことは特に先進国——アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなど——に当てはまります。他の地域、例えば南アメリカなどでは、状況がもっと明るいかもかもしれません。私は、妻と一緒に南アメリカの国々を訪れたときのことを楽しく思い出します。これらの国々は世界教会の大きな部分を占めています。特にブラジルでは、私たちがどこへ行っても、教会は若い男女でいっぱい、彼らが教会を指導していました。彼らの喜びと熱意は人に伝わっていくのです。私が会った教区長の1人はまだ28歳でした。私たちの訪問から数年後、支部の指導者たちは、新しい支部総理に青年指導者であったエルトン・コーラーを選びました。彼は37歳でした。

しかしこの旅の途中で、ある年配の指導者が気になることを口にししました。個人的な会話の中で、「この南アメリカのアドベンチストたちは、教会が北アメリカよりも早く成長していることを誇りに思っています。でも、あと数年待ってごらん下さい。あなたがたが直面しているのと同じ状況になりますから」と、彼は言ったのです。

願わくは、彼が間違っていると時が証明してくれますように！ しかし、私は知っています。アドベンチスト教会が設立されてから1世紀以上経っている国々——ノルウェー、ドイツ、スウェーデン、フランスなど——では、教会は自分を維持するのに苦勞しているのです。生命維持装置につながれているような状況です。

もし私たちが若者たちを群れの中に留めることができているなら、伝道による拡大を忘れたとしても、自然増加によって現在よりもはるかに多くの教会員がいたはずで

現実を見ましょう。先進国のアドベンチスト教会では、その教会で生まれた人たちの多くを教会に留めておくことができていません。若い人々は教会に行き、

アドベンチストの学校に通いますが、やがて教会から去ってしまうのです。

なぜでしょうか？

事実と向き合うべき時です。アドベンチスト教会が**構造的な**問題を抱えていることを認めるべき時です。（西側の世界では公衆伝道も厳しい時代を迎えています。）私たちは新しい教会員を生み出すことにたけています。しかし、自分たちの子どもを留めることができません。

一つの印象的な場面がこの問題を明らかにしています。私たちの息子がカレッジで学んでいたとき、6、7人の若者と非常に近い友情を築きました。彼らはきちんとしているだけでなく、はつらつとした若いセブンスデー・アドベンチストの集団でした。彼らの両親も教会組織の中で「重要な」地位——神学院の学部長、教授、行政者など——に就いていたのです。その若者たちがわが家にやって来たときには、教会と教会の発展に強い関心を示していました。私は、このうちの何人かは、アドベンチスト教会の使命を前進させるためにその際立った能力を使ってくれるだろうと思っていました。

しかし、そうならなかったのです。全員が大学院に進み、やがて社会の中で重要な地位に就きました。そして全員が（1人、2人の例外はあるかもしれませんが）、アドベンチスト教会を去ったのです。

私たちは問題を抱えているのでしょうか？ そのとおりです！

生涯の働きを通して、私は若者に特別な関心を抱いてきました。それどころか、若者に対する私の愛情と情熱は、年齢が上がるにつれて増す一方です。近頃では、活気にあふれたミレニウム世代から彼らの集まりで講演をするようにと招待を受け、愛情と敬意を注がれることほど、私に喜びをもたらすものはありません。たとえ、今や講壇に上がるために助けを必要とし、しゃべるときは座ったままでならなくなっても……。

何が起きているのでしょうか？ この疑問が昼夜私を悩ましています。

長年の間、私たちは大騒ぎをしてきました。将来の教会？ いいえ、現在の教会が問題なのです。彼らに指導権を与えること。役割を分担させること、などなど。ただ話、話、話だけ。

そして彼らは去っていきます。

私たちは彼らに耳を傾け始めるべきです。熱心に、祈りつつ、何が起きているのかを理解しようとしなければなりません。

制約なし。

上から目線なし。

冗談なし。

遅すぎますが、心を開き、正直に、痛みを伴う対話をすべき時です。

私の情熱を理解する友人がこう言いました。「もし君がミレニアム世代から彼らの言い分を聞きたいのなら、その前に三つのことを彼らは君の口から聞く必要があるだろうね。

第一に、君がみんなを受け入れるということ。**みんなだよ**、どの階層の人も、どんな人も排除しないでね。

第二に、君が双方向の会話をするという。君が話すだけじゃなくて、聞くだろうかということだよ。

第三に、君がすべての答えを持っていないこと、自分がミスを犯すことを認めるということ。君が間違っているかもしれないということだ」

そして私の友人は、こう締めくくりました。「君がこれら三つのことを踏まえてミレニアム世代と話ができれば、うまくいかないよ」と。

ミレニアム世代からの声

2017年11月、アドベンチスト宗教学会の年次集会がありました。6人のパネリストが、拙書『私たちはどこに向かっているのか?』への感想文を発表しました。これらのパネリストは、異なる国、異なる教育水準から選ばれた人たちでした。

ラ・シエラ大学の学部生であるマシュー・コープマンは、仲間のミレニアム世代についてこう書いています。

ウィリアム・ジュンソン博士のこの本は、さまざまな言葉で形容できる——「時宜にかなった」「必要とされている」「力強い」「議論的になる」「率直な」「キリスト中心の」「終末論的な」(この本は確かに、教会として

の私たちについて多くの事柄を啓示している) など。その成功は、私が「アドベンチストの疑問」と呼ぶ事柄を真に表明し、その事柄に命を与えている事実に基づいている。

ジョンソン博士の『私たちはどこに向かっているのか?』というタイトルは、(私たちの現状という) 事実を私たちに伝えるよりも、むしろ立ち止まって私たちの現状と、さらに重要なことに、私たちがどこに向かっているのか(私たちアドベンチストがしばしば当然と見なしていること) を見直す必要があるという気づきへと私たちを高めている。同時に彼のタイトルは、二重の意味を、より気がかりな意味を思い起こさせる。なぜならそれは、私たちが霊的に(究極的な意味において) どこへ向かっているのかを問うているからだ。それは、私たちが向かっている方向へと誰が導いているのかを発見するようにと私たちを促す。私たちの船の舵取りを本当にしているのは、誰なのだろうか? “霊” なのだろうか? どの霊だろうか? 良い質問がどれもそうであるように、ジョンソン博士のこの本は、考えられる答えを提供するよりもさらに多くの疑問を生み出す。このような問いかけが今、必要とされているのである。

ジョンソン博士のこの問いにおいて重要なのは、彼が、そして私たち全員が、心から気にかけている教会の魂に他ならない。多くの人々は、ミレニウム世代の私がこのような主題に情熱を傾けていることを耳にして驚く。確かによくあることではない。ジョンソン博士のこの本は、アドベンチストのミレニウム世代の問題に何度も触れている。この世代の多くの若者が教会を拒絶するのは、教会の中で起きていることを見ているからではないのかと、あなたは思っている。アドベンチストは、砂が指の間からこぼれ落ちていくのよりも速く、彼らを手放しているのではないだろうか、とあなたは気づいている。答えは、「そのとおり」である。まさにだからこそ、私たちはジョンソン博士のこの本に耳を傾けなければならない。

ここには、私たちが受け入れたくない診断がある——(奇跡でも起こらない限り) ミレニウム世代がすぐに教会へ戻ることはないであろうという診断である。私たちが計画するリバイバルで、これを実現するものはない

であろう。霊的にも、神学的にも、個人的にも、既にダメージを受けてしまっている。このことから学び、成長することでしか、私たちは教会に残っているミレニウム世代を留めうる可能性がない。その戦いは、私たちの最大の戦いの一つにすでになっている。

ジョンソン博士は、私たちが今にも若者を失いそうだと警告する。彼は間違いなく正しい。私は数えきれないほどのアドベンチストのミレニウム世代を知っている。在学中の者もいるが、**すでに牧師として私たちの教会に雇われている者もあり**、彼らはこの教会に奉仕する中で信仰を失いつつあると、率直に私に語る。この教派をやめようとしている人、教派を変えようとしている人もいる。特にサン・アントニオ世界総会の決議以降のことである。念のために言うておくが、これらの若者は、教会のことを気にしなくなり、関わることをやめた若者たちではない。深く考える、キリストに忠実な僕たち（教会の未来）なのである！ 私が知っている中でもとても優秀なアドベンチストである。彼らは私たちの未来、私たちの教会に対する預言者の声である。キリストがご自分の動きのために用いようとしておられる人たち、教会を適切な方向へ導くことができる人たちなのである。しかし、私たちがそのような声と光をまさに必要としているときに、その星は輝きを失いつつあるのだ。しかも急速に……。

彼らはアドベンチスト教会を、病院で間もなく息を引き取ろうとしている患者と見なしている。治らない患者ではないが、この患者は頑固で、自分のかかっている病気さえ認めようとしな。それゆえに、適切な治療も受け入れない。彼らはこの教会を去ることを望んではいないが、福音がまだ宣べ伝えられなければならないときに、教会と運命を共にして人生を無駄にしたくないのである。

アドベンチスト教会はすでに死んだのか？ ある人たちは、ますますこのことを問いかけている。私は、「ノー」と答えたい。しかし多くの人にとって、教会は死んでいる。たとえ究極的な死を迎えていないとしても……。ジョンソン博士はこの本を通して、教会にはまだ未来が残されていることを思い起こさせている。このような状態である必要はないと。私たちの魂

を再発見できると。しかし、彼が賢くも指摘しているように、「主は私たちを私たち自身から救い出すことはなさいせん」。私たちは選択しなければならぬ。アドベンチスト号の舵取りをキリストにさせていただくか（一番重要なことを一番重要であるように保つか）、または、新しい意味での法王権が、氷山のように、神が私たちに用意しておられる可能性を砕くのだろうか？ ジョンソン博士の本は贈り物である。なぜなら、このような本当に必要とされていた会話を始める（真に開始する）きっかけとなるからである。そうすることで、神が私たちに聞かせたいと望んでおられる答えへと、聖霊が私たちを導いてくださるかもしれない。（『スペクトラム』2017年11月27日第45巻4号27、28ページ）

厳しい言葉です！ 教会の指導者たちよ、耳を傾けていますか？

神学的もつれ

私の母の信仰はどこまでも実践的でした。優しさと親切な行為に富んでおり、ヤコブ1：27の言葉が彼女の標語のような人でした——「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です」。彼女の家系の聖公会との繋がりは、何世代も前までさかのぼります。

結婚後、何年かして数人の子どもを授かったとき、私の父はセブンスデー・アドベンチスト教会に加わりました。少しの間、彼女は信仰の疑問と格闘しましたが、最終的に聖公会に留まることを選びました。

最終的に彼女は9人の子どもを産み、私が末っ子でした。私の兄弟姉妹の中では、女の子は聖公会の信者となり、男の子は宗教を選ばず、そして末っ子の私はアドベンチスト教会と生死を共にすることにしたのです。

彼女はその決断を喜びませんでした。そのことで母が泣く姿は見ませんでした。独りのときには、涙を流したのではないかと思います。しかし、彼女は私を愛していたので、その道を歩ませてくれました。

私も自分の子どもたちを愛しているのですから、彼らに自分の道を行かせ、自

由に選択させるべきではないでしょうか？

私たちアドベンチストは宗教の自由を強く支持します。私たちは、それが神様から与えられた権利、人権の一番の基礎であると教え、信じています。私たちは宗教の自由が侵されている人々のそばで、自分たちの立場を表明します。

私たちは宗教の自由を自分の子どもたちにまで広げなければなりません。かつてほとんどのセブンスデー・アドベンチストは、自分たちだけが救われると信じていました。なぜなら、私たちだけが、第四条の安息日を含む十戒のすべてを守っているクリスチャンだったからです。間違いなく、多くのアドベンチストが依然としてそのような見解を持っていますが、それは私たちの「信仰の大要」の一部になったことはありません。

信仰による義の教え——私たちは「恵みのみ」「信仰のみ」「キリストのみ」で救われるという教え——は、教会中に着実に広がりましたが、一様ではありません。世界教会のある地域では、古い、律法本位の救いの理解がまだに残っています。

恵みが神学の中心を占めるにつれて、律法の役割、特に安息日が目立ってきました。十字架にかかられたイエス様の働きに**何も加えるものがない**としたら、安息日順守は新しい位置を占めるようになります。安息日を守るか、守らないかは、私たちと神様との永遠の関係を決定づけません。

パウロの時代のクリスチャンの中には、パウロが宣べ伝えた福音を誤解して、主はもう服従をお求めにならないのだ、と受け取った人たちがいました。彼らと同じように、あるアドベンチストも安息日を投げ出しました。パウロは当時のそのような人たちを、「決してそうではない」（ローマ3:31）と強く戒めています。そして、同じ間違いに陥る今日のアドベンチストも、大切なものを無用なものと一緒に捨ててしまうことになります。

しかし、実践は神学の後からついていく傾向があります。私は頭では、人が救われるためにアドベンチストになる必要もなければ、アドベンチストであり続ける必要もないと認めることができます。しかし心では、子どもたちがアドベンチスト教会を去るとき、彼らの永遠の救いが心配になるのです。

そのようなことを考えているとき、私は、聖書が教えていない一つの考えに陥

っています。その考えは2世紀に生まれて定着し、今もなおローマ・カトリック教会の中に存在しています——「教会の外に救いなし」という考えです。

中世のクリスチャンにとって、この教えは直接的、実的な意味を持っていました。もしあなたが教会から除籍されたなら、あなたの死に際に司祭が最後の儀式を執り行ってくれないばかりか、あなたは聖なる場所に葬ってもらえないのです。

宗教改革は教会中心の神学ときっぱり決別しました。彼らは、教会ではなく個人を、教義ではなく信仰を、苦行と巡礼ではなく恵みを強調しました。

妻と私が、もはや教会に出席していない子どもを持つ仲間の教会員と共有する痛みについて考えるとき、私は自分に問いかけざるをえません——「私は、聖書的でない古い考え方に陥っていなかっただろうか？ 唯一の道であり、真理であり、命であられるイエス様にではなく、アドベンチスト教会に救いを結びつけていなかっただろうか？」と。

イエス様。重要なのはイエス様です。イエス様なしに、教会員籍は——どの教会の教会員であろうと——まったく意味がありません。イエス様を中心にすることで、教会員籍は多くの祝福（いくつか例を挙げれば、交わり、育成、宣教など）をもたらすのです。

ですから、敬愛する友人のみなさん、もしあなたの子どもがイエス様を愛しているにもかかわらず、アドベンチスト教会を去ったとしても、その息子、娘が主を知っていることのゆえに神様を褒め称えましょう。救いはまったくイエス様次第なのです。

希望の兆候

私たちの息子、娘を教会から失うという衝撃にもかかわらず、私は楽天主です。希望の兆候が見えるからです。

もう一度、思い起こしていただきたいのですが、私が書いているのは、特に先進国におけるアドベンチスト教会についてです。あちらこちらで、ミレニアム世代を何百人と惹きつけているアドベンチスト教会が生まれつつあります。北アメリカでも、オーストラリアでも、南アメリカでも生まれています。

安息日の朝、ミレニウム世代が群れを成して教会に入って来る……、そんな光景を自分は目にすることがあるのだろうか、私はいぶかしんでいました。でも、私はそれを見て、喜んでいました。

数ある中の一例は、カリフォルニア州レッドランドにあるクロスウォーク教会です。朝早く来ないと席が見つかりません。安息日ごとに、礼拝が3回あります。教会員数は約900名ですが、出席者は1500～2000名（ほとんどの教会とは正反対です）。ものすごいエネルギー、暖かな交わり、周辺地域との熱心な関わり。出席者の平均年齢は、おそらく30歳ぐらいでしょう。

このような新しい教会が、新しいアドベンチスト教会の方向性を指し示しています。**本物の**アドベンチスト教会、地に足が着いたアドベンチスト教会、イエス様に焦点を合わせたアドベンチスト教会です。説教は聖書的で、力強く、教理は基本的なアドベンチストの教理です。ある部分はあなたにショックを与えるかもしれませんが、音楽の音は大きい——**実に大きい**——ですし、（代用品ではない）コーヒー・スタンドを見かけるかもしれません。深呼吸をして、あなたの心を開いてください。聖霊様の動きを感じてください。私と一緒に喜び、祝いましょう。

これがミレニウム世代のアドベンチスト教会です。2018年に適合している教会です。

かつて……しかし今

かつて私は誇り高い神学者でした。私はすべての答えを持っていました。

しかし今、私は一つの答えしか持っていません。

かつて私は誇り高い親でした。私はすべての答えを持っていました。

しかし今、私は一つの答えしか持っていません。

しかしその答えは、まさに**答えの中の答え**です。

それはイエス様です。

第8章

神の国の招き

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

義に飢え渇く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」（マタイ5：1～12）

真のアドベンチスト教会は神の国の招きを聞きます。現代生活の騒音とざわめきの中で、神の国は招きます。まったく異なる価値観へと私たちを招きます。想像したこともないような希望と可能性へ。永遠の静けさへ。神様の心へ招きます。

神の国の招きはあなたや私に、ナザレのイエスの言葉を通して一番明快に届きます。ガリラヤ湖のそばの丘で語られた有名な説教を通してです。

イエス様のこれらの言葉は最も頻繁に引用されますが、彼が教えたことの中で、最も実践されていません。イエス様の唇から語られたその日から現代に至るまで、人々はその言葉の美しさ、その簡潔さ、その深さに驚いてきました。しかし家に帰った後、その言葉を否定するような生き方をするので。

マハトマ・ガンジーは祈禱会で山上の垂訓を読むのが好きでした。力で悪に抵抗するのではなく、別の頬を向けなさいというイエス様の命令は、ガンジーの教えと「サティヤグラハ」〔サンスクリット語で非暴力抵抗運動〕の実践にピッタリ合っていたのです。ガンジーが政治的な武器として用いた非暴力は、イギリス人を当惑させ、インドの独立をもたらしました。

しかし、新しく独立した国は、ガンジーとは相容れない道をすぐに歩み始めました。彼は言葉や記念碑で称賛され、彼の誕生日の10月2日は国民の休日になりましたが、間もなくインドは核兵器を開発したのです。北は中国からの脅威、西はパキスタンからの脅威が、「サティヤグラハ」を超える何かを要求したのです。

このことは問いを投げかけます。イエス様は、ご自分の言葉が字義的に理解されるように意図しておられたのでしょうか？

天の国

山上の垂訓の中には、イエス様が他の場所でしばしばなさったように、たとえば話で語っておられることを示唆するものは何もありません。それとは対照的に、すべて具体的な一連の実例を挙げておられます——あなたを訴えると脅す誰かとの言い争い、離婚、誓い、権力者によって徴用されたときの対応の仕方、祈り方、断食の仕方などです。

しかし、どのようにイエス様の言葉を実践すればよいのでしょうか？ それが難しいところです。もしアメリカの大統領が、悪に抵抗するなというイエス様の教えを実践すると決心したら、いったいどうなるのでしょうか？ 大統領就任時に国を守ると立てた誓いを果たさないとのことで、弾劾されるのではないのでしょうか？

これはイエス様の言葉に関する問題の核心を突いています。美しい言葉ですが、

実行が難しいのです。極めて明確なビジョンはありますが、あきれるほどに理想的です。この世のものではありません。

ある学者たちは、山上の垂訓の中でイエス様は「暫定的倫理」（と彼らが呼ぶもの）を提案されたのだ、と結論づけています。彼らによれば、イエス様はこの地上にすぐ戻って来ると予想しておられたので、彼に従う者たちは比較的短い期間を待てば良かったのだということです。従って、この説教の教えは、この世の生活に対する継続的な規範となることを意図したものではなかったのだと。

興味深い考えですが、間違っています。マタイ5～7章の中には、再臨、終末の諸事件、あるいは暫定的な倫理について触れている個所が一つもありません。この長い個所は、反対方向を向いています——友人や敵との対人関係、食べ物や服への心配、富を築くことなどです。

この事実を認めている聖書の多くの研究者や、それ以外の点では信心深いナザレのイエスの弟子たちは、クリスチャン生活の中で真剣に受け止めるべき教えから山上の垂訓を外して満足しています。彼らはイエス様の言葉を高く評価していますが、それは、世界のさまざまな宗教の聖典の有名な言葉に敬意を払うのと同じなのです。

そのような理解の仕方は、必ず基本的な間違いを犯します。**イエス様の言葉は、天の国の住民に向けられているのであって、一般の人々に向けられたものではありません。**政府の指針として意図されたものでもありません。ましてや、国政を扱うための青写真を提供するものではまったくありません。そうではなく、主の言葉は、イエス様を「救い主」「主」と告白する1人ひとりに、個人的、直接的に語りかけているのです。

イエス様の冒頭の言葉が彼の意図を表しています——「あなたが万事休すとき、幸いです。あなたが不足しているとき、神様とその支配が満ち溢れます」（マタイ5：3、メッセージ・バイブル）。

イエス様は19節と20節でも同じ考えを述べておられます。「神の戒めの小さな部分でも矮小化しようとするなら、あなたはあなた自身を矮小化してしまっていることとなります。しかし、真剣に受け止めてください。他者へ道を示すなら、あなたは神の国で栄誉を見いだします。正しい行いでは、ファリサイ派より正し

い行いをさらに実践できなければ、あなたは神の国へ入る基本すら知りません」(メッセージ・バイブル)。山上の垂訓の中では、「天の国」が何度も触れられています。

マタイによる福音書では、「天の国」という表現が目立ちます。50回以上も使われており、時には「神の国」とも呼ばれています。バプテスマのヨハネが宣教を始めたとき、彼のメッセージは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」(マタイ3:2)というものでした。この表現は、イエス様が公の働きを始めたときにお用いになった言葉と同じです(マタイ4:17)。

ヨハネの言葉を、後にはイエス様の言葉を聞きに来た多くの群衆にとって、神の国の到来が近づいたという宣言は、興奮のざわめきを生み出したにちがいありません。ユダヤ人は何世紀もの間、神様が介入して憎いローマ人のくびきから解放して下さる時が来るのを、祈り、待ち望んでいました。「神の国」は、油注がれた者、メシアが到来する祝福に満ちた時です。救い主はエリヤの霊と力を持って現れ、王国の栄光をダビデ王時代の地位と権力にまで回復して下さるので

す。

今やバプテスマのヨハネは宣言します。「その時は近づいた」と。ナザレのイエスも宣言します。「その時は、**今**、到来した！」と。

丘に立つイエス様をガリラヤ湖から見てください。イエス様は、当時の他のラビと同じように、ご自分に従う者たち、弟子たちの群れを引き連れておられました。しかしイエス様の言葉は、驚き、衝撃、希望、興奮をもたらしました。その言葉はすべて天の国についてでしたが、権力、軍隊、解放、勝利など、当時一般的に抱かれていたイメージを根底からひっくり返すようなものでした。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」(マタイ5:3)というイエス様のまさに最初の言葉は、聞く者たちを当惑させました。戦い、戦争、敵への勝利など、将来を見越す必要はありません。なぜなら、**天の国はすでに到来している**からです。ある人々はすでにその国の中にいます。

ショック、当惑、理解不能です。

二番目の衝撃がその直後に襲ってきます。では天の国にすでにいる人々とは誰なのでしょう？ 既に死んで天国に召された人々ではありません。將軍たちで

も、自由の戦士たちでもありません。

そのような人々ではありません。そうではなく、心の貧しい人々です。

神の国——それは今！

神の国——それは、勇者、強者、勝利者のための国ではなく、牧師のユージン・ピーターソンの言葉を使えば、「万事休した」人々の国なのです。

弱い人。

無防備な人。

疲れ果てた人。

イエス様の真意はいったい何でしょうか？ 現代の私たちは、このような不思議な言葉をどう理解したらよいのでしょうか？

ピーターソンが翻訳した『メッセージ・バイブル』の中で、イエスの言葉はこうなっています。「あなたが万事休すとき、幸いです。あなたが不足しているとき、神様とその支配が満ち溢れます」

私は、イエス様の意味を捉えようとしたこの試みを興味深いと思います。ピーターソンは、『メッセージ・バイブル』全体と同じく、ここでも聖句の直訳をやめ、その根本的な考えを取り出して現代的な言葉で表現しています。そういうわけで、ここでは、「神の国」が「神の支配」となっています。この訳し方は、一見すると間違っているように思えますが、そうではありません。なぜなら、「国」と訳されているギリシア語の「バシレイア」は、「支配」とか「統治」をも意味するからです。しかし、湖のそばのイエス様の聴衆は、抑圧からの解放という伝統的な意味で「神の国」を理解したにちがいません。

今日の私たちにとって、「国」ではなく「支配」というピーターソンの訳語は、もっと大きな意味を持ちます。国王が権勢を振るい、大衆が従属させられていた時代は、何世紀も前のはるか昔のことです。今は、民主主義、選ばれた政治家、人権、そして投票箱の時代です。

ではイエス様の言葉は、何を私たちに伝えているのでしょうか？ 人がイエス様に自分の人生の「主」になっていただくとき、そこには神の国があるということです。その日（イエス様の再臨の日）はやって来ます。私たちの主が、王の王、主の主として支配なさる時です。それから、神の国は最終的な姿を見せます。し

かしその時まで待たなくても、私たちは神の国を見いだすことができます。神の国はここにあります。神の国は今なのです！

イエス様の言葉をもう一度聞いてください。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」

バプテスマのヨハネ——神の国は近づいた。

イエス様——神の国はここにある！

それはありえるのでしょうか？

ナザレのイエスを批判したユダヤ人たちの主張はとても単純でした——彼は神の国をもたらししていると宣言したのに、それは起きていないではないか、というものです。イエスは間違っている。彼は救い主なんかじゃない。たとえ自分ではそうだと思っていなくても……。

どちらが間違っていたのでしょうか？ イエス様ですか、それとも批評家たちですか？

もしあなたが、神の国は権力、武力、勝利を意味すると理解しているなら、批評家たちが正しかったことになります。

しかし、もしあなたが神の国を、イエス様が山上の垂訓で説かれたように（霊的なもの、個人の心の中における神様の支配として）理解しているなら、イエス様が正しかったことになります。イエス様の生き方と働きを通して、神の国はこの地上に到来しました。イエス様はこの世界を変えられました。徹底的に変えられたのです。

しかし、それはありえるのでしょうか？ 「神の国」や「支配」に関するこのような話は、理にかなっているのでしょうか？ 山上の垂訓の中のイエス様の言葉に目を向けてください——心の貧しい人々、悲しむ人々、憐れみ深い人々、平和を実現する人々、迫害される人々。そして山上の垂訓の後半では、別の頬をも向けなさい、ローマの兵士に武器を運ぶように命じられたら協力しなさい……など。

これはどんな「神の国」なのでしょう？ 「神の国」や「支配」について、私たちは語るができるのでしょうか？

そんなに急がないでください！

マハトマ・ガンジーを忘れないでください。腰布をまとった小さな老人、大英帝国をひざまずかせた人です。同胞を解放するための彼の戦略、「サティヤグラハ」（字義的な意味は「真理の圧力」）は、イエス様の山上の垂訓での非暴力の教えから生まれました。

マーティン・ルーサー・キング博士を忘れないでください。アフリカ系アメリカ人の尊厳と公民権を獲得するための闘いを指導するうえで、キングはガンジーを模範にしました。インドのガンジーの仲間のように、キングの運動に参加した人々は叩かれ、蹴られ、こん棒で打たれ、唾をかけられ、踏まれ、投獄されました。究極の犠牲を払った人もいました。彼らは衝突の中で死んだのです。

しかしガンジーとその仲間のように、彼らは力の行使を放棄しました。叩かれ、打ちのめされても、彼らは抵抗しませんでした。彼らはひたすら、殴打、侮辱、不当行為を静かに耐えたのです。報復をしませでした。

イギリス人が荷造りをしてインドを、大英帝国の王冠の宝石である国を去る日がやって来ました。彼らは単純に諦めたのです。銃よりも、戦車よりも大きな力がこの日を勝ち取ったのでした。「サティヤグラハ」が勝利したのです。キング牧師の非暴力の運動も、アメリカで勝利の日を勝ち取りました。高压放水銃が丸腰の男女をなぎ倒し、残忍な犬が無防備な人を襲う光景をテレビが映し出したとき、白人の良心が目覚めたのです。それは耐え難いものになりました。何かが変革されねばなりませんでした。

変革は、議会が法律を制定するという形でもたらされました。人種で区別されたレストラン、人種で区別されたトイレ、人種で区別された学校——すべてが一掃されました。アメリカの基本的な人権（選挙権）が、たまたま黒い肌に生まれた国民にまで遂に広げられました。

イエス様——ガンジー——キング。

山上の垂訓は人々を弱虫にするものではありません。イエス様はご自分の弟子たち——神の国の召しを心に留める者たち——に、玄関マットになりなさい、とお命じになったものではありません。

もう一つの最近の例です。私がテレビをつけると、司会者のデイビッド・レタ

ーマンがマララ・ユスフザイにインタビューをしていました。なんと対照的なのでしょう——頭にスカーフ巻いた背の低い女性の脇に、背の高い、白いあごひげをはやした年配の男性。彼は彼女の上にそびえ立っているようでした。

しかし、インタビューが長々と進む中でおかしいことが起きました。19歳のほっそりした女の子が、だんだん大きく見えてきたのです。彼女はレターマンをまっすぐ見つめ、緊張や不安のかけらも見せません。レターマンの型破りな質問が時折彼女を困惑させますが、一瞬たりとも彼女は恐れを見せないのです。彼女の即答は、下準備がなかったにもかかわらず、率直で、賢く、力強いものでした。

自分の目で死を見た若い女性の答え、その働きによって別の銃弾が彼女の頭に向けられるリスクにさらされ続けている女性の答えです。

この若い女性は私を驚かせました。あらゆる場所での女子教育、児童婚からの少女たちの解放、神様のすべての娘たちの平等と機会に対する情熱を訴えているとき、私は飛び上がって、拍手を送りたい気持ちになりました。

マララは巨人であり、すばらしい人間です。ノーベル委員会は、誰もが欲しがるノーベル平和賞の受賞者とした17歳の彼女を選んだとき、すばらしい選択をしました。

私はそのインタビューに釘づけになりました。それは、ものすごく大きな女性とだんだん小さくなっていく司会者の番組、内容が濃く、励ましに富み、インスピレーションを与える番組でした。私にとって、その番組の最大の山場は終了間際に訪れました。レターマンがマララに、彼女の命を奪いかけた銃弾を撃った若者をどう思うかと尋ねたときです。彼女は静かに、彼を赦します、と言ったのです。「なぜなら、復讐は決してこの世界の傷を癒すことはありませんから」と。

私は、マララがナザレのイエスとどのようにつながっているのか知りません。しかし、彼女がクリスチャンであろうとなかろうと、彼女の人生と言葉によるすばらしい証には、湖のそばでのイエス様の説教の跡がにじみ出ています。

それではここで、歴史をちょっと振り返り、初期のキリスト教会を変質させた出来事を見てみましょう。その考察のためには、世界史の中の1人の人物に注目することになります。セブンスデー・アドベンチストにとって、彼の名前は聞き覚えのあるものです。その人物とは、ローマ皇帝コンスタンティヌス（西暦

280～337年) のことです。

神の国を盗んだ男

コンスタンティヌス大帝は、ローマ帝国を306年から337年まで治め、ローマ・カトリック教会とギリシア正教会では聖徒としてあがめられています。彼はキリスト教を最初に受け入れた皇帝でしたが、死に際まで洗礼を受けるのは待ちました。

セブンスター・アドベンチストは、コンスタンティヌスを非常に問題視しています。礼拝の日を聖書の安息日から日曜日（「尊ぶべき太陽の日」）に変更することにおいて、彼が重要な役割を担ったと見なすからです。

しかしコンスタンティヌス大帝のキリスト教に対する否定的な影響は、安息日と日曜日の問題をはるかに超えていました。彼によって、国と教会の結合、キリスト教国という致命的な結合が始まったのです。

かつてコンスタンティヌスは、彼が守護神と見なす「無敵の太陽神」の礼拝者でした。しかし312年、彼は宗教を変更するという劇的な経験をします。当時、彼は西方帝国の支配権をマクセンティウスと争っていました。マクセンティウスを撃つためイタリアへ進軍する前に、コンスタンティヌスは十字架の幻を空に見ます。ミルウィウス橋の戦いでマクセンティウスと対戦する前夜、彼は夢を見、その中ですべての兵卒の盾にキリストを表すモノグラム（組み合わせ文字）を付けるようにと命じられたのです。「キリスト」のギリシア語表記の二つの頭文字(X〔キ〕とP〔リ〕)を組み合わせたものでした。

コンスタンティヌスはマクセンティウスを打ち破りますが、その戦いは決定的なものでした。それ以降、コンスタンティヌスは、特別な意味で自分がキリスト教の神の導きの下にあると考えるようになりました。XPの組み合わせ文字に十字架を加えたものを自分の「軍旗」として採用し、その旗を彼に先立てて戦場へ行かせました。

イエス様の言葉と模範から、なんと離れてしまったことでしょうか。イエス様は捕らえられたときでさえ、天使の軍団を呼ぶことを拒否し、こう警告なさいした——「刀を使う人は刀で滅びる」（マタイ26：52、メッセージ・バイブル）と。

今やキリスト教（山上の垂訓の宗教）自身が、戦争を正当化するために兵を集めていました。

教会におけるこのような変化は、その性格を激変させました。単に変えたのではなく、奇怪な姿に変容させしまったのです。法王の権力と影響力が増すにつれて、教会は国家とますます同化していきました。キリスト教の長が、実質的に、他のヨーロッパの君主たちと共に統治者になったのです。ただし、法王はこの世の君主以上の存在でした。彼は、この世に対してのみならず、この世を超えたことにも影響を及ぼす、と主張していたからです。

アウグスティヌス（354～430年）と共に、キリスト教の変質は完成しました。この非常に優れた神学者は、彼の最高の書著である『神の国』の中で、イエス様が宣言された「天の国」はこの地上で実現される国であると論じました。教会がその勢力を広げ、その力がさらに遠くへ届くとき、神の国はこの世に来ると論じたのです。再臨は必要ありません。教会がそれを実現するからです。

確かに教会の権力と影響力は大きくなりました。しかし、それは山上の垂訓をあざけるような形においてでした。法王や高位聖職者たちが贅沢な生活を送る一方で、聖書を読むことを禁じられていた庶民は、恐れと無知と迷信の中、手探りで神様を尋ね求めたのです。

マルティン・ルターや他の改革者が登場する頃には、教会の腐敗と金次第の体質は悪化し、何かが起こらねばならなくなっていました。そして、その何かが起こったのです。爆弾のように、宗教改革がヨーロッパで起こりました。

ルター、カルバン、ノックス、ツウィングリーが多くの改革をもたらしました。しかし、キリスト教を1世紀の教えに戻すところまでは至りませんでした。アナバプテストを除いて、教会が国家と同盟するという考え方は続きました。ルターの改革もドイツ諸州を治める君主たちの庇護に頼っていました。国家の庇護を受けない教会というのは、彼にとって馴染みのない考えでした。

それゆえにルターは、農民たちが一揆を起こしたとき、最も醜く、激しい言葉を用いて彼らを非難し、国を支持したのです。「殺せ、不具にしろ、殺人せよ！」彼の言葉は、私たちの基準からするとあまりにも激しく乱暴で、身の毛がよだつほどです。

『各時代の争闘』の中でエレン・ホワイトによって称賛され、アドベンチストの伝承では英雄であるこの偉大な改革者が、なぜそのような態度を取りえたのでしょうか？ それは、コンスタンティヌスから始まったキリスト教国という考えのせいです。

長年の間、私は、「見よや十字架の」（英語では「進め、キリストのつわもの）」という賛美歌が好きでした。陽気な旋律で、嬉々として歌いました。

今はそうではありません。私は、「戦いに進め／キリストの十字架が先を行く」（英語の歌詞）といった言葉を口にする気持ちになれないのです。

その言葉が用いられたのではないにしても、その考えが、男、女、子どもを虐殺することに用いられました。法王に促されて、十字軍はイスラム教徒から聖地を取り返すために出陣しました。十字架の旗の下に進軍したのです。文字どおりに「イエスの十字架が先を行き」、彼らは十字架の旗印を掲げて行軍し、流血、殺人、強姦、略奪に染まった襲撃が続いたのです。

進め、キリストのつわもの？ 今日、私はその歴史を知っているので、その言葉に強い嫌悪を感じます。私は、アドベンチストがこの賛美歌の歴史を学び、礼拝からその賛美を排除してほしいと望んでいます。

イエス様に戻るべき時です。

山上の垂訓に戻るべき時です。

真のクリスチャン、真のアドベンチストになるべき時です。

アドベンチストと山上の垂訓

ここで私の個人的な話をするをお許しください。

それはずっと昔のことです。私は 18 歳で、朝鮮戦争の真ただ中でした。オーストラリアでは、政府がアメリカと同じような「徴兵制度」を取り入れたのです。いずれの男子も 18 歳になると登録され、98 日間の基本的なトレーニングを受けなければなりませんでした。

私はクリスチャンになったばかりでした。2年ほど前に、私はナザレのイエス愛するようになり、バプテスマを受けました。私は新人セブンスデー・アドベンチストで、教会の教えを研究し、イエス様に従うと主張する多くの教派の中で、

アドベンチスト教会の教えが新約聖書の教会の教えに一番近いという結論に達しました。

徴兵制の時代に、アドベンチストの掲げる教えは目立っていました。彼らは非戦闘を説いていたのです。信仰に入ってももない私は、その立場を取りました。しかし、アメリカでの状況とは異なり、ただ申請するだけでは非戦闘員になれません。裁判所に出廷して、自分の言い分を主張しなければなりません。他の誰も私の代わりに語ることを許されないのです。

裁判官の前で、私の真意を試す質問を私に浴びせかける検事を国は用意していました。彼は聖書を開き、「(神は) わたしの手を戦いに慣らされた」(サムエル記下 22 : 35、口語訳) という聖句を引用しました。とても厳しい経験でした。しかし最終的に、裁判官は非戦闘員の資格を私に与えてくれたのです。

夕刊紙はその審理に関する記事を掲載しました。

そして、私は新兵訓練に参加し、他の兵士と共に軍事訓練を受けたのですが、ライフル銃は持ちませんでした。グロイン軍曹は言いました。「ジョンソン、俺は何が何でもお前に銃を持たせるからな！」と。

数週間後、部隊長による閲兵のため、キャンプにいる全員が練兵場に集められました。練兵場にいる何百人もの兵士の中で、1人だけ銃を持っていませんでした。そして部隊長は軍曹に、私をそこから外すように、と命令したのです。

その日以来、私の日常業務は変わりました。もはや他の兵士と一緒に行進をしなくなりました。私は士官の食堂の雑役をするように命じられ、その後、軍の病院へ行って用務係として働きました。

遂に、孤独な試練は終わりを迎え、私は家に戻ったのです。

十代の私は内気で本の虫で、軍隊が大嫌いでした。キャンプでの土曜日には、聖書と安息日学校教課を持って森に行きました。日曜日の午前は、他の兵士たちは教会へ「行進」しましたが、私はキャンプの売店で雑用をしなければなりませんでした。

私には改心者の情熱、真の信者の熱心さがありました。

他の国々のアドベンチストの若者は、非戦闘の確信のためにもっと大変なことを経験しました。牢獄に入れられた人も、暴力を受けた人も、命を捧げた人もい

ます。

彼らと同様に私は、言葉と生き方において暴力を控えられたイエス様の足跡に従っていると感じました。今でもその確信を持ち続けています。

ですから私は、アメリカのアドベンチストの多くが私たちの運動のパイオニアから受け継いできた非戦闘員の立場を捨てるのを見て、困惑を感じます。今日、何千人ものアドベンチストの男女がアメリカ軍で働いています。彼らは自ら進んでそうしているのです。徴兵制度はないのですから……。

私は、このような青年たちの行動を問題視しているわけではありません。軍隊が多くの人に、教育と訓練を通じて彼らを向上させる機会を提供していることは間違いありません。彼らの勇気と国に対する献身に、私は敬意を表します。戦うか、戦わないか、銃を持つか、持たないか、それは個人の決断であり、私はそれを尊重します。

しかし、初期のアドベンチスト教会からのこのような変化——ヨーロッパのアドベンチスト教会では承認されていない変化——は、私を当惑させます。私たちは神の国の招きを他の領域においても手放してしまうのでしょうか？

この世の国と神の国

この世の国（社会）は主張します。

強い人々、高慢な人々、自己満足している人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

傷つきやすい人々、弱い人々は幸いである、と。なぜなら、神様が彼らのあらゆる充足感になってくださるからです。

この世の国は主張します。

「格好の良い」人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

打ちひしがれた人々は幸いである、と。なぜなら、イエス様に彼らの人生を支配していただく心構えができているからです。

この世の国は主張します。

自己主張の強い人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

自分自身を知り、ありのままの自分に満足している人々は幸いである、と。
この世の国は主張します。

多くの楽しみをたくさん得た人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

誰よりも、何よりも、イエス様を求める人々は幸いである、と。
この世の国は主張します。

激しい人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

親切な人々、優しい人々、思いやりのある人々は幸いである、と。
この世の国は主張します。

洗練されていて、賢く立ち回れる人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

内面の生活と外面の生活が調和している人々は幸いである、と。
この世の国は主張します。

強引な人々、勝ち組の人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

神様がすべての人の父であり、私たちが一つの家族であることを知っている人々は幸いである、と。

この世の国は主張します。

虚偽とごまかしで頂点に登りつめた人々は幸いである、と。

しかし、神の国は叫びます。

神様を愛し、どんな犠牲を払おうとも神様を第一にする人々は幸いである、と。

第9章

神様の愛、私たちの愛

さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。はっきり言っ

ておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。……

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。(ヨハネ 13：1～17、34、35)

主ご自身の口から語られた言葉がここにありますが——「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」
どれだけ**知っている**かではなく、どれだけ**愛している**かです。

これが真のキリスト教の基準です。これが本物のアドベンチスト教会のテストです。

このテストには、この本の中でこれまでに述べてきたあらゆること、偽りとは対照的な本物のすべてのしるしが含まれています。最終的な検査です。

私の教会では、なぜこのことがあまり聞かれないのでしょうか？ 私は不思議に思わざるをえません。もっとはっきり言えば、なぜ私はそのことについてほとんど説教せず、ほとんど書いてこなかったのでしょうか？

長年にわたる私の観察によれば、全般的にアドベンチストはイエス様について話したがりません。これは、私が福音派のクリスチャンから気づかされたことと著しく対照的です。彼らは自由に、恥ずかしげもなく、イエス様について語ります。しかし、私たちは堅く口を閉ざす傾向があります。

なぜでしょうか？

私はこのことにおける自分自身の弱点を告白します。アドベンチストの中でなら、私は主について自由に話すことができたのですが、前述のとおり、アドベンチストはそういうことをあまりしません。しかし、例えばレストランの中のように、他の人々が周りにいると、私はイエス様について語りませんでした。教会についてはどうでしょうか？ 問題ありません。他の友人についてはどうでしょうか？ 問題ありません。しかし、大の親友についてはどうでしょうか？ 沈黙し

てしまうのです。

私の大の親友であられるイエス様は、このことについてどう感じておられるでしょうか？

このことにおける私の口の重さが普通でなかったとは思いません。指導者たちの説教や記事について振り返るとき、イエス様に対する自分の愛を個人的に分かち合うことがなんと少ないことでしょう。教会についてはたくさん語ります。エレン・ホワイトのイエス様に関する引用文もよく使います。しかし、イエス様に対する愛の表明はどうでしょうか？ 沈黙です。

エレン・ホワイトが実践していたことと、なんと異なることでしょう。彼女はイエス様に対する愛を遠慮せずに、個人的に美しく表現しました。なぜ私たちは彼女のようになれないのでしょうか？

妻と私はシドニーの混み合っているレストランに座っていました。テーブルはそれぞれがとても近くに置かれていました。妻と私は、「ワン・プロジェクト」〔イエス様をすべてにしようとするアドベンチストの若者の運動〕の集まりで語るために来ていました。シドニーは極めて世俗的な町です。昔の私なら、もし誰かがレストランのテーブルでイエス様についてあからさまに話し始めたなら、心の内で身が縮む思いがしたことでしょう。周りの人々から変な人間だとか、熱狂的な信者だとか思われると、考えてしまうからです。

しかし妻と私は、イエス様についてあからさまに語り合い、主題をすぐに変えたり、声を低くしようとしたりせずにしゃべっていました。私たちを招いたロッド・ロングとザン・ロング夫妻は活発なクリスチャンで、「ワン・プロジェクト」の集まりでは重要な役割を果たしています。ザンは子どもの集会を担当し、ロッドは音響と映像の担当です。

私の実践を変えることができたのは、ザンやロッドのようなすばらしい人々に負うところが大きいのです。長い年月の後に、私は、イエス様によって舌を解かれ、自由に話せるようになった男のように感じています。

私にとって、その教訓はシンプルでした。イエス様に焦点を合わせるとき、私たちは自分の置かれている状況がどうであれ、イエス様についてためらうことなく語りたくなるのです。

一番大事なのはイエス様

今ここで、私はイエス様について書くつもりです。しかし、自分はその任務を行うには甚だしく不十分であると感じています。イエス様のすばらしさ——彼の優しさ、愛情深い思いやり、親切、同情、温かさ、常に変わらぬ憐れみなど——をいかにして紙の上の言葉に要約したらよいのでしょうか？ 私がイエス様を一番必要としているときに、彼は私のそば近くに来て、問題を解決してくださいませ。私を失望させず、私の愚かさ、一貫性のなさを厳しく叱責なさいませぬ。

イエス様の愛は、すばらしい愛です——私にとってすばらしいものです。他に何が言えるでしょうか？

イエス様を知る人々は——彼について単に知っているのではなく、**彼**を知っている人——は理解できるでしょう。私の言葉は、たとえ貧弱でも、彼らの魂の中で反響するでしょう。私にとってと同様、彼らにとっても、イエス様は谷のユリ、何もまして美しいお方、明けの明星だからです。

イエス様がすべて。

今もいつまでもすべて。

すべてなのです。

イエス様は愛です。その愛の中に私たちは愛を見いだします。隣人の心を包むようにイエス様の愛は私たちの心を広げます。イエス様の愛が中心にあるので、私たちは互いの心とつながります。私たちはイエス様に結びつけられ、互いにも結びつくのです。

初期の頃、異邦人たちは、イエス様に従う者たちがどれほど異なっているかに気づかざるをえませんでした。「このクリスチャンたちは、なんと互いに愛し合っていることか！」と、彼らは驚嘆しました。

イエス様がそうなるだろうとおっしゃったとおりでした。イエス様に従う者たちは互いに愛し合うことで、復活された主の愛のスタンプ、刻印を身に着けたのです。

次の一節を書きながら、私の心は最近の出来事で破裂しそうです。長く忘れ去られていた本の一節が、私の頭を駆け巡っています。

「これ以上多ければ
心は破裂してしまうにちがいない
だのにこれ以上少なくなれば
生きてゆけない」

妻と私は、カリフォルニア州の南東の山中で開催された教会の修養会でその週末を過ごしました。たぶん500名くらいの人が集まっていた——腕に抱かれている赤ちゃん、生き生きとした大勢の十代の若者たち、若い成人たち、さらには歩行器を使う高齢者まで。力強い説教、すばらしい音楽、おいしい食事、楽しみが詰まったその2日間は、私たちにとって一生の中で最も忘れがたい経験の一つになりました。

何がこの修養会を、これほど靈感と交わりにあふれたものにしたのでしょうか？ 私が思うに、それは、この週末の主催者がそのプログラムを開始する仕方でした。その主催者は参加者にこう求めたのです。「この週末の間ずっと、イエス様、イエス様、イエス様にしましょう。何をするにもイエス様。いつでもイエス様にしましょう」と。

そして、そうになりました。イエス様がすべてでした。

そのことが大きな違いをもたらしました。イエス様とその愛に焦点を合わせることで、私たちの心は温められ、見知らぬ人同士の間の氷は溶かされ、笑いと喜びが生まれるほど私たちは自由にされます。

イエス様に対する私たちの愛は、神学よりも歌で最もよく表現できます。

「鹿が谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ……」

「その人は私を宴の家に伴い、私の上に愛の旗を掲げてくれました……」

「キリストがすべて、隅の親石、弱き者も救い主の愛で強くされる……」

それからヨハネ13章へ。この章が愛について、神様の愛について何を語ろうとしているのかに注意しながら順番に見てゆきましょう。

この章はイエスの愛で始まり（1～17節）、人間同士の愛で終わっています（34、35節）。

イエス様の愛

「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」と、ヨハネは語ります。

英訳聖書で「最後まで愛された」と訳されている言葉は、原語では異なる意味でも理解できます。「最後」には、**時間**の意味ではなく、**程度**の意味もあります。N I V は後者の意味にとり、〔日本語訳と同じように〕「最大限に愛された」と訳しています。

私は、このギリシア語の理解が正しいと思っています。ヨハネがその直後に、弟子たちの足を洗われるイエス様の話を続けているからです。ヨハネは私たちに、イエス様の愛がどれほど大きいかを見なさい、と言っているのです。イエス様がその愛のゆえにどのようなことまでなされるのかを見なさい！——身を低くして、最も卑しい仕事さえなされるのだ、と。

その場面の中に私たちの身を置いてみましょう。人々は（靴下を履かずに）サンダルを履き、道は舗装されていません。ですから当然、短い距離を歩いただけでも足は汚れます。

誰かの家に着いたら、最初の務めはサンダルを脱ぎ、足を洗うことです。足を洗った後、その水は茶色になります。アドベンチストが洗足式で足を洗った後の水とは随分違います。

水は土ぼこりを洗い流すだけではありません。気持ちよいその冷たさで疲れた足をリフレッシュします。

ローマ帝国のあらゆる場所で、奴隷はあたりまえの存在でした。奴隷はさまざまな仕事をしますが、来客の足を洗うことはその仕事には含まれていませんでした。**しかしイエス様は弟子たちの足を洗われたのです。**その場面の意味がわかり始めたでしょうか？ イエス様はひざまずき、その家の奴隷でさえしなくてよい仕事をなさったのです。

イエス様はご自分の手を汚されました。もし私たちが彼に従う者であると主張するのであれば、私たちは同じようにしなければなりません。私たちは、「立派」

ではない人、打ちひしがれている人、見てくれが悪く、悪臭のする人、路上生活を
する人、病気の人、牢獄にいる人たちに仕えるのです。彼らに仕えることで、
私たちはイエス様にお仕えするのです（マタイ 25：31～46）。

後世の、いわゆる弟子たちが取った行動の態度とは、どれほどかけ離れている
ことでしょうか！ 司祭、高位聖職者、法王たちは、贅沢に暮らし、司教の豪邸を
建て、絵画や彫刻といった宝物をため込み、彼らの権威を維持するために神様か
らの支持を求め、人々を永遠の刑罰という恐怖の人質にしていました。

イエス様は言われました。「誰でも偉大になりたい者は僕になりなさい。誰で
も一番になりたい者は奴隷になりなさい。これが人の子のしたことです。人の子
は仕えられるためにではなく、仕えるために来ました。人質になっている多くの
人を解放するために、その命を差し出したのです」（マタイ 10：43～45、メ
ッセージ・バイブル）。

権力に訴えることも、地位を見せびらかすこともありません。

これがイエス様の語られたことです。

これがイエス様のなさったことです。

イエス様は彼らの足を洗われました。

アドベンチストのみなさん、聞いていますか？

前掛けを外し、椅子に座った後、イエス様は 12 人に言われました。「主であり、
教師である私があなたがたの足を洗ったのなら、今やあなたがたも互いに足を洗
わねばなりません。私は模範を示しました。私がしたようにあなたがたもしな
さい」（ヨハネ 13：14、15、メッセージ・バイブル）。

セブンスデー・アドベンチストは、イエス様の言葉を文字どおりに理解する数
少ない教会の一つです。聖餐式の前に洗足式を行っています。それはシンプルで
美しい愛と謙虚さの行為です。愛の涙がしばしば自由に流れる時です。

しかし、再度この物語に目を向けてみましょう。そこにあるのは、イエス様が
模範を残されたということだけではありません。

預言的なしるし

イエス様がたらいを持ってペトロのところに来られたとき、ペトロは異議を唱

えました——「私の足を洗ったりなさらないでください、絶対に！」するとイエス様はお答えになりました。「もし私があなたの足を洗わないなら、あなたは私と関わりがなくなるのだよ」。イエス様のこの言葉の真意は何でしょうか？

英訳聖書NRSVはこの8節を、「私があなたを洗わなければ、あなたとは共有するものがない」と訳しています。レイモンド・ブラウンは、ヨハネによる福音書に関する彼のすばらしい注解書の中で、「もし私があなたを洗わないなら、私の遺産を受け取れないだろう」と訳しています。

ペトロはその意味がわかりません。「主よ、では足だけでなく、手も洗ってください！ 頭も洗ってください！」と、彼は叫びました。

ペトロは汚れた足にしか考えが及びませんが、イエス様はそれ以上のことを考えておられたのです。「一度洗った者は、足を除いて洗う必要はない。すべてがきれいなからだから」（10節、NRSV）と、イエス様はペトロにおっしゃいました。ユージン・ピーターソンは『メッセージ・バイブル』の中で、原文にはない言葉を挿入することでイエス様の真意を汲み取ろうとしています。「分かるかね、私が気にしているのは清さであって、衛生面のことではないのだよ」

この場面におけるイエス様の謎めいた言葉の背後には、何があるのでしょうか？ その答えのヒントは、ペトロに返されたイエス様のお答えの中にあると、私は思っています。「私がしていることは、今のあなたには理解できない。しかし後で、この意味がはっきりするだろう」（7節、メッセージ・バイブル）。

今ではなく、後で！

そして後で、そんなに後ではありませんが、12時間ほどして、都の門の外の十字架で、イエス様は突き刺されるのです。その時、イエス様は自分の衣を脱ぐのではなく、剥ぎ取られます。衣服をすべて剥ぎ取られ、空中に裸のまま晒されるのです。恥と嫌悪の対象です。

ガリラヤからイエス様に従ってきた女性たちもそこにいるでしょう。その裸を見つめないように、控えめに距離を取りながら立っています。

イエス様を処刑した兵士たちは彼の衣服を四つに分け、だれの所有物にするかくじを引いたと、愛する弟子ヨハネは記録しています（ヨハネ 19：23～25）。四つの部分とは、長い内着（キトン）、上着、帽子またはターバン、そして腰巻。

彼らはこれらをイエス様から剥ぎ取り、裸の体をさらしたのです。

それはローマの「正義」をはっきり示すものでした。極悪人にだけ用いられた十字架刑は残酷なものであり、公開の処刑でした。そのメッセージがおわかりになりますか？ 王になろうなどと考えるなら、予想される結末はこれだ、ということですよ！ 我々は想像できる限り最悪の方法でお前を殺すだろう。衆人環視の中、残酷で、痛みを伴い、恥ずかしい最期を迎えることになるのだ……。

ヘブライ人への手紙の著者は、私たちの主は「恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍（ば）……れたのです」（ヘブライ 12：2）と書いています。イエス様は究極の恥を耐えてくださったのです。

それだけではありません。その十字架——恥と屈辱の象徴——が私たちの救いの道具となりました。

イエス様が死んでくださったので、私たちは生きています。

イエス様の屈辱を通して、私たちは自由の身になったのです。

このことはみな、十字架にかけられる前の木曜日の夜、イエス様がなされた行動と口にされた言葉の中にあらかじめ示されていました。イエス様のなされたことは、預言的なしるしであり、それは弟子たちの上に降りかかろうとしている重大な出来事を指し示していたのです。

究極の屈辱の前の屈辱。

究極の清めの前の清め。

私たちの愛

ヨハネ 13 章において、「イエス様の愛」から私たちの愛へ話が移ります。

「私は新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、愛し合うのです。それによって、あなたがたが私の弟子であることを、だれもが知るでしょう——あなたがたの相互の愛を彼らが見るときに」（34、35 節、メッセージ・バイブル）。

イエス様は別れの話（ヨハネ 14～17 章）の中でさらに 2 回、互いに愛し合いなさいという同じ教えを与えておられます（ヨハネ 15：12、17）。名詞や動詞の形の「愛」という言葉がこれらの章を埋め尽くしています。25 回ほど使わ

れています。いずれの場合も、「愛」に相当するギリシア語は「アガペー」です。それは、最高の形の愛、神様から始まってイエス様の弟子たちの関係に流れ込む愛です。

(第四福音書の著者であると私が考える) 愛する弟子ヨハネは、人生の晩年に初代教会のクリスチャンに手紙を送りました。その中で三つの手紙が残りました。ヨハネの手紙一、二、三として私たちが知るものです。その中の一つ(ヨハネの手紙三)は、明らかに個人(ガイオ)に宛てられたもので、もう一つの手紙(ヨハネの手紙二)もそうかもしれません。ヨハネは自分のことを「長老」と呼んでいます。これらの手紙は彼の晩年に書かれました。

興味深いエピソードが教父ヒエロニムスから私たちに伝えられています。彼は一つの言い伝えを詳しく語っており、それは、年老いたヨハネがいつも同じメッセージをイエス様に従う者たちに話していたというものです。要約すれば、「幼い子らよ、互いに愛し合いなさい」というメッセージでした。

そのメッセージは、聖書の中にある三つの手紙の中でも繰り返されています。ヨハネの手紙一では 30 回、「愛」という言葉が動詞や名詞の形で使われています。4章全体は、ヨハネ 13:34、35に見いだされるイエス様の言葉について瞑想したものだとして理解できるかもしれません——「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」

私の人生において夕陽の影が着実に長くなるにつれ、私はこの愛する弟子の手紙にますます惹かれていく自分に気づきます。私はこれらの手紙についてあまり語ったり、書いたりしたことはないのですが、人生のこの時期になって、それらはキリストにある私の経験と共鳴します。イエス様に従う者として、私のいつもの主題が「幼い子らよ、互いに愛し合いなさい」であったと記憶されることは、うれしいにちがひありません。

しかし、互いに愛し合いなさいというイエス様の招きは、不思議に思える状況の中で述べられています。それは命令です。なぜでしょうか？ 愛は自由に与えられるものです。それは命令されて与えることのできるものではありません。

新しい掟

レビ 19：18 に、「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」と書かれています。愛しなさいという命令は、少なくともモーセと同じくらい古いのに、イエス様はなぜ新しい戒めと呼ばれたのでしょうか？

年を老いた使徒が助けを与えてくれます。

彼は言います。「私の親愛なる友よ、私は新しいことをここで書いていません。これは聖書の中で一番古い掟です。あなたがたは最初からそれを知っていました。あなたがたの聞いてきたメッセージには、いつもさりげなくそのことが触れられていました。その一方でこれは、キリストとあなたがたの双方において新しいもの、新しく作られたものです。闇が消え去り、真の光がすでに輝いているからです！」（1ヨハネ 2：7、8、メッセージ・バイブル）。

イエス様、イエス様が違いをもたらされたのです。愛の命令はイエス様そのものです。「アガペー」の愛がどのようなものであるかを、私たちはイエス様の中に、イエス様の中だけに見ることができます。イエス様は命じるだけでなく、それを**実践**なさいました。

レビ記のモーセの掟とイエス様の新しい掟との間には、もう一つの違いがあります。モーセは、自分たちの隣人を愛することについて語っていますが、イエス様はそのように語っておられません。イエス様が扱っておられるのは、彼に従う者たち間での愛です。もちろん、イエス様は私たちに、隣人を愛しなさい、彼らのために手を汚しなさいと招いておられます。まったくそのとおりです。しかし別れの話の中で、愛はイエス様と弟子たちに関するものでした。神様から流れ出る「アガペー」の愛は弟子たちを一つに結びつけ、世の人々を驚かすのです。

イエス様の愛と私たちの愛についての言葉によって、私たちは律法と服従に基礎を置く宗教を乗り越えました。私たちは新しい領域にいます。そこでは古い基準はもはや有効ではありません。石の板から心という肉の板へ、古い掟から新しい掟へ、チェックリストの履行から量りえないもの、つまり愛へ、私たちは移行したのです。彼らは十分に愛したと、誰が言えるのでしょうか？

古い契約には、十戒という戒めがありました。これらの戒めは神様の品性の写

しであり、いつも順守されなければなりません。新しい契約には新しい掟があります。イエス様であって新しいのです——「私が愛したように、互いに愛し合いなさい」

アドベンチストと厳しい検査

私たちはクリスチャンの歩みをどのように積み重ねてきたでしょうか？ 厳しい検査、愛のテストに合格できるでしょうか？

「はい」でもあり、「いいえ」でもあります。

一方では、アドベンチストはすばらしい交わりを持っています。その温かな抱擁から、私は恩恵を受けてきました。私も交わりが好きです。私が家族、友人との絆を切り、私の運命をアドベンチストへ委ねたとき、私は歓迎され、愛されました。

今でも変わりありません。

今でもその愛に感謝しています。

しかし……。

私たちはあまりにもしばしば、神様の建物に心の壁は必要としないのに、自分の建物で壁を築きます。「私たち」と「彼ら」を分けるのです。アドベンチストの交わりの中にあってもそうです。

私たちは自分自身を終末時代の民と考えています（それは良いことです）。しかし、あまりにもしばしば終末時代の陰謀説や妄想に飲み込まれ、仲間の信者を疑い、裁いてしまうのです。私たちは自らの行動でイエス様の掟を否定しています。

このような失敗と共に、私たちは排他的になる傾向があります。私たちは、この地上で神様が気を配っておられる民は自分たちだけであるかのように考え、行動します。

そうではありません。

神様は大きいのです。大きなお方なのです。

私たちは、イエス様が十字架に向かう直前に語られた内省的なたとえ話を読む必要があります。マタイ 25：31～46 です。このたとえ話は、自己陶醉と排他主義から私たちを抜け出させるでしょう。

愛は恐れを締め出す

セブンスデー・アドベンチストの中には、恐れが多すぎます。

・牧師、教師、指導者たちは、自分の思いを語るのを恐れています。それは職を失いたくないからです。

・子どもたちは教えられます。「あなたの小さな手ですることに注意しましょう。あなたの小さな足で行くところに注意しましょう。あなたの小さな目で見えるものに注意しましょう。天にはお父様がおられます」。あなたの小さな間違いを見つけようと見下ろしておられますよ、と。

・若者たちは、患難の時、終末の諸事件、カトリック教会の策略、死の法令などをひどく恐れています — 終末論が暴れ回っているのです！

・大人たちは、生涯を教会の中で過ごしても「確信が持てません」。

かつて私がイエス様の恵みについて説教したあと（その他の何について説教をすればよいのでしょうか？）、1人の高齢のご婦人が私に挨拶をするため、会衆席で待っておられました。その時の会話はこのようなものでした。

「私は86歳です。アドベンチストとして育ちました。アドベンチストの学校へ行き、ずっと教会に出席してきました。でも、私は自分の救いを確信したことがなかったのです。私は最終的に天国へ行けるのかどうか、わかりませんでした。

今日、私は生まれて初めて、イエス様が私を永遠にイエス様と共にいるようにしてくださいとわかりました。私はもう将来を恐れません。死ぬことも恐れません。ありがとうございました！」

セブンスデー・アドベンチストの中には恐れが多すぎます。

どんな恐れも手に負えません。

イエス様は、おびえ、心配している男女に向かって何度も何度も言われました — 「恐れるな」と。

今日もイエス様は言われます — 「恐れるな」と。

愛する弟子ヨハネはこう書いています。「愛には恐れ之余地がありません。健全な愛は恐れを消し去ります。恐れは有害なので、恐れに満ちた人生 — 死の恐れ、裁きの恐れ — は、まだ愛で完全にできあがっていない人生なのです」（1

ヨハネ4：18、メッセージ・バイブル)。

愛と「信仰の大要」

ここまでで読者の中には、教理はどうなのだろうか、教理はどのような位置を占めるのだろうか、と疑問に思う人がいるでしょう。「信仰の大要 28」はどのようなのでしょうか？

教理は、私たち個人にとっても、教会にとっても重要です。教理は、私たちが何者であるかを定義する助けになります。他の教派とどこが似ていて、どこが違っているのか——何が私たちを他のクリスチャンと区別するのか——を示してくれます。

私は「信仰の大要 28」を高く評価しています。1980年の世界総会本会議で「信仰の大要」が採用されたとき、私はその27の項目の作成に携わりました。その後、28番目の項目が作られ、2005年の本会議で付け加えられました。その責任——27の項目と28番目の項目の作成に関わったこと——は、私について何かを物語っています。私がこれらの大要を大切にしているということです。

私たちの中には、「信仰の大要」の必要性に疑問を抱いている人がいます。しかし私は、私たちの純粋な教えを、時折提案される他の教えと区別するうえで役に立つという「信仰の大要」の価値を体験で知りました。

何年も前に、私はテレビ番組ジョン・アンカーバーグ・ショーの生放送に出演して、敵対的な質問をたくさん投げかけられました。司会のアンカーバーグとゲストのウォルター・マーティンは、アドベンチストの出版物から拾い集めた厄介な引用文という武器で武装していました。彼らが持ち出すそれぞれの例に対して、「『信仰の大要』だけが公式な教理の理解です。個人が書いた考えは、私たちが信じていることとは**違えます**」と、私は答えました。

「信仰の大要」は重要なのですが、私たちはそれらを適切に用いるように注意しなければなりません。教理は私たちを救うことができません。イエス様だけがおできになります。もし私たちがイエス様の代わりに「信仰の大要」に焦点を合わせるなら、福音よりも律法と安息日を強調したパイオニアたちと同じ考え違いをするという危険を冒すことになります。若い牧師ワグナーとジョーンズは、エ

レン・ホワイトの支持を受け、主に用いられて私たちが正しい道へと戻したのです。

厳しい検査

もう一度、主の言葉を聞きましょう。

「世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」(ヨハネ 13：1)。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」(ヨハネ 13：34、35)。

第Ⅲ部

締めくくりの言葉

「そう、私は今、向かっています！ もうすぐ着きます！

私は給与を持参しているところなのです。

私はすべての人に、その働きに応じて十分に支払うでしょう。

私はAからZであり、最初にして最後であり、始めにして結びなのです」

(ヨハネの黙示録 22：12、13、メッセージ・バイブル)

第10章

2人の女性、二つの席

1955年12月1日、アラバマ州バーミングハムのバスの後部座席に座っていた1人の女性が逮捕され、拘留所に入れられました。その罪状は？ 彼女がバスの席を譲らなかったからです。

ローザ・パークスは黒人で、彼女の席を求めた乗客は白人でした。

席を譲らなかったことで、ローザ・パークスは社会に広く浸透していたアラバマの法を破ったのです。60年以上が経過して、彼女が罰を受けるにふさわしい違反者だったと考える人はほとんどいないでしょう。大多数のアメリカ人にとって、彼女のしたことは正しいかったです。ローザ・パークスはアメリカの英雄になりました。

2018年のアドベンチスト教会に話を進めます。女性牧師に授手札を授けることをやめようとする教団の行政者たちは、基本的な点において、ローザ・パークスが直面したのと同じ状況に置かれています。連続する3回の年次委員会の間、世界総会の指導者たちは、「不順守教団」を処罰しようと固く心に誓っているように見えます。2回失敗したにもかかわらず、あきらめようとしません。私たちの周りには、イエス様だけがもたらすことのできる希望を必死に求めている人々がいるのに……。私はこの時間とお金の間違った使い方に驚いています。

もし世界総会の指導者たちからの最近の提案が過半数の票を得るなら、これらの教団の指導者たちは、この教会の諸委員会での発言権と投票権をはく奪されるでしょう。

それはセブンスデー・アドベンチスト教会にとって新しい日となります。私たちは初期の時代から、個人の良心の自由を主ご自身によって与えられたものとして固く支持してきました。数えきれないほどの法廷で、私たちは宗教の自由を論じてきました。私たちはそのような立場を公にも、正式にも取ってきました――

アドベンチストのためだけでなく、私たちとは異なる宗教観を持っているものの、宗教の自由がおびやかされている人々のためにも。

もし、自分の良心に従っている教団の指導者たちを「罰する」提案が通るなら、すべてが変わるでしょう。私たちは、世界総会の指針よりも良心を優先したという理由で自らの立場を「罰する」という異常な立場に置かれることになるのです。

それはこの教会にとって悲しい日となります。

そのようなことが起きてはなりません。

そのようなことが起きないようにと、私は祈ります。

この重大な状況について、私の考えを述べさせてください。私は一つの声として——パシフィック教団は照準を当てられている教団の一つですが、その教団内に住む1人の信徒の声として——自分の考えを述べます。私は自分の発言をこの教団——私が安息日ごとに通い、什一や献金を捧げているアドベンチスト家族の一員——に限定します。

まず大きな声で明快に述べさせていただきたいのは、パシフィック教団に「反乱」など起きていないということです。

起きているとほのめかすことは、実に馬鹿げています。主の栄光とその使命のために、生活と奉仕は、静かに力強く前進しています。日々、病人は助けられ、癒されています。小学校、中学校、高校、大学は、子どもや若者たちを支援しています。安息日ごとに、神様の言葉が牧師たちによって宣べ伝えられ、その多くは女性なのです。

主はパシフィック教団を祝福してこられました。ここには教会の最初の機関であるロマリダ大学と医療センターがあります。「ロマリダ」という名前は、その教育、医療伝道、研究の質の高さで全世界に知られています。

しかし、ロマリダ大学健康事業団（LLUH）の働きは、ここだけに見られるものではありません。非営利のアドベンチスト健康機構は、西海岸とハワイの80以上の地域社会で奉仕しています。アドベンチストの伝統と価値に基づいて、アドベンチスト健康機構は、病院、クリニック、介護施設、ホスピス施設、そして田舎や都市の地域社会にある老人センターで治療や介護を提供しています。これら健康のプロ集団は、肉体的、精神的、霊的、社会的癒しに全人的焦点を合わ

せることで、アメリカのヘルスケアを変革しています。

私たちの教団の教育システムの中にも、この全人的焦点を見いだすことができます。その教育システムは、幼稚園から大学に至るまで、学生は単に知識を詰め込む頭脳以上の存在であると認識しています。

この教団には、すばらしい教授陣とすばらしいキャンパスを備えた一流の機関、ラ・シエラ大学があります。また、パシフィック・ユニオン・カレッジは、一世紀以上にわたってその教育で有名です。

その他、多くの病院、学校、機関など、列挙するには数が多すぎます。そのすべてが、多種多様な働きに専念しています。

この教団は経済的に豊かであり、忠実です。過去 40 年以上にわたって、48 億 8000 万ドル（約 5400 億円）の仕入が注意深く会計報告され、パシフィック教団から、世界総会も含む組織に、適切に提供されてきました。**数百万ドル**ではなく、**数十億ドル**です。

世界中のアドベンチスト教会の教団の中で、この数字に及ぶ教団が他にあるでしょうか？ これが「反乱を起こしている」教団だと思えるのでしょうか？ 馬鹿げています！

しかし、もし世界総会の指導者たちが懲罰的行為に固執し、2018 年秋の年次委員会で過半数の投票を得ることに成功するなら、この状況は変わるかもしれません。しかも劇的に……。

多分、多くの忠実なアドベンチスト教会員が立ち上がり、倫理的に擁護できない行動に異議を申し立てるでしょう。そして彼らは、その義憤を彼らが一番効果的だと思われる手段、お財布を通して表すでしょう。

世界総会財務部に送られる仕入が打撃を受けることは避けられません。多分、大打撃となるでしょう。もしそうなっても、それは反乱が原因ではありません。それは単純に、このアドベンチストたちがアメリカの長年にわたる原則「代表なくして課税なし」に従うからにすぎません。

尊敬を込めて、私は世界総会の指導者たちに助言します—— **金の卵を生むガチョウを殺してはなりません。**

私は強く勧めます—— どうかパシフィック教団のやりたいように、その使命を

果たさせてください。邪魔をしないでください。ここでは物事が順調に進んでいます。どうか滅茶苦茶にしないでください。

私は個人的に世界総会の役員たちを知っています。良い人々です。セブンスデー・アドベンチスト教会にとっての最善を考えて、長い間、熱心に働いてきた人々です。しかしどういうわけか、彼らは世界的なセブンスデー・アドベンチスト教会を一致させるためには、不順守教団を一系列に並べる必要があると思ひ込んだのです。

一致に対する彼らの熱意はよくわかります。私もその熱意を持っています。しかし、その一致を実現しようとする彼らの方法は完全に間違っていると、私は思うのです。その方法では一致を維持することもないばかりか、反対の効果をもたらすでしょう。それは結果的に不一致をもたらすでしょう。教会の体を砕き、主から託された使命に大変な痛手を負わず可能性があります。

ではこの状況の中で、世界総会の指導者たちは何をすべきなのでしょう？ すべきことは何もありません。主がパシフィック教団の男女を通してなさっておられる働きを混乱させるようなことを何もしないでください。私たちの働きを私たちだけでさせてください。教会員も牧師も、背信的だ、反抗的だと言われることにうんざりしています。私たちはそうではありません。

ここに住む私たちの多くにとって、女性牧師の按手礼は、ローザ・パークスがバスの中で彼女の席を譲るまいと心に決めたのと同じくらい、明確に倫理的問題です。私たちの良心を踏みにじらないでください。

どのような点において、女性牧師の按手は倫理問題なのでしょう？ 答えは単純です。それを理解するのに博士号は必要ありません。

教会のポリシーは、行政の立場に立つ者には按手礼が要求されると規定しています。しかし世界総会のポリシーは、按手礼を男性の聖職者に限定しており、そのために女性は教区の行政からも排除されています。その女性がどんなに有能で、適格であったとしても、性別の違いだけで、教会は目に見えない壁を設けているのです。

これは差別です——それ以外の言葉が見つかりません。

論理的にも神学的にも

倫理的な問題を超えて、懲戒処分提案は、論理的にも神学的にも意味をなしません。

アドベンチスト教会は、世界中にある13の支部から成り立っています。その中の少なくとも七つの支部では、女性たちがフルタイムで牧師の働きをしています。さらに、これら七つの支部のほとんどでは、彼女らが、その召しにふさわしいことを示したなら、「任命式」という特別な式で聖別されます。

しかし、注目してください。この「任命式」は、男性を聖別する「按手礼」と100パーセント同じなのです。唯一の違いは、男性のための儀式が「按手礼」と呼ばれ、女性のための儀式が「任命式」と呼ばれていることだけです。ここに問題の核心があります。私たちアドベンチストが信仰と実践の基準として受け止めている聖書は、按手と任命の間に何の違いも設けていません。ほんのわずかな違いさえないので。

按手は単に任命することを意味します。それ以上の意味はありません。

世界総会の指導者たちは、論理的にも神学的にも自分たちの首を絞めています。この点を一点の曇りもないものとし、パシフィック教団の役員が女性牧師を聖別する儀式を「任命式」と呼んだとしても、世界総会の指導者たちには文句を言える筋合いではありません。なぜなら、ポリシーは女性牧師が「任命されること」を認めているからです。

「任命」されたのであって、「按手」されたわけではありません。

しかし、聖書に基づけば、この二つの言葉は同じなのです。

これらの事実を踏まえるなら、「反乱」や「不順守」といった非難は完全的外れです。問題のすべては言葉の使い方——言葉だけなのです。

信じられません。アドベンチストは過去何年にもわたって、時間とお金を言葉遊びに費やしてきたのです。私たちはいつになったら現実に目を向け、滅びつつある、絶望的な男女を助ける使命に焦点を合わせるようになるのでしょうか？

すると、あなたはこう応じるかもしれません。もし按手と任命が入れ替え可能な言葉で、同じ儀式であるのなら、女性を牧師として聖別することに対して、「按

手」の代わりに無難な「任命」という言葉を単純に使わないのでしょうか？

答えはシンプルです。それは、世界総会のポリシーが聖書的でない区別を按手と任命の間に設け続けているからです。既に触れたように、それが「按手礼を受けた」人しか行政者として選ばれないように制約しているのです。

この混乱から抜け出す道は単純明快です。男性にも女性にも、すべての牧師に「按手」という言葉を使わなくするか、すべての牧師を「任命された」と呼ぶか、あるいは女性牧師に「任命」という言葉を使うのをやめて「按手」を使うかです。

煮詰めれば言葉を巡っての問題に、なぜこれほど大騒ぎしているのだろうか、あなたは不思議に思っていますか？ 私も思っています。

しかし、話はここで終わりません。最後にじっくり考えるべき点がもう一つあります。

世界教会の多くの教団は女性牧師を雇っていますが、どういう理由からか、世界総会の指導者たちは、女性に按手を行っている北アメリカ支部の二つの教団だけに焦点を合わせてきたように思えるのです。**しかし、中国はどうなのでしょう？**

中国では、アドベンチストの働きが大きく成長しています。そして、その働きは女性牧師によってなされており、彼女らの多くは按手礼を受けています。中国では、牧師を育成する神学院の運営を国家が監督しています。福音宣教に召された多くのアドベンチストの女性は、そのような神学院で訓練を受け、**そのコースの終了時に正式に按手礼を受けるのです。**

私は何を言っているのでしょうか？ 中国では、按手礼を受けた女性牧師たちの指導の下、アドベンチスト教会が豊かな実を結んでいるということです。

世界総会はなぜ、そのような「不順守」女性牧師たちを一行に並べようとしているのでしょうか？

答えは明らかだと思います。中国での働きを停止させる危険を冒すことになるからです。宣教命令は、女性牧師の働きが阻害されないことを求めています。

同じように、パシフィック教団における宣教命令も、女性牧師が彼女たちの召命の遂行を阻害しないことを求めています。

バブル

私は世界総会本部で 25 年間働きました。それは特権だと思いましたし、今もそう思っています。

しかし、あの高尚な雰囲気から離れて 11 年経った今、ある思いが私を悩ませています。世界総会は、ワシントンDC地区にある他の組織の本部も陥っている機能不全に陥ってしまっているのではないだろうか、という思いです。アメリカ議会のように……。

男性も女性も（多くは男性が）、アメリカ議会に選出されます。たぶんほとんどの議員が、国のために良いことをしようと望みながら首都にやって来ます。彼らは次第に、物事がどう動くのかを学びます。権力のレバー、組織、システムの鍵である委員会。彼らは長時間を費やして、終わりのない議論に参加します。

そして、ゆっくりと何かが彼らに起きます。ワシントンDCは、特に春が美しい町です（7月と8月の天候は別です！）。権力の廊下や、職務室がもたらす名声に彼らは誘惑されます。

ワシントンとその力学が彼らの考え方や生き方を占領します。彼らの多くは、引退したり、落選したりするとそこに残り、高収入のロビイストやコンサルタントの仕事を探します。小さな田舎町は遠のき、目にも心にも留まらなくなります。彼らはワシントンのバブルを小さな田舎町と交換したのです。

彼らがワシントンへ持って来た高い理想は、どこへ行ってしまったのでしょうか？ かつて彼らを動機づけた主体的な考えは、どうなったのでしょうか？ バブルの中の生活は、彼らの理想を知らぬ間に濾過してしまいました。彼らは、党の方針に従う人たちの話を聞くことに多くの時間を費やしたために、やがてバブルが、同じ声しか聞こえない残響室になってしまったのです。

ワシントンから離れて 11 年。今ここにいる私は、夜明け前のベッドの中で思うのです。同じようなことが世界総会で働く男女（特に男性たち）に起きているのではないかと……。

世界総会は私にとってバブルになってしまったのでしょうか？

私は知らぬ間に、同じ声しか聞こえない残響室の一部となってしまったのでし

ようか？

私は告白しなければなりません。認めるのはつらいことですが、その答えは、「はい」です。

この章で取り上げてきたこと——世界総会の指導者たちが陥ってしまった論理的、神学的泥沼——を考えると、彼らの考え方をバブルと反響室という観点から捉えなければ、どうして理解できるでしょうか？

2人の女性、二つの席

今後何十年かして、21世紀の北アメリカのセブンスデー・アドベンチスト教会を調べる研究者は、理解不能な何かを見いだすでしょう——**教会の公式な記録によれば、北アメリカ支部の一番大きな教区には教区長がいなかった！**

公式記録は『セブンスデー・アドベンチスト・イヤーズブック』に掲載されており、これは毎年編纂され、出版されています。そこには、すべての教会、すべての教団・教区、すべての総理・教区長、世界中の教会の働き人の名前が列挙されています。それを見れば、この教会に関する事実、基本的な事実が入手できます。ご想像どおり、とても厚い本です。

さて、2017年の『イヤーズブック』を手にとって、南東カリフォルニア教区のデータを調べてください。教会員数、氏名、機関などは見つかります。でも、教区長の名前を探すと、何がみつかりますか。教区長の欄が空欄なのです。

教会の正式な権威ある記録、『イヤーズブック』によれば、南東カリフォルニア教区には教区長がいません。（『イヤーズブック』によれば）2015年も2016年も、教区長がいませんでした。

しかし、南東カリフォルニア教区には教区長がいます。教区は成長していますし、経済的にも健全で、うまく導かれています。

その教区長であるロバーツ博士は、正式に招集された教区総会で大多数の教会員によって選出されました。

では、『イヤーズブック』については何と言えいいのでしょうか？

誤解を招く恐れがあると言うべきでしょうか？

不正確だと言うべきでしょうか？

嘘を記していると言うべきでしょうか？

この一見すると理解しがたい事実には、単純な、しかしとても明らかな理由があります。ロバーツ博士はサンドラ・ロバーツ博士、そう、女性なのです！

教区長の席が数年前に空いたとき、正式に招集された教区総会の代議員たちは、この働きに最もふさわしいと、当時、教区の総務局長であったサンドラ・ロバーツ博士を選んだのでした。

世界総会のポリシーは、教区長を務めるには按手礼を受けていなければならない、と規定しています。ロバーツ博士は按手礼を受けましたが、世界総会の指導者たちはそれを認めませんでした。そこで、彼女の名前は公的な記録に記載されていないのです。

この世界総会の決定はどうでしょうか？ どう呼べばいいのでしょうか？

狭量？

報復的？

乱暴？

差別的？

あなたが決めてください。

伝道の働きにおける、長く、悲しいアドベンチストの女性たちの物語は、誰にでも理解できることに要約可能です——2人の女性、二つの席。

最初の女性はローザ・パークスでした。彼女は逮捕され、拘留所に入れられました。アラバマの州法を犯したと見なされたからです。

彼女は黒人なので、バスの席を認められませんでした。2人目の女性が、サンドラ・ロバーツです。彼女は南東カリフォルニア教区のアドベンチスト教会の教会員によって選ばれました。彼女が年次委員会に出席するためにアドベンチスト教会の世界総会へ行くと、他の教区長のように認められません。サンドラ・ロバーツはテーブルの席に着くことができません。なぜなら、彼女が女性だからです。

妻のノエリーンと私は、南東カリフォルニア教区で引退生活を送っています。この教区事務所を通して、毎月什一をお返ししています。

什一献金を捧げる忠実なセブンスデー・アドベンチスト教会の教会員として、私たちはこの基本的な不正行為、私たちの教区長に対する差別的扱いに異議を申

し立てます。

この基本的道徳規範の否定は、ポリシーが暴走し、倫理に反して用いられている事例です。

これは、本物のアドベンチスト教会の否定です。

私たち夫婦は、しばらくの間、不思議に思っていました。なぜアメリカで一番大きな教区の教会員が立ち上がりず、このあからさまな不正行為が正されるようにすぐ行動しないのだろうか。

ようやく私たちはその答えを見いだしました。**それは、生涯にわたって忠実で善良な多くのアドベンチストにとって、世界総会の決議はもはや大した意味がないからです。世界総会の指導者たちが投票で何を決定しようと、決定しまいと、わら 1 本ほどの変化さえ生み出さないということです。**

彼らにとって、世界総会は重要でなくなってしまいました。

このような気づきは、私たち夫婦にとってひどく悲しいものでした。このことと共に、いくつかの事実がほかに浮かび上がりました。シルバースプリングの指導者たちに重く受け止めてほしいと、私が願い、祈っている事実です。

第一に、世界総会は、パシフィック教団が世界総会を必要としている以上にパシフィック教団を必要としているということ。たとえ何らかの事情によって世界総会がなくなっても、パシフィック教団のセブンスデー・アドベンチスト教会は（減るにしても）存続し続けます。しかし、もしパシフィック教団がなくなってしまうなら、世界総会は壊滅的影響を受けるでしょう。

第二に、教会は自発的な集団であるということ。教会には、強要や強制があってはなりません。私たちはプロテスタントです！ 私たちの伝統は、マルティン・ルターの宗教改革にまでさかのぼります。私たちは、アドベンチストの運動が偉大な宗教改革運動の後継者であると明言してきました。そのような背景の中で、「懲罰」という話は、完全に場違いです。それはアドベンチストの語彙の中にはない言葉です。いまわしい言葉です。

私がこのような思いを書くのは、怒りからではなく、愛からです。敵意からではなく、悲しみからです。場所によっては私の言葉が歓迎されるだろうなどと思うほど、私は無邪気ではありません。たとえそうだとしても、私のボスは主です。

私のために命を捧げてくださったお方です。何にも増して、私は彼の目に正しいことをしたいと願っています。

最近、私は、ある人と会話しました。私が大いに尊敬し、愛している人で、今は引退しています。この本のたいていの読者が知っているこの兄弟は、教会での長い働きを通して、その揺るぎない誠実さ、勇気、はっきり言うべき時にはっきり言うことで高く評価されてきました。かつてこの男性は、もう少しの票で世界のセブンスデー・アドベンチスト教会を導く総理に選ばれるところでした。

この指導者も、私と同じように、教会内の現在の動向にひどく困惑しています。特に、世界総会の指導者たちが、いわゆる不順守教団を「罰すること」に執着していることに困惑しているのです。電話でのある会話の中で、彼は私に質問を投げかけました。その質問は今でも私の耳の中で鳴り響いています。

「ウィリアム兄弟、一つのことを私に説明してほしいのだ。世界総会の行政者で、現在起きていることを知っている者は、なぜはっきり言わないのだろうか？ 彼らは知っているのに、なぜ沈黙を続けているのだろうか？」

本当にそのとおりです。

最後の言葉

年次委員会での討議は間違いなく重要なものですが、この本はそこで終わってはなりません。イエス様が最後の決定的な言葉でなければなりません。

イエス様はアルファです。あらゆる他のものよりも前に、彼は存在しておられました。イエス様は始めにおられ、イエス様ご自身が始めでした。イエス様は、始めも終わりもない、み言葉なのです。

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた」(ヨハネ 1 : 14)。

イエス様は天からこの地上に、光の帯を残しながら来られました。私たちはみな、広い青空にリボンのような白い飛行機雲を残して飛んで行くジェット機が好きです。その飛行機雲は、たとえどんなに明るくても、やがて薄くなり、ぼやけ、消えてなくなり、さも私たちが飛んでいなかったように元の青い空に戻ります。

しかしイエス様の残されたものは消えません。空がある限り、男性も女性もそれを見る目を持っている限り、イエス様によって残された聖なる跡は、花開き、輝くでしょう。何世紀が過ぎても、その光の痕跡はかすむことはありません。批評家の嘲りも、それを消し去ることはできませんし、目が悪すぎて認識できなくても、それを取り去ることはできません。

この光の痕跡を尺度にして、私たちは自分の人生を測ります。私たちの富や名声、知識や学位、業績や地位——これらはどれも物の数に入りません。

いつの日か、ジェット機も飛行機雲もなくなるでしょう。しかし、イエス様はいらっしゃいます。イエス様がすべてになります。

イエス様はオメガ。

イエス様は最後の決定的な言葉。

そして、その言葉は愛なのです。

本物のアドベンチスト教会 —イエス・キリストがすべて—

原題 : Authentic Adventism

発行日 2019年5月10日

[著者] ウィリアム・G・ジョンソン

[訳者] 宮本安喜

[原作版発行] Oak & Acom Publishing

[発行所] セブンスデー・アドベンチスト教団 牧師会
〒190-0011 立川市高松町 3-21-8

[印刷所] 株式会社プリントパック

ウィリアム・G・ジョンソン博士は、『私たちはどこに向かっているのか？——サン・アントニオ後のアドベンチスト教会』の続編として書かれた本書で、多くのアドベンチストが関心を寄せている問題に、率直かつ個人的に取り組んでいます。独特の恵みと配慮をもって、彼は私たちの注意を、希望であり、救い主であられるイエス・キリストにもう一度向けさせています。

神学者、教師、著者、編集者として、ウィリアム・ジョンソンは半世紀以上にわたり、セブンスデー・アドベンチストにとって類まれな声でした。思慮深く、キリストのような彼の態度は、教会の奉仕に捧げた一生を保証するものであり、何百もの論説や記事、20冊以上の本の中で実証されています。この本は、オーク&エイコーン社から出版される彼の2冊目の本です。



ウィリアム・ジョンソンはオーストラリア出身で、聖書学の博士号をヴァンダービルト大学で取得。1975年から1980年まで、アンドリュース大学神学院で新約学を教えました。

ジョンソン博士はアドベンチストの読者には、『アドベンチスト・レビュー』誌の編集長として最もよく知られており、1982年から2006年まで、その職責を務めました。その間、エレン・ホワイト・エステートの図書管理委員会の委員も務めています。彼はまた、生涯にわたって世界宗教の理解に興味を寄せ続けるとともに、世界総会副総理として異宗教間の関係作りにも励みました。彼は妻のノエリーンとカリフォルニア州ロマリダに住み、成人した子どもたち（娘のジュリー・ジョンソン、息子のテリー・ジョンソン、義理の娘のレニー）と2人のすばらしい孫娘を最大の喜びとしています。

生涯にわたる神学的な洞察と彼の愛する教会への奉仕から、ウィリアム・G・ジョンソンは、セブンスデー・アドベンチスト教会の将来とアイデンティティーに関する一連の洞察に富み、刺激的な考えを提供しています。私は、福音の核心を追及する彼の挑戦的な旅、活気と恵みにあふれたアドベンチスト教会を探求する刺激的な旅にあなたをご招待します。

ジョン・トーマス博士（ラ・シエラ大学ビジネス学部学部長）

イエス様中心で、時宜にかなったこの本を読み始めた読者は、途中で読むのをやめることが難しいと感じるでしょう。このような啓発的で刺激的な本が、切望されていました。本書は、ミレニアム世代が提起している問題に、発言の機会を与えています。冒頭でジョンソンは、読者に警告しています。「それでは乗車して、シートベルトを締めてください。あなたの人生の旅が始まります」。これ以上に真実な言葉はありません！

ロバート・ソーダーブロム医学博士（ロマリダ大学）



Authentic Adventism